

東北の風景をきく

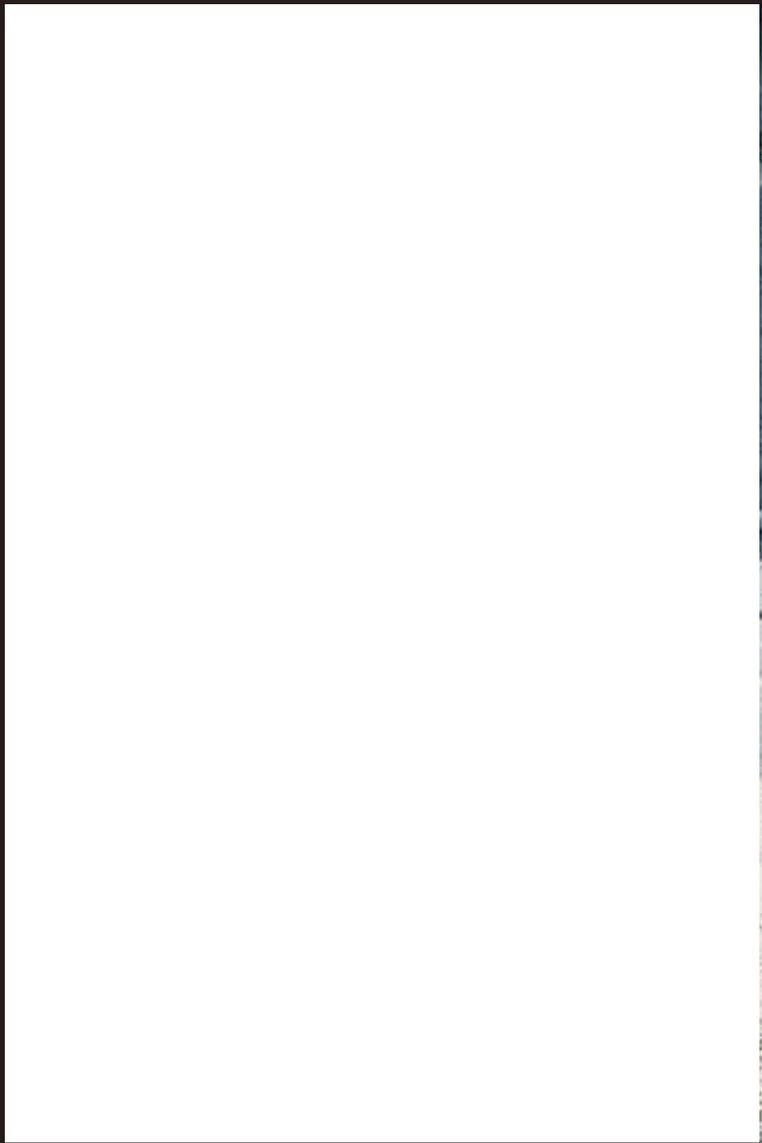
FIELD RECORDING

vol.03

ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO

特集・  
経験を受け渡す





特集.. 経験を受け渡す

## 震災から9年目の3・11を前に

嵩上げした地面の上に家や店舗が建ち、海沿いには防潮堤もできてきました。新たに敷いた線路を電車が走り、さまざまな公共施設が開館していく。物理的な復興で目指したものが落ち着き始め、目に見える震災の痕跡はなくなり、震災後の新しいまちの風景は日常になりつつあります。

その一方で変化の少ない風景のなかに、震災後の課題は静かに胎動を続けているようにも見えます。これまで以上に注意深く、目を凝らし、耳を澄ます必要がありそう。いま、東北の地では何がおきているのだろうか？

## 特集は「経験を受け渡す」

震災を体験していない人々と、どのように当時の経験を共有するか。そうした問題意識は、時間が経つほどに切実さを増しているように思います。次の世代やほかの土地の人々が同じ経験を繰り返さないために。あの時のことを忘れず、思い出せるようにするために。経験が語られるとき、それが受け渡されるきぎ手の存在が求められます。震災後の東北では、さまざまなきぎ手が、この地を訪れ、耳を傾け、ときに語り手となり、状況に伴走するようにこれまでの時間を過ごしてきました。いま、その関係性が変わっていくときなのかもしれません。

そこで今回は、現在と過去、異なる土地を歩き来しながら、経験の継承について考えてみました。

## 東北の風景をきく

2016年はインタビュー集『6年目の風景をきく』でも歩みを進めてきた方々の声を手がかりに、震災以降をふりかえりました。2017年に創刊したジャーナル『FIELD RECORDING』は変わりゆく震災後の東北のいまと、その先にふれたいと思います。

人に出会い、声と向き合い、土地の風景と出会い直す。そこから出来事を分かちもつ技術について考えたい。なぜなら、東北で起きていることは、

震災の経験に限らない「わたしたち」の「平時」と地続きだから。まずは、歩いて、その声を記録することからはじめます。

もくじ

Prologue

八巻寿文さんにきく「前編」

サークル／芸術／タブタブ論

08

Dialogue

『二重のまち／交代地のうたを編む』を見ながら

宮地尚子×宮下美穂

16

Production Notes

旅人を撮る

小森はるか

40

Conversation

復興を待ちながら 川内村と飯舘村を訪ねる

萩原雄太

52

小さな声、たくさん声

小川智紀

82

小川智紀 Twitter 2011 → 2017

92

東北からの表現 博物館として、震災遺産に向き合う

筑波匡介

148

わたしの東北の風景

160

編集後記 佐藤李青

168

参加者一覧

174

# 八巻寿文さん 「美術家・照明家」

## にきく——前編

### サークル／芸術／タップ論

構成 一川村庸子

### サークル

宮城県仙台市に広瀬川が流れているのだけれど、まちなかから歩いて行けるくらいのところV字の深い溪谷があるのね。東日本大震災を乗り越えて開業した地下鉄東西線の、山の上にある終点「八木山動物公園駅」と「青葉山駅」の間の地上区間で、竜の口橋りょうから一瞬、山が割れたように見える200mくらいの谷底。地層がむき出しで、探さなくても化石が見つかる、カスパール・ダーヴィット・フリードリヒの絵のような絶景なんだけど、毎日そこに通って1日過ごした時期がありました。

同じ美術家の仲間とふたり、待ち合わせるでもなく定めのように本当に毎日、1年くらい語り会って過ごしていたことがあるの。たぶん僕らは、自分の存在が不思議なのではなくて、自分を取り巻く世界のこと、不思議でならなかったのだと思う。

そうして『うぶすな美術研究会』という小さな勉強会を5年やりました。産土うぶすなとは何か、東北で何をつくるのか、自然と都市、東洋と西洋、障害者と健常者、身体性と合理性など、テーマはいろいろ。展覧会とフォーラムも何回か、本も3冊つくりました。「産土神」は、

里の鎮守の神様のことなのね、土地のシンボル。逆さにすると「土産」で、土地のものを加工して輸出できる。そこで僕は、動かない「産土」は「文化」で、「土産」は移動ができる「芸術」だと考えるようになった。「文化芸術」つてすらつと流さないで、分けて考えるようになったね。最後にパリでグループ展とフォーラムをやったあと、僕は自分の創作活動を封印しようと思った。翌年からせんだい演劇工房10|BOXを立ち上げるために、創作と同じチャンネルを使うと思ったから。だからいまも活動だけなの。

東北の風土なのか、自分の性格なのか、両方だと思うけれど、考えを積み重ねて結論を導くんじゃなくて、考えはずうーつと停滞したまま悶々として、そして悶絶の密度が濃いと、ポンツ！と考えが定まることがある。理屈じゃないから「真実のポイント」と呼んでいるのだけれど、あとからゆっくりと自分の言葉になっていく。かなり前から考えていたことに気づいて、びっくりすることもある。作為のない直観は真実の地下水脈でつながっている気がする。

2002年に10|BOXがスタートしたときから「10年後はサーカス学校になります」と話していました。何年たつても「10年後は……」つて言っていたけど。

サーカスつて、サークルなんですよ。その円のなかには、子供も大人も、障害者も、動物も、機械も、何でもかんでも入っていて、地続きでつながっているから互いがよく見える。そういう環境をつくりたかった。でもサークルはつくるもんじやない、生まれるものなんですよ。見つめると消える、盲点みたいなことだと思っうね。

## 芸術

高校時代は、何の疑問も持たずに西欧美術に触れ、特に印象派はその思考も背景も身近に感じながら、お箸でご飯を食べ、お風呂に入っていました。フランスに留学すると、日本で身にまわっていたはずの「西欧」が溶けて、消えてなくなり、小さな日本人の自分だけになった体験をしました。日本の美術について何も知らなかった。そこで「産土」という灯を頼りに考えてみて、気づいたことがあります。僕たちに影響を与えてくれた西欧美術は同居する育ての親であつて、産みの親のことは、知ろうとしなければ思ひ出すこともできない、ということ。このときの僕はいつの間にか自分の足場を見失っていて、産みの親に会いたかつたんだと思っうね。

明治時代に開国して入つてきた「アート」という概念を翻訳してつくられた言葉が「芸

術」だけど、じゃあそれまで日本に芸術はなかったのか……1年くらい頭を抱えて悩みました。そして僕なりにひねり出した答えは「芸術」という言葉が必要じゃなかったのではないかということなの。

芸術とは、絵画や彫刻の作品ばかりでなく、人間の本質に立ち返る行為のことだと考えています。芸術とは、人間的な広い概念でもあり、農民や職人など、さまざまな生業の営みの中にもあつて、崇高な神事から日々の暮らしの中にまで至るところに入り込んでいたのだろうと。つまり、日本人の自然観を基にした芸術というものが存在していた。とりわけ特別なものとしてあつたわけじゃなく、芸術と親和性のある暮らしがあつた、と思いたいんだよね。

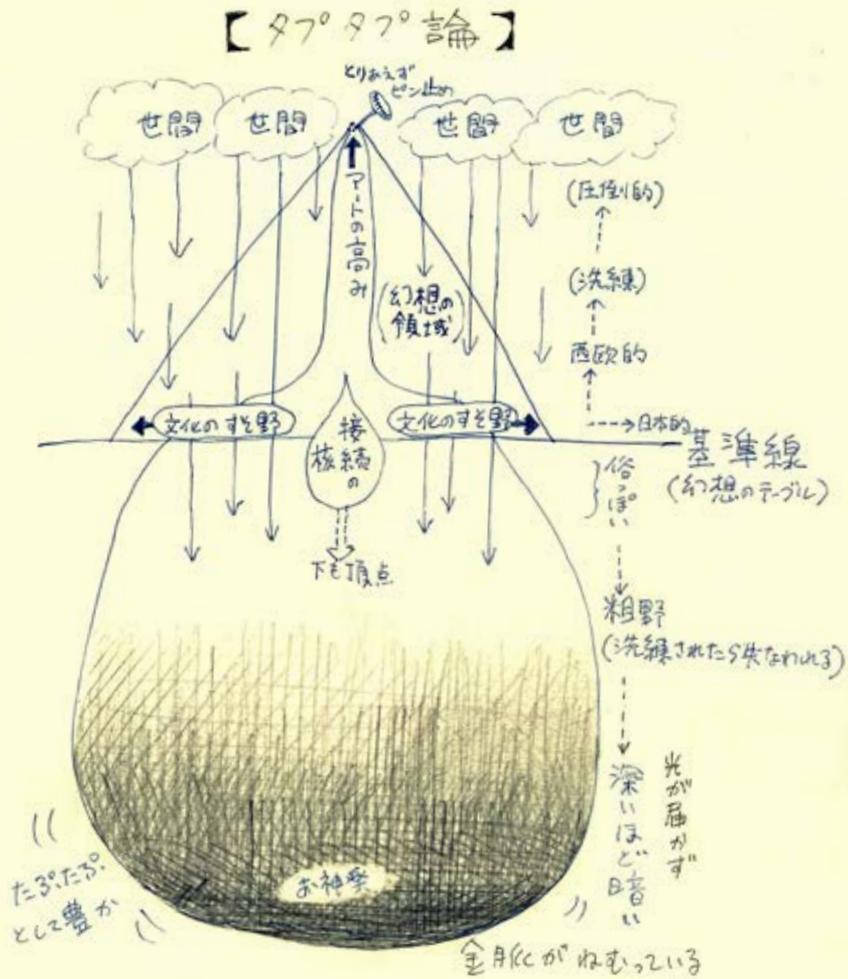
日本文化には、伝播性や永続性の高さ、受け身の世界観があると思います。それに対して、ヨーロッパの文化には構造的で独自性の高さ、合理的な世界観を感じます。

日本人は、文字を持たずに長く育んできた横軸の感性を持つけれど、一方で西欧の縦軸の精神性や価値観に憧れてきたと思います。割合はともかく、どちらの要素も持っているのが「いま」だと思います。

## タプタプ論

全国各地で「文化の裾野を広げましょう」という機運がある。これは良いことですよね。そのとき、文化のベースとなる基準線のようなものがあると考えて、そこから垂直方向に、上に向かって芸術の質を高める事業を仕掛けていく。すると芸術の頂点から、文化を底辺とした二等辺三角形の、豊かな空間が社会にできあがると、みんなが思い込んでいる節がある。でも現実には、三角形の稜線にあたる部分に「世間の重力」がかかって、押しつぶされるから、噴水のように出っ張った中心の柱と、低く広がった裾野しかないんですよ。しかも本当は基準線なんかなくて、むしろ重力に逆らわずに、下に豊かな地下水がタプタプと溜まっている。これが「タプタプ論」という僕の持論です。

このタプタプした部分の浅瀬には、よさこいやカラオケがあるんですよ。これを文化と呼んでいいのか迷うところからはじまって、下のほうに行けば行くほど、普通の人にはなかなか見つけられない場所がある。そこはもうほとんど闇なんだけど、僕はここで見つけたもののひとつに、お神楽があります。まだまだいっぱいあるはずなんだよねあ。



八巻寿文「美術家・照明家」

1956年宮城県仙台市生まれ、同市在住。高校卒業後、フランスへ留学。帰国後は、舞台照明の仕事をしながら画家として生活。自身の活動と並行しながら、仙台市民文化事業団職員として、せんだい演劇工房 10-BOX 工房長、せんだい3・11メモリアル交流館 館長を歴任。2001年日本照明家協会奨励賞受賞、2006年宮城県芸術選奨受賞。

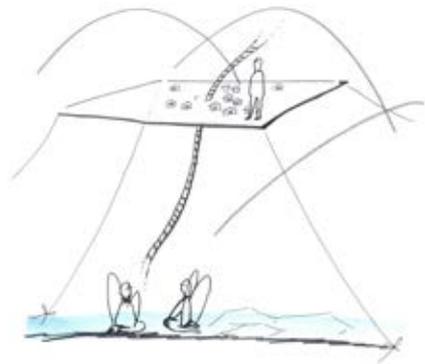
だから、芸術は上にあるんじゃないのよ。芸術が上にあると思っちゃうとしんどいんですよ。実は、芸術は下にあつて、そんなに構えるもんじゃない。

三角形は政治や経済が当てはまり、移動ができる、輸出も輸入もできるフレームで「土産」の領域。タプタプの領域は地域に根差して動かせない「産土」。基準線で二つ折りにして重ねれば良いと思いつつながら、僕は、このタプタプしたところを見えています。[3.11へ続く]

2019年2月3日 せんだい3.11メモリアル交流館にて



『二重のまち』  
交代地のうたを編む』とは



2011年、災害ボランティアをきっかけに活動をはじめたアートユニット・小森はるか+瀬尾夏美。2012年より3年間陸前高田に住まい、現在は仙台を拠点しながら制作を行っている。

映像作品『二重のまち／交代地のうたを編む』(79分／2019年)は、2018年9月、高上げ工事後に新しいまちの姿が見えはじめた岩手県陸前高田市に、震災時高校生以下の旅人4名が15日間滞在することで生まれた。まちの人の話をきき、歩き、対話を重ねる。そして、瀬尾夏美(アーティスト)が2015年に書いた、2031年の陸前高田を舞台にした春夏秋冬の四章からなる物語『二重のまち』の朗読を行う。その様子を小森はるか(映像作家)がカメラで捉えた。

制作—小森はるか+瀬尾夏美 出演—古田春花、米川幸リオン、坂井遥香、三浦碧空 作中テキスト—瀬尾夏美 撮影・編集—小森はるか、福原悠介 録音—福原悠介 録音・撮影助手—佐藤風子、森田具海 写真—森田具海、布田直志 制作進行—清水翼

瀬尾夏美(二重のまち)2015年

2018年9月、4名の旅人たちの小さな継承のはじまりを記録した小森はるか+瀬尾夏美による『二重のまち／交代地のうたを編む』。

これまで「当事者性」や「表現を通じた記憶の継承」について向き合ってきた、とさどぎユニット「地下水脈」の宮地尚子さん「精神科医」と宮下美穂さん「NPO法人アートフルアクション事務局長」に、この映像作品を見ながら感想を語り合ってもらいました。

宮地 すごく不思議な映像作品でしたね。シンプルだけど複雑、複雑なんだけどシンプル。バックに何か音楽が流れるわけでもなく、4人のわりと静かな若者たちがま

ちの人に話をきいて、自分の言葉で仲間やカメラに向かって静かに語る。その内面にはいろいろなものが渦巻いていて、映っている風景にもさまざまな変化があったんだろうけれど、水面はちよっと波立つ程度。その下に何かあるかということを考え出すと怖くなるけど、あえて水面レベルを映しているのが、見ていて非常におもしろかったですね。

一見、無駄に見えるようなショットにも実は意味があるだろうし、カタルシスのあるラストもないけれど、全体として何かとても伝わるものがありますね。

宮下 複雑ですよ。ある一面では、あの若者のなかにある優しさみたいなものに救

われるような気持ちがある。最後に旅人のひとりが大阪のまちを歩いているシーンがあったけれど、ある種の経験をしてしまうと、いままで見ていた日常がまったく違って見えてしまうみたいなのが平気で起こりますよね。そうやって、人は自分がなかなかの契機で変わっていくなかで、語りや振る舞い、ちょっとしたまなざしの交換を通じてほかの人に何かを伝えていくことを巡りながら、日々が動いているんだろいうなって。

あの旅人たちの優しさみたいなのが、次に渡されていく優しさになっていくみたいなと思いました。

### 空間座標軸が狂うような経験

宮地 わたしは震災の2か月後から仙台と南三陸に入って、それから、約2年ごとに定点観測的に行っているんですが、ちょうど先日、仙台の荒浜、閑上、石巻にある大川小学校、女川、南三陸をまわってききましたが、陸前高田と同じような光景が広がっていました。ここでは「二重のまち」と表現されていましたが、二重どころか何重にもあるようで、眩暈がするような感じが何度も覚えました。どこが地面かわからないんですよ。

人間って地面を基準点にして物事を見るし、進路や方向を決めます。「グラウンディング」という、地に足をつける、気持ち



Photo by Tomomi Morita

旅人として、震災当時高校生以下だった人を対象に出演者を募集。

春は古田春花さん(左から2番目)、夏に米川幸りオンさん(左)、秋に坂井遥香さん(右から2番目)、冬は三浦碧至さん(右)



2018年9月、ドローンから見下ろした陸前高田のまち

ちを落ち着ける方法がありますが、自分の立っている場所が揺らぐと、どこにグラウンディングしたらいいかわからないわけですよね。嵩上げた場所を基準点としたらいいのか、南三陸だったら、防災庁舎のようなくともと建物があったところなのか。津波が一番上がってきたところに見晴らし台をつくっているんですけど、そこから見下ろすと、ここより下は全部海のなかに沈んでいたんだということが見通せる。切り崩された山も防災庁舎も見えるし、その見通せる感が非常に怖くて、眩暈がして。

東京に戻ってきてからもしばらくその感覚が残っていて、その話を友だちにしたら、「空間座標軸が狂ったんだね」と言われたんです。そうか、空間座標軸というのはX

YZの3次元で、それが狂ってしまったのだなと腑に落ちました。

被災地に住んでいる方はそれをずっと経験していて、8年間そのなかにいて、しかも、数か月ごとに道路が変わって道がわからなくなってしまう。作品の最後のほうで「これを、愛せるときがくるだろうか（中略）彼らにとっては、この風景がかけがえないふるさとになる。それでいい、きつと」って、自分を納得させようとして言っているシーンがあつて、すごく切なくなりました。

たとえば、嵩上げは、本当は辛くてつらくてしようがないと思っている人もたくさんいるけれど、それを言い出すと、何で決まってしまったことをいちいちまた蒸し返

すんだみたくない険悪なムードになり兼ねない。

ほんのちよつとつづいたら、至るところにばあつといういろんなものが吹き出してしまふ現実のなかで、この作品は、小波がざわざわしているぐらいの表現にしたというのは、考える余白が生まれてよかったんじゃないでしょうか。

宮下 空間座標軸の話から考えると、「時間」ということがすごく大きな要素だと思いますね。

普通だったら、たとえばおじいちゃんが死んで、おばあちゃんが死んで、お父さんが死んで、お母さんが死んでと、人の死というのは順番があつて、ある程度予想がで

止まっている」と表現する人もたくさんいた。亡くなった人のことを思う行きつ戻りつする感覚のなかで、時間という存在が生きる上で大きな要素になっているのかなという気がします。

宮地 トラウマを受けた人というのは、時間がふたつできてしまうとされています。ひとつの時間はそのときで止まっています、もうひとつは、いま生き続けているこの時間。

そういう意味での二重性もあるかもしれませんね。

宮下 今回の映像作品には、旅人が参加したことで、旅人にとつても、旅人が訪ねた

きるものですよね。もちろん突発的な不幸もたくさん経験するわけだけど、でも、それはあるベースがあつて、そこにイレギュラーなものが出てくるような、比較的的理解しやすい流れのなかで人は時間を認識している。それはある安定感だったり、生きていくことに対する信頼感だったりするのかなと思うんだけど、それを予期せぬ大震災というかたちで断ち切られるというのは、時間が歪む出来事だったと思うんです。それが生きていく上での眩暈の原因かもしれない。

それは、決して納得できる時間ではない。でも、納得できないとしても、引き受けなければ前に進めないみたいなのが、あの当時いっぱい語られたし、「ずっと時間が

まちの人にとつても、自分が体験していない他者の経験が描かれることになる。まちの人の話をきいてしまったわたしは、異なる誰かと出会っていくなかで、経験していないことをどうやって理解するのか、どのように他者に伝えるのか、伝えうるのか？

そこに生まれる逡巡や恐れみたいなものは、すごく大切ですよ。そこには小さな機微がある。その小さな機微を均さないで、むしろその違いをよく見ていくととても複雑であることがわかる。その複雑さは整理することも分類することもできなくて、小さな機微のなかに、大きな、深い宙空のようなものを抱えて

宮下美穂さん



いくことになるのでしょうかね。

### 「当事者」をめぐる問い

宮地 「交代地」っていう言葉は、どこから思いついたんでしょうね。

宮下 どこからでしょうね。被災したまぢの人も当事者だけど、被災した人たちだけでなく、たとえばいまは別のところに住んでいるその土地の出身者や災禍に立ち会った医療者やボランティア……それぞれの立場での当事者性があるって、そのことについて問いかけてくれているような気がします。

宮地 確かに。阪神・淡路大震災で被災し

り、おもしろいことだったりするのではないかと思います。よその「交代地」からやってきて、いろいろ関係が生まれつつ、またそれぞれが次の「交代地」に行く、あるいは帰っていきたくないな。

宮地 やつぱり、地下が過去なんですかね。一番は嵩上げによるものだろうけど、もうちょっと別の軸で考えると、埋葬や土葬とか、そういう意味での死者の世界や、そこに対する追悼の念を感じます。

宮下 旅人のひとりから「思い出すことは下りていくこと」という、言葉も出てきましたよね。それは単純に嵩上げ前のまぢを思い出すフィジカルな表現ではなくて、時

た人たちが東日本大震災でボランティアに行きましたが、そのときに、自分もかつて被災者だったということを言う人もいれば言わない人もいて、言わない人は外からはわからないわけですよね。よそ者だから知らないとも限らなくて、ひよつとしたらわかりすぎるぐらいわかっている人もいるかもしれない。そこにもある種の交代というか、継承を感じましたね。

宮下 話をきくそれぞれの人の背景——経験や年齢によって受け取ることが違うこととってありますよね。そういう意味では、いろいろな人が「交代地」にやってくるということは、交代地の人にとっても、交代地を訪れる人にとっても大切なことだった

間を掘っていくような、内面に向かっているようなことなのかもしれない。

宮地 潜在意識や、語らないでいることも地下にありますね。

宮下 そうですね。旅人のひとりが、話をきいたまぢの人に亡くなった息子さんのことを尋ねることができなかった、そのお父さんが語らなかつた、語れなかつたということも描かれていました。

いままさに「交代地」が生まれているということなのでしょうね。きつと震災後すぐに、この作品はできないですもんね。20年後はまたそれぞれの状況が違うだろうし、いま、「交代地」という言葉を使った小森

さんと瀬尾さん。そして陸前高田の人たちの現在というものをリアリティをもって感じますね。

それは自分が体験していないことをどのように引き受けて、かかわっていかうかということ、しかも、こうした「表現」として現れ出てくるようなことへのかかわりは、出来事、物事を表層的に捉えるのではなく、それぞれの意味の本質を掴みとるためにも大切なことだなと思いました。

**宮地** 震災時に高校生以下だった人たちを対象に旅人を募ったというのも、非常に興味深いと思います。

最近、若手研究者と一緒に日本質的心理学会でシンポジウム(2019年9月

22日、シンポジストは、宮前良平・高原耕平・大門大朗)を行ったのですが、彼らも

阪神・淡路大震災のときに4歳とか、中学生だった人たちが、なんですね。そういう人たちが、いま阪神・淡路大震災の記憶の継承や分有について研究している、東日本大震災で写真洗浄のボランティアをきっかけに研究を行っている。当たり前だけど、ずいぶん時間が経ったなと。

彼らがいま何をやるうとしているのかというところ、カイ・T・エリクソンの『Everything in Its Path』という著書を翻訳することなんです。この本は、1972

年にアメリカのバッファロー・クリークでダムが決壊して、鉦山の小さな町が全滅して、125名の犠牲者が出た事故について、被災者の傷つきと喪失を描いたエスノグラフィーズです。個人的なトラウマだけでなく、ふるさとがなくなってしまうという集合的トラウマ(Collective Trauma)について書かれています。

もちろんすばらしい内容なのですが、それ以上に、若手研究者が東北の被災地に通って逡巡するなかで、もうほとんど忘れ去られていた本を見つけ出して、自分たちのフィールドワークの経験を咀嚼しようとしているというのが、とても興味深いなと思っています。

アメリカでは、2006年にハリケー

ン・カトリーナがあつたときに、その本が復刊されたんですね。被災者の方々が読んで、もうまさにそう！と評していて、アメリカで再び注目され、日本ではほとんど知られていなかった災害復興研究の古典なんです。

それを翻訳しながら、ああでもない、こうでもないと言いながら、自分たちの経験も少しずつ共有し、かつ深め合っていると思っていますよ。そうやって、あちこちで交代地が起きているんだろうなということも思いました。

**宮下** エリクソンの本は、参考事例としてだけではなくて、そういう地道なフィールドワークをしたということに、日本の若手



研究者らが励まされたりもするんでしょうね。しかも、それによってその3人が語り合うことができる、つまり交代地ができる。アーカイブというのは、自分とは直接関係のない情報をも、情念を排した「データ」として精緻に残していくイメージがありますが、この作品に出てくる旅人たちのように、ある時期、自分の人生を賭して何かに関わるということが、結果として重要な資産⇨アーカイブとなり、身近な人から出会うことのない遠くに住む人たち、未来の人々に手渡され、委ねられていくものだと考えると、それは人の営みのあり方としてとても大切だなと思います。何月何日誰が何をしたというようにとここで止まっていたら、次の人がそれを糧にして生きていくと

表せるものは全然違うなと思います。

宮下 そのときに、他者の痛みみたいなのをどのように考えるか、心を寄せるか、といったことが深まっていくといいですよね。だから、作品の中盤で、旅人たちが自分がきいてきた話を一人称で語る場面があることは、とても印象的でした。

誰かの話をきちんと理解することはなかなかできないし、文字通りの「理解」よりも、まず、生きているわたしたちがそこに淡々と恣意的にならずに、ただ居合わせるというところが、とても大切な気がします。そう考えると、出来事の記述のされ方や残し方は、人によって、出来事によって、多様になっ

ていくものかもしれないですね。という意味でのアーカイブとしては役に立たないかもしれない。旅人たちがここで奮闘して、あらゆるものに真摯に向き合っている、その営み自体が重要なアーカイブだ

なって。宮地 そういうところでずっと表現し続ける人がいるというのは、貴重ですよ。ものすごく深いところまで知ってなきや駄目か、それができないなら離れなさいみたいな考えがいま多い。だけど、そのどちらでもないところに居続けて、静かに考えたり、シンプルなお見えて複雑だという感覚を維持するのはとても大事。ただそのためには、言葉だけじゃやっぱり難しい。映像という形態で、カットや時間の流れとして

宮地 小学生や中学生、高校生のときに被災した子たちというのが、これからどういう言葉を発していくのか。この作品は何か引き出すものを持っているなと感じます。わたしもちよつと何か言ってみようかなという気になれそう。しかも、悲劇的な話だけじゃなくて、大変な状況のなかでも笑える話って結構あるから。旅人のひとりとして陸前高田の高校生たちが喋っているシーンも楽しそうだった。ああいう感じで、ぼろっ

と言えるっついでいいですね。アーカイブっていうと、どうしても公的な重い事柄ばかりが優先されて、少し息抜きができたり、あつたまつたりするようなささいなエピソードというのは消えてしま

わるというなと思いますね。

宮下 そういうもののなかにある細やかなエピソードが時を経て醸成されて、説話になっていくんでしょね。そうでないとぐつとこないもの。映画のなかに描かれている、お母さんが花植えを一生懸命やっている、お姉ちゃんも自分も上手じゃなくて、隣のおばさんが草を抜いてくれたみたいな話は、たわいもないことのように見えるけど、すごく大切なことで、本当に大変な出来事が起きたときに、その人を救ってくれるような経験でもあると思うんですよね。生きていくのに必要な、その人自身のアーカイブみたいな。

想像するということ、そのサイン

宮地 すさまじい体験をした子たちが、いまは普通にどこかの店員さんをやったりして、被災地から離れて就職したら、ますますそんな話をする機会はなくなりますよね。この作品のなかに出てきた息子さんを亡くしたお父さんもとても明るくて、知らないとならないなと改めて思いました。

宮下 そのときに、さっきの交代地から交代地に移るように、阪神・淡路大震災を経験した人が、東日本大震災を経験した人に對して、何かしらの理解や共感があるよという、サインみたいなものがあつたりするといいですよね。それは、具体的に手を差

宮地 「たわいもないこと」って、いい言葉ですよ。たわいもないことのアーカイブがあつたらいいなあ。

宮下 目の前で自分が住んでいるまちが流されていくということを、小学生や中学生のときに体験している子たちが、どうやって生きる土台みたいなものをもう一回つくり直していくのかというのは、想像を絶するほど大変なことですよ。そのときに、隣のおばさんが草取りしてくれたことが思い出されることもあるかもしれない。土台は、ひとりではつくりにくく、さまざまな人たちの営みや相互の関係、気候風土との相関のなかで育まれていくものなのでしょうね。

し伸ばなくても、ささいなアイコンタクトやうなずきかもしれない。そういうわかり得ないものを抱えた人がたくさんいるという認識をもつというのは、想像力の問題ですよ。

誰もが他者の話を、そんなに丁寧に聞けるような精神的状態にあるかどうかかわからないけれど、ちょっと席を譲り合うみたいなことが起きる背景には、やつぱり何かしらの想像力がないと成り立たない。柔らかな共感をもつた他者に対する想像力は、どうやってもち続けていられるんでしょうね。

宮地尚子さん(巻)



宮地 この作品では、朗読が重要でしたね。

宮下 ああ、朗読を通して、最後に自分の言葉を見出し出しているという感じがありましたね。

宮地 そうそう、この強さでいいのかな、この高さかな、このスピードかなというのを、朗読を通して確かめていますよね。その作業のなかでこれまで出会ったまちの人のことを思い返したり、風景を思い出したり、あるいは、やっぱりこれはこういう前提の物語なんだと、与えられた『二重のまち』を読んだ上で、それぞれが自分で血肉化している。

旅人のひとりが、自分と同世代の男子がいる家族にお邪魔するシーンがありましたよね。同じ年に生まれて、同じようなテレビを見て育って、同じ野球をやって。片方は被災して家が失くなって、もう片方は自分の好きな携帯の機種が震災の影響で入ってこなくてそのことばかりという記憶しかなくて。あの対話は、運命の皮肉さというか、不条理を鮮やかに示しているなと思いましたね。

宮下 旅人のひとりが、子供を亡くしたお

宮下 まちの人たちと出会ったことがそれを支えているんでしょうね。そして、15日間一緒に過ごした4人がそれぞれの場所にまた散っていく。互いに媒介者になっていたんじゃないでしょうか。

宮地 最後のシーンが大阪でしたが、特段きれいな風景ではないですよ、陸前高田で出てきた防潮堤や奇妙に角張ったまちの風景を想起させるし、山も見えない。そういう都会が、彼女にとってはかけがえのない場所だというのがすごくリアルでした。わたしたち現代人のふるさとがいろいろな人工物の上に成り立っていることに思い至るし、これを愛せるのかどうかということも考えさせられる。わたしたちは、つく

母さんから話をきいて、そのことをカメラに向かって報告しているときに、「わたしは母親になったことがないし、そういう気持ちをはわけることはできないんですけども逆にわたしが亡くなった子供だったら申し訳ないなっていうか(中略)」と語り出したシーンも印象的でした。そういうあり得ない場面に立つという想像し直しというか、自分と立場を入れ替えてみるような切実さに立たないと、見えてこないことというのはあるのかもしれないね。

宮地 『阪神大震災を記録しつづける会』の手記集を読んでも、子供を亡くしたお母さんたちの手記って、やっぱり、あのまま生きていたら子供がどう生きているか、

ものすごく細かく想像して書いているんですよね。そういう意味では、お母さんの気持ちや想像するには、亡くなった子供のことを想像するしかないのかもしれない。

ソナリー・デラニヤガラさんの『波』も手記ですね。2004年のスマトラ島沖地震当日から7年間のこのころの動きを描いた本で、同じようにやはり文章のなかで、亡くしたふたりの息子さんたちが成長していつているんですよ。海にシロナガスクジラを見に行くと、亡くなっている息子さんと対話をして、こういうふうに感じているだろうとか、こういうことを言うだろうみたいなことを、とてもリアルに描いています。

そういう意味では、立場を入れ替えると

回復していったという記録です。

これがキノコの正しい採り方の話が出てきたかと思うと、亡くなったパートナーとの深い思い出が出てきたりして、そういうことが矛盾なく一冊の本のなかで成立しているんですよ。

何が言いたいかというと、たぶん大切なものの喪失の克服というのはなかなかあり得なくても、もし「再生」があるとしたら、再びもとと同じところに戻るのではなくて、喪失のちのいろいろなことを経て、もしかしたら同じところに戻ってきたかに見えるかもしれないけど、そのとき立っている地面自体がもう既に大きく変わっているというような感じなのかなと。その旅は大きな痛みを伴いつつも、複雑で豊かなものが

いうよりも、生者の中にいる死者を呼び起こしているのかもしれないですね。

「再生」する力とは

宮下 つい最近『きのこのなぐさめ』という本を読みました。文化人類学を学んだマレーシアの女性が、交換留学先のノルウェーでパートナーに出会って結婚するんですよ。そうしたら、ある日、いつものように自転車で通勤したパートナーが、突然バタツと倒れて亡くなってしまふ。とても強く結ばれていた人が、ある日を境に急に原因不明で、さよならも言わずに亡くなるという絶望的な状況から、ふと参加した講座でキノコの世界に出会って、だんだんと

ある可能性もあるかもしれないなと思ったりして。

宮地 新しいことを学ぶということ自体が重要だし、誰かと一緒にやるということも大事だし、キノコ狩りは外に出なきゃいけないから、それもいいでしょうね。それに、キノコって毒があるから、結構スリルがあるじゃないですか。それに、やっぱり生命体だから、豊かな生態系があつて、その視点から世界の成り立ちを眺められるという意味でも、再生や回復に作用する感じがありますね。

宮下 彼女がキノコを見い出すことのできる彼女であつたということも大事だと

思うんですよ。今日の映像作品のなかで、「あんなに本が好きだったのに、震災後はフィクションを読めなくなってしまった」というまちの人の話がありましたよね。あまりに現実がすぎると、つまらないフィクションは読めなくなってしまう。そのバランスってすごいですよね。現実の絶対に耐えうる、対抗できるほどの強度のある物語を欲するという。

宮地 ものすごくリアルなノンフィクションか、現実からかけ離れたフィクション、もしくは抽象的な哲学書など、窮地に追い込まれたときに自分が何に頼るか、選択肢をもてる力を、それぞれが養っていられるといいですよ。

宮下 『きのこのなぐさめ』を読んで、もしかしたら亡くしたパートナーとどういう関係だったのかという、生きていたときの関係の在りようが、再生への導かれ方につながっていくのかもしれないと思ったんですよ。

でも、そういうふうになると、東日本大震災で、同じようにパートナーや親族を亡くした方々は、そんなこと言ってもらえないと思うかもしれないし、やっぱり非常に複雑ですよ。

宮地 ただ、やっぱりフィクションでしか表現し得ないことっていうのは、ある気がしますね。生々しくさえあれば伝わるかという、そうではないと思う。

この作品を2031年に見たら、どう見えるんでしょうね。いまやっていることがどういう意味を持つのか、何につながるのかというのは、そのときにはわからないことが多いけれど、何かをやる、特に誰かと共同作業を行うと、違いかたちでまたどこか遠くに伝播していくだろうなという感じがしました。

宮下 このあいだアメリカで、キノコの菌糸が地下で10km以上張り巡らされているのが発見されたという記事を読みました。ということとは、10km先でほかのものと影響し合っているわけですよ。その世界観ってすごい。

そうやって、作品も、作品じゃないもの

も、地下水脈のように、日々見えないところで、いろいろなものがいろいろなものとかかわり合いながら、ひとつの現象として立ち現れているというのは、なかなかおもしろいですよね。

2019年9月26日  
小金井市環境学習館にて

# 旅人を撮る

文 小森はるか [映像作家]

震災からまだ1年経っていない、わたしたちが東京から東北へと通っていた頃だろうか、瀬尾は東北に滞在している時間のことを「旅」と言うようになった。目的や行き先があるようではつきりとはない。ボランティアでも、取材や調査でもなく、人に会って話を聞きたい、その風景を目に焼き付けておきたい、という動き方をどう説明していいのかわからなかったが、旅という言葉は一番しっくりきた。

それは陸前高田に暮らすようになってからも変わらず、「旅人」としてここにいるのだという

ことを見失わないように、度々自分たちに言い聞かせていたことをよく覚えている。生活や人間関係が濃くなっていくほどに、暮らしながらも旅人であるということがわたしにとっては容易くなくなっていた。

それでもカメラを持つ時だけは、旅人の立ち位置に戻っていくような感覚があった。カメラ越しに覗く世界には、毎日見ている風景や人々の全く知らない表情が見えたとし、今は見ることできない震災前のまち並みや暮らしていた人々を想像することができるような気がした。遠く離れた誰かへ、カメラの前に流れていく時間が届くことを頭の片隅に思いながら撮影をしていると、心理的にも身体的にも現実との距離が生まれて、自分が半透明くらいの存在になっていく。その目線から見えるこのまちを記録することが、旅人としての役割なのかもしれないと思った。その役割に支えられて、撮影を続けてきた。

## 交代地のはじまり

7回忌を迎えた2017年3月11日。その翌月、新市街地の象徴となるショッピングモールが嵩上げ地にオープンし、震災後の暮らしに一つの節目が訪れた。震災前とも震災後とも似つかない、12mの高さまで土盛りされた新しいまちに立ってみると、足の裏で以前あった地面を感じ

ることは思っていたよりも難しかった。けれど、まちの風景が立体的になっていくことで、陸前高田の人たちの身体感覚としては、震災前のまちの記憶が現在と重なる瞬間が生活の中に増えたのではないかと思う。わたしたちが見ていたまちと陸前高田の人々の暮らすまちとが、その節目を境に少しずつずれていくような気がした。

そんな頃、はじめて陸前高田を訪れるという大阪出身の18歳の友人を案内する機会があった。今の風景しか見ていない彼の存在によって、わたしたちのよく知るまちの人たちから、これまでに一度も聞いたことのなかった話が語られ、その語り方や表情にいつもとは違う印象を受けた。

震災から7年の節目を経て表れた語りとの出会いは、『二重のまち／交代地のうたを編む』プロジェクトが動きだす一つのきっかけとなった。人工的につくられた新しいまちが、本物のまちの顔になってしまいう前に、その語りを記録したい。また、誰かの固有の経験が、語られることで他者に受け渡され、それを受け取った者の声や言葉で、また別の他者に受け渡そうとする「継承」を試みることに、この作品制作の軸となった。それには「わたしたちとは違う、聞き手となり語り手となる旅人が必要だ」と瀬尾は言った。

## 15日間の滞在制作

「旅人」という役割を引き受けてくれる人に出会うため、震災当時高校生以下だった人を対象に映像作品の出演者を募集した。震災当時子供であるなど自分は当事者ではない（と思っている）人、震災という出来事からできるだけ距離を感じている人を陸前高田に招きたいと瀬尾は考えていた。そして、話を聞いたり、まちを歩いたりする手掛かりとして、春夏秋冬の四章からなる『二重のまち』というこの土地で瀬尾が書いた物語を朗読することになった。

旅人には、春に古田春花さん（新潟県出身・在住）、夏に米川幸リオンさん（三重県出身、東京都在住）、秋に坂井遥香さん（群馬県出身、大阪府在住）、冬に三浦碧至さん（山形県出身、東京都在住）が選ばれた。彼らは俳優であったり、シンガーソングライターであったり、みな表現をする人たちだった。

いままで陸前高田の人々にカメラを向けてきたわたしは、旅人を撮ることになった。それはわたし自身が旅人の目で撮るのではなく、新たな旅人の目を借りて陸前高田を撮るということでもあった。『二重のまち』という未来の物語と、現実には「二重」になってしまったまちを訪ねる旅人たちの姿が結びつくことで、新しいまちの出現とともに見えなくなっていった何かカメラの

先に映し出されることへの期待を抱きながら、2018年9月1日、15日間の滞在制作が始まった。

### どこか似ている部分

今回の制作には、撮影班や現場進行、食事などの手伝いにも入れ替わりでスタッフが加わり、陸前高田の畳屋さんの工場を借りて15名ほどが一緒に滞在する合宿形式となった。その畳屋さんにはわたしたちがいつもお世話になっていた方で、『二重のまち』の冬の章の主人公のモデルとなった人。畳屋さんのご一家も一緒に、ぎゅうぎゅうになりながら囲む食卓は毎晩賑やかだった。撮影が終わったあとも濃密な時間が続く。そんな風に映像作品の中には登場しないけれど、皆さんの方々が支えてくれた。

15日間どのようなプロセスを踏むのかは、瀬尾が組み立てた。滞在の前半は旅人たちが陸前高田の人たちの話をひたすら聞くインプットの期間。わたしたちが聞き手になってしまわない距離を探りながら、最初の数日は集団で話を聞き、6日目からは『二重のまち』のモデルとなった人物と関係のある人たちのもとへ旅人たちが個別に話を聞きに行った。

4人がそれぞれに動き始めてからは、撮影班も2組にわかれて追うことになり、すべてが同時進行なのでカメラが同行できない現場も多々あった。なので、わたしが撮影した現場は一部ではないのだが、なかでも印象深かったのは、震災当時子供だった人たちにカメラを向けたことだった。

瀬尾が写真館で働いていたときに小学校の卒業アルバムの撮影で知り合った女子高生2人に、古田さんが会いに行くことになった。2人は現在、高校2年生。彼女たちより一つ歳下の古田さんが聞き手になることで、わたしははじめてこの世代の話を聞く機会を得た。

放課後、嵩上げ地にできたショッピングモールのカフェでお茶をしながら、3人は初対面にもかかわらず、好きなYouTuberが誰かとか、学校の授業や部活などの他愛もない話で盛り上がり、その会話の延長で小学3年生のときに経験した震災の話をしていた。2人は、「家も家族も失わなかったから、震災に対しての距離は新潟から来た古田さんとあんまり変わらないと思う」と語り、古田さんの「わからない」という立場に共感していた。そんな言葉が迷いもなく口に出たことに古田さんは驚いていて、彼女たちの話を聞いていくほどに、被災の渦中にいた子供の目は、身近な大人たちの行動や、まちな変化を一步引いて記憶しているのだと知った。

3人は、ショッピングモールの隣にある公園へ移動してから、ひととおりの遊具で遊んだ。もちろん高校生が遊ぶような遊具は一つもないのだけれど、そんなことは気にせずに終始笑い転げていた。陸前高田の高校生たちがこんなに笑っているところをわたしは見たことがなかった。そ

のあと、彼女たちは日が暮れるまで将来の話をしながら公園に残っている。他にも何人か同じようにずっと話している高校生たちがいて、ここしか彼らの行き場がないように感じた。新しいまちができる前はもつとなかったのだろう。

3人は互いのことを知らなくても、たとえ居場所がなくても、この場を思いっきり楽しんで、それは彼女たちが震災後に獲得してきたしなやかな生き方でもあるように思えた。そして、古田さんの「高校生としての顔」をはじめて見た撮影でもあった。2人の居方や振る舞いに古田さんの身体や表情がシンクロしていくというか、違うはずなのにどこか似ている部分が立ち現れていく。古田さんに限らず、旅人たちが人に出会い、話を聞いていく、その顔を追いかけていくと、相手と共通する立場や経験、感情が見つかったときの瞬間が光って見えた。彼らが陸前高田の人たちの抱える悲しみや人を思う気持ちに触れ、それを簡単に理解することはできないということに躓きつつも、互いに分かち合えそうな小さな接点を掴んでいる。それを見逃さないように撮りたいと思った。

## 移動する身体

話を聞く場とは別に、旅人たちが歩く撮影を行った。『二重のまち』の朗読をどのように撮影

するといいのだろう。読んでいる顔を写すのがよいのか、後ろ姿がよいのか、背景には何が見えているのがよいのかなどと考えていたのだが、なんとなく、朗読する声と4人がまちを歩く姿を重ねてみたいと思い始めていた。

物語に出てくる公園や防潮堤など、2015年の執筆当時にはなかったものが、たった数年の内に実際の風景となった。思っていたよりも早くやってきた未来の風景は、物語と重なることで2018年ではなく2031年のように、歩く旅人たちは、朗読する声の主体ではなく、物語の登場人物のように見えるかもしれない。それならば、陸前高田の風景を、記録ではなく物語の舞台として撮影してみたいと思ったのだ。

現実と物語との間を縫っていくような撮り方を考えたときに、『二重のまち』の登場人物たちのように土の下へ潜っていけない代わりに、できるだけ長い時間をかけて道を歩くことで、横につながっていくまちの風景を撮ってみようと思った。ロケーションは撮影班が決めて、どの道歩くか、どこまで歩いていくかは旅人たちに委ねた。古田さんはバスの車窓から見える風景と旅のはじまりの道、リオンくんは夜のまちに浮かぶ誰もいない道、坂井さんは嵩上げ前の地面と嵩上げの地面を結ぶ長い坂道、碧至くんは防潮堤の上でできた海とまちに平行する直線の道を歩いた。

人が歩くのを撮影することは、歩く側も撮る側も簡単そうで意外と難しい。目的地のわかって

いる道を歩く身体ではなく、旅をする身体を撮りたい。でもカメラが歩く人のリズムに追いつけなかったら、すぐにフレームアウトしてしまって、持続した歩きを撮ることができない。しかもレールやクレーンもない中でどう撮るかを試行錯誤した。

しかし、いざスタートしてみたら、旅人たちは撮られていることを意識しながらも自分のペースで気ままに歩き出し、その動きに右往左往しながら、撮影班も旅人の歩きに呼吸を合わせる移動の仕方を現場で編み出した。旅人の歩く速度や向かう方向をカメラマンに伝える人、カメラに映り込まない位置から旅人と並走して声や足音を拾う録音部、それぞれのパートの合図を頼りに、三脚を据えたり、手持ちに切り替えるタイミングを計った。わたしが一人で撮影していたら見えない角度から覗いたまぢが写った。ちぐはぐな風景の断片が「旅」という移動する身体によってつながっていくようだった。

### 変化する声、変化する物語

滞在の後半は、市内の施設を拠点に撮影をした。当事者が語るのではなく、他者の体験を聞いた者が語り継ぎ、役割を「交代」するのがこのプロジェクトの肝だった。旅人たちが「聞き手」から「語り手」になるためのプロセスを瀬尾がワークショップとして設計した。

4人が陸前高田の人たちと過ごす中で聞いた話を瀬尾に伝え、その中で出てきたエピソードを瀬尾が編集しテキストに書き留める。そのテキストを頼りに、他の3人に向かって語り直しをする。その対話をフィードバックし、固有名詞をそぎ落として完成したテキストを用いて、最後にカメラに向かって語り直しをする。この一連のワークショップを4日間かけて行った。旅人たちが語り直す際の聞き手を、人からカメラに移行することによって、伝える相手が一人ではなく無数となる。それによって浮き上がる「語り」そのものを記録するという意図があった。カメラに向かつて人が語る場合、アナウンサーや演説する人のように大勢の人に向けた語りを生むこともあるが、わたしたちが撮りたかったのは、誰かに話しかけながらもモノローグである語りであった。カメラの役割は、聞き手を不在にするのではなく、見えない聞き手をつくることだった。

ただ、正面から人の顔を撮影したことがなかったのでどう撮るべきか悩んだ。瀬尾と相談し、会議室ではなく劇場のような人の声や身体に集中できる空間の方がいいのではと、大きなホールを押さえた。ただ舞台上で何かを演じているような意味はもたせたくなかったし、一人の身体を撮るには会場が広すぎる。そこで、舞台幕でステージと客席をしきり、ステージ上の縦長の空間で撮影することになった。照明も調節できるし、背景となる舞台袖は黒く落ちて、密室すぎない、ちょうどよい空間が生まれた。

カメラに正対していながらも、カメラとのあいだに誰かがいるかのように、語る人とカメラの

距離を少し離してみた。ただ、結果的にカメラの存在を弱めてくれたのはテキストだったのではないかと思う。テキストには語りの全文が書かれているわけではなく、彼らはその続きを、記憶の中に潜って言葉を手繰り寄せながら発話するため、目の前のカメラに向かうことから自然と離れていった。語っていた人の顔や声をまぶたの裏に浮かべて語り直そうとすることで、陸前高田の人たちの体験や体験とともにある感情が、旅人の声、表情、身振りに投影されていくようだった。テキストをただ発話することとも、誰かを演じることも違う、自分でありながらも複数の人称が行ったり来たりする語りが、テキストと人とカメラとのあいだに生まれていた。

彼らのパーソナリティにも惹かれたが、同時に「俳優」として魅力的だと思った。自分の語る言葉の後ろには他者がいること、カメラの先にはまた別の他者がいることに対して、注意深くある人たちだった。わかりたいけどわからない、伝わらないかもしれないけれど伝えたい、その葛藤を抱えて生まれた表現には、いまここに見えないものを想像させる余白があると思った。

それは『二重のまち』の朗読にも現れていた。15日間のあいだに、朗読の声は毎日彼らの身体とともに変化していった。そして、最後に彼ら自身が物語をどう捉えたのか、物語の朗読をはじめるためのそれぞれの「語り出し」ができた。誰を思いながら読むのか、どの立場から読むのか、が定まったことで、一人称語りの物語が多数の人の声を抱えた物語へと、物語自体も変化していくように感じられた。映像の中では最後に収録した声を残すことにした。

### 物語の続き

撮影素材を見返しながら、旅人たちのいた15日間と、15日間を記録した映像は別物だと思った。実際に彼らの過ごした時間を記録しているのだが、別の時間軸を漂っているような存在に見えた。半年後、坂井さんが大阪のまちを歩いている姿を撮影しに行った。陸前高田にいたときは異なる顔つきで、異なる風景の中にいながらも、あの時と同じように旅をつづける身体がそこにはあった。

陸前高田を離れたあとも、どこかで暮らしながら、聞いた話を反芻し伝えようとする姿や、また別の誰かの話を聞き、違うまちを旅する姿が、15日間の記録の中にすでに写っていたのかもしれない。旅人という役を一つの層として抱えながら歩む4人を写した映像から、この物語の続きを、見終わったあとに思い浮かべることが観る人の中に起きるかもしれないと思う。



復興を待ちながら  
川内村と飯舘村を訪ねる



取材・文Ⅱ萩原雄太

写真Ⅱ岩根愛

2019年6月3日、かもめマシーン主宰の演出家・萩原雄太さんと一緒に福島県へ。県内各地で活動を行う、福島県立博物館学芸員の川延安直さんと小林めぐみさんのコーディネートで、川内村と飯舘村を訪れました。どちらも東京電力福島第一原子力発電所事故による全村避難の経験があり、村に帰る／帰らない、それぞれの選択をした人がいる地域。

いま、どのような人が、どのような想いで暮らしているのでしょうか？

最後に福島に足を運んだのは2013年だったと思う。別に「行かない」と決めていたわけではなかった。ただ、だからだと、足が向かないままに時間ばかりが過ぎ、気が付いたら6年が経っていた。

震災直後、『福島でゴドーを待ちながら』[\*]という作品を上演するためのリサーチとして、いわき市を中心に幾度となく足を運んだ。その作品を国道6号の路上で上演したのは2011年8月6日。その後も、何度か足を運ぶようにしていたけれども、その動機は「一度関わったのだから福島に足を運び続けるべきだ」という、自分の中にある義務感の

ようなものによるものだった。そして、それから逃れるために、こう考えたのかもしれない。福島は「終わった」場所である。

もちろん、何一つ終わっていない。

原発事故はいまだに収束しておらず、住んでいた場所に帰れない人は大勢いる。セシウム137の半減期は30年と言っていたはずだ。けれども、自分が関わりを持つ上で、あるいは、露悪的に言うならば「自分が作品をつくる上で」福島は終わった。

2019年、あるパーティの席で発せられた「復興以上に大事なのが議員」という失言——おそらく、当人にとってはちよつとしたジョークのつもりだったのだろう——によつて大臣が辞任した。その発言が明らかに不適切であることは言うまでもないが、どこか彼の失言を非難しきれない気持ちになったのは、東京に住んでいて、そして福島に関わりを持ってしまった僕の中にある、早くこの震災に区切りをつけてほしいという感情からだったと思う。いったい、いつになれば、「この震災」が「あの震災」になり、冗談にできるような「過去のこと」になってくれるのだろうか？

いわきに向かう常磐線の中で、一方的に「終わった」ことにしてきた罪悪感がぐるぐるする。



みんなを見返してやりたい

志賀風夏さんは、震災時には高校1年生だった。

いわき駅から山道を車で1時間半ほど、川内村にある詩人・草野心平によって寄贈された蔵書3000冊を収蔵する天山文庫の管理人を務める彼女は、いわゆる田舎っぼさを感じさせないどこか垢抜けた女性だった。震災後、親類の住んでいた鎌倉に一時避難するも、5月には通っていた相馬高校が再開されたことから相馬市内に住む。そして、福島大学卒業後に「狭くて住みにくい都会は嫌だ」と、川内村に戻ってきた。



志賀風夏さん



彼女が現在携わっているのが『川内コミュニティ会議未来プロジェクト』。このプロジェクトには、村内から5人ほど、村外から15人あまりが参加し、子供への教育をメインに、次の世代に川内の魅力をどのように伝えていくかを話し合っている。

「村外の人が発見してくれる川内の魅力に、村の人は気づいていないことが多いんです。例えば、川内には水道がなく全戸で井戸水を引いているのですが、そんな貴重な環境も村の人にとっては当たり前ではない。『何がそんなに珍しいの？』と思っているんです」

志賀さんの言葉には、この地域独特の訛りが無い。彼女の両親は、古民家への移住を目的に、京都から川内村へ移住してきた人々であり、おそらく両親からの影響がないからだろう。川内に移住してきた志賀さんの家には、彼女が幼い頃から村の外の人々が集っていた。そんな環境が、彼女に川内村が「魅力的な場所」であるという認識を植え付けていく。「他の場所から家に遊びに来た人たちから『こんなところに住めて羨ましいね』『こんな美味しい野菜を食べることができていいね』と言われながら育ったことで、私は、川内が自慢できる環境であるということを知ったんです。だから、田舎であることに對するコンプレックスがない。同級生の中には、田舎であることが嫌で、高校や大学を出ても帰ってこない人が多いですね。」

子供たちが川内村を愛せるようになるためには、まず、大人が川内村を愛せなければならぬ。そのため、このプロジェクトでは地域のイワナの生態系を学んだり、食文化について調べたり、大人たちが川内村の魅力を発見しています」

だが、そんな自慢すべき村は、「被災地」と呼ばれる場所が変わった。震災後、川内村の北東部は20km圏内に入り、村長判断により全村避難を行う。2012年以降、段階的に避難指示が解除され、2016年からは全域解除となっているものの、現在でも村の広報誌には毎月食べ物の放射線量一覧を掲載。「外で洗濯物を干さない」「村で採れたものを食べない」と決めている人も少なくないという。「震災後」は続いているのだ。

「私自身、いまだに『川内村の出身です』とは言いにくいですね。ただ、その理由は変わってきています。震災直後は、過剰に心配されるから言いたくないという気持ちだったけど、今では補償金の話題が絡むから。同じ福島県内でもその金額が異なるし、村の中でも20km圏内に住んでいた人とそうでない人でも異なる。圏内の人が支給されているお金から家を建て替えることもできるし、車も買うことができるけど、その外側にいる人に対しての補償金はゼロの数が違うんです。村の中では、揉めごとを避けるためにその話題はなるべく触れないようにしている。普通に生活しているように見えるけど、やはり気を使



ながら暮らしているんです」

初夏の心地いい風が吹き抜ける天山文庫で、志賀さんは、川内の未来への希望と、現在置かれている深刻な状況とを同時に語る。きっと、里山の美しい風景の中には初対面の部外者から受けるインタビューなどでは、言い表わせない複雑な状況が広がっているのだろう。では、そんな志賀さんは、いったい何をモチベーションにしながら活動を行っているのだろうか？

「福島の中でも高齢化率がいちばん高い川内は、もしかしたら私がおばあちゃんになった時に存続していかないかもしれない。何の魅力もなくて衰退していくなら仕方ないけれども、みんながこの村の魅力に気づかないままに衰退していくのはもったいない。よその人が来て、その魅力に気付いてくれたら、村民も、もっと川内のことを見直してくれるはず。」

私は川内が好きなんです。きっと、みんなを見返してやろうっていう根性なんです。よね(笑)」

志賀さんが見据える未来は「復興」の時間をはるかに越え、数十年先を見据えている。では、ほかの地域では、どのようなリアリティを抱えているのだろうか？ 川内村から車で1時間ほど北にある飯舘村に向かった。

## エゴマの栽培で地域を再生

川内村から飯舘村までは、ずっと阿武隈高地の中の道を走り続ける。とはいえ、急峻な山ではないため、整備された道を走っていると、山の中という感じはしない。日本全国のどこにでもあるような田舎の風景が広がる。

しかし、飯舘村に入ると「どこにでもある田舎の風景」は少しずつ変化していく。道路脇には積み上げられたフレコンバッグの山が目につき、おそらく空き家であろう家も多くなる。草が伸びきった畑からは「非常時」が感じられる。そして、そんな窓外の景色を見ながら、そこにある「非常時」を探そうとしている自分の視線が嫌になってくる。飯舘村には、まだ避難区域が残されていた。どこからが避難区域でどこからが避難区域でなかったのか、そんな情報はいつから追わなくなっていたのだろうか？

飯舘村は、東京電力福島第一原子力発電所事故によって、現在もその一部が帰宅困難区域に指定されている。村の大部分が原発から30 km以上離れた飯舘は、原発立地地域とは異なり、それまで原発の恩恵を受けずにいたが、事故当日の風向きなどの諸条件によって、





たまたま線量が高くなってしまったのだ。かつては、「日本で最も美しい村連合」に入るほど熱心に村づくりをしてきた地域は、事故直後、全村避難に追い込まれてしまった。

大久保・外内地区で生活する長正増夫ながしょうまふさんは避難生活から2年半前に飯館村に戻ってきた。挨拶もそこそこに、長正さんはエゴマやキビなどの雑穀類の栽培方法や、「絞り方によっても違う」というエゴマの精油方法について教えてくれた。うっかりすると農家と勘違いしてしまいそうだが、震災以前、彼は役場に勤務し、副村長も務めた経験を持つ人物だという。とはいえ「仕事も趣味みたいなものだった」と笑う彼にとって、エゴマを育てることと、副村長として働くことの間には本質的な違いはなさそうだ。

なかでも、長正さんが最も長い時間をかけて関わってきたのが飯館牛のブランド化。夏でも「やませ」と呼ばれる海からの冷たい風が吹き込み、実を採る農業に適さない高冷地である飯館村は、昔から畜産が盛んな地域だった。しかし、畜産農家が出荷するのは、成牛ではなく子牛。成牛であれば30ヶ月にわたって育てなければならぬが、子牛ならば10ヶ月で出荷し、現金化することができるからだ。そして、松坂、米沢、近江などに送られた子牛たちは、それから20ヶ月かけて育てられ、現地のブランド牛として出荷される。そこには、飯館村の名前はどこにも出てこない。

そんな状況を変えるべく、「飯館牛」として肉牛のブランド化に取り組んだのがおよそ40年前。このプロジェクトに尽力してきたひとりが長正さんだった。

「村で子牛を買い取り、飯館牛として出荷するような仕組みづくりが必要だったんだけど、畜産農家の理解は当然ながら、農業に携わらない人たちもいて、村全体の理解を得るにはとても難しい事業だった。そんななかで農協青年部や商工会青年部がブランド化に理解してくれて、牛肉宅配事業や牛肉フェスティバルを実施したことで、飯館牛が少しずつ全国的に知られるようになった。

あれは震災の3年くらい前だったかな。肉牛を取り扱う芝浦市場から、松阪牛、前沢牛、近江牛といったトップクラスの牛と同じ日に、飯館牛もセリに出してほしいって言われたんです。それは、何十年もかけて飯館村が良い肉質牛を安定して出荷していると、ようやく市場から認められた証拠でした。やつとここまで来たんだと感慨深かったね。

それで、「さあ、これから」と息巻いていた。そしたら、これでしょ」

3月12日、東京電力福島第一原子力発電所から北西方面に吹いていた風は、30年にわたって築き上げてきた飯館牛というブランドを、瞬時に消失してしまった。それは長正さんが、人生の長い時間をかけてつくり上げたものだった。その胸のうちには言い尽くせない。

「でも、悲観的なことばかりではなかったね」という。

「震災が起きてから伊達市に6年間避難していたんだけど、そこでは新しい人たちとの付き合いもできて、いろんなことも教えていただいた。原発事故で腹の中が煮えくり返っている時に、近くのお寺で座禅をさせていただいて、新たな心持ちになったのを覚えている。

その住職さんが「飯館の村づくりは本気度が違う。飯館村とはとても素晴らしい村」と言



左から長正増夫さん、萩原雄太さん、川延安直さん、小林めぐみさん



われた。それを聞いた時に、「飯館村をなくしちゃいけない」と強く思ったんだ。それで帰る決心をしたんだよね」

長正さんは、2016年9月に飯館村に帰ってきた。震災以前は60戸・200人あまりが生活していた大久保・外内地区だが、2019年6月現在、まだ2割も戻ってきていないという。そんな中でも、長正さんは、ぼろぼろに壊れた地域のつながりを再び生み出そうとしている。

「帰ってきた人間にとっていちばん大事なのは地域の人間関係。だから、地域の人が集まる機会をつくるために、草刈りやエゴマ栽培などの集団作業を毎週行っている。平均20人くらいは参加してるかな。みんな、地域の仕事っていうよりも、地域の人と会って喋りたいという意識で来ているよ。今は、そういうのが大事なんだと思うな」

長い時間をかけて育ってきたものが壊されたあと、長正さんは、また長い時間をかけて土地と人を育てていくための第一歩を踏み出した。高台につくられた長正さんの家からは、手入れがされた菜の花の畑が見下ろせる。そこから見える景色は、「非常時」であることを感じさせない。人の手によってつくられる日常の時間は、ゆつくりと飯館村に「日本で最も美しい村」の姿を取り戻させていくのだろう。

## アートが持つ「再生」の可能性

長正さんの家から菜の花畑を見下ろせたが、同じ飯館村内にある「NPO法人ふくしま再生の会」代表である田尾陽一さんの家からは、大きな窓から向かいの山が見渡せる。

家の中にお邪魔するとまだ建ったばかりだという家は、杉材の心地よい香りに包まれていた。田尾さんは、ニコニコしながら「杉の間伐材を利用している」「普通の4倍以上の木材を消費している」「とても防火性が高い」「断熱性能がいいから薪ストーブひとつで家の中全体が温かい」……と、建てたばかりの家の魅力をまくしたてた。長正さんはあたかも農家のようにエゴマ栽培について熱く語ったが、田尾さんの場合は、知らない人が見たら建築家と間違ってしまうかもしれない。しかし、「ほんとうなら目の前にある山から間伐材を切り出せばいいのだけど、伐採が禁止されているから福島他の地域で育った間伐材を使っているんです」と、一見脱線にも思える暮らしの話は、思わぬところでこの場所に住むリアリティへと接続する。

かつて、東京大学で高エネルギー加速器物理学を研究していた田尾さんは、震災後、福





島に向かい放射線量の測定を行った。「実験物理屋だから、現場に行かないとわからない」という彼は、飯舘村全域にわたって、詳細な放射線量データを採取してマップ化。その活動は、現在もお続けられている。そして、2018年3月には、東京から飯舘村に移住することを決めた。

「若い頃、社会や自然界を理解したいという好奇心から物理学を始めたように、僕は好奇心で放射線量を測定していたんです。『好奇心』というと被災者に悪いという感じがするけど、『社会的使命で支援をして差し上げたい』という方が、むしろおこがましさを感じる。好奇心をベースにしているから言いたいことは遠慮したくない。飯舘村で起こっていることや住民がやっていることがおかしいと感じれば『おかしいんじゃないか』と言いたい。でも、自分がそうやって発言をするためには、支援する側に身を置かないほうがいいんです。そこで、ここに移り住みました」

線量の測定の他にも、除染法の開発やスタディツアーの開催など、多岐にわたる活動に取り組んできた『ふくしま再生の会』。では、NPOの名前にもある「再生」とは何を意味するのか？ NPOの英語表記は、「Group of "Resurrection" of Fukushima」となっている。

「Resurrection」には、キリスト教的な「復活」というイメージがあります。瞬間的に名付けたのですが、「復興」を意味する「Recovery」や「Reconstruction」といった言葉は使いたくないと思っていました。いまだに、「再生」というのが何を意味しているのかはわかりません。その中で、今、可能性と感じているのがアートの力を使った復興です」

現在、田尾さんは『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ』や『瀬戸内国際芸術祭』などでディレクターを務めている北川フラム氏を巻き込んで、アートプロジェクトを計画している。アートを「自然と人間の関係性を表現する技術」と定義するフラム氏とともに行われるこのプロジェクトは、2020年に10あまりのアート作品を飯舘村全体に展開する計画を掲げている。目の前に広がる、夕闇の差し迫った山並みに目をやりながら、田尾さんは次のように話す。

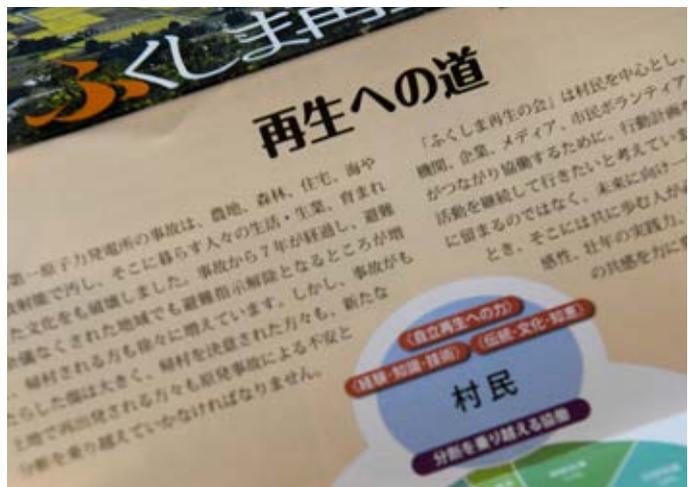
「一見、何も変わっていないように見えるけど、この山も放射能によって汚染されている。そのように、原発事故は、目に見える世界だけでなく、目に見えない人間と自然の関係や人間と人間の関係、そして人間の精神そのものを壊していった。これをアートによってどのように表現し、精神を元気づけられるのか？ そこにフラムさんはかけています。

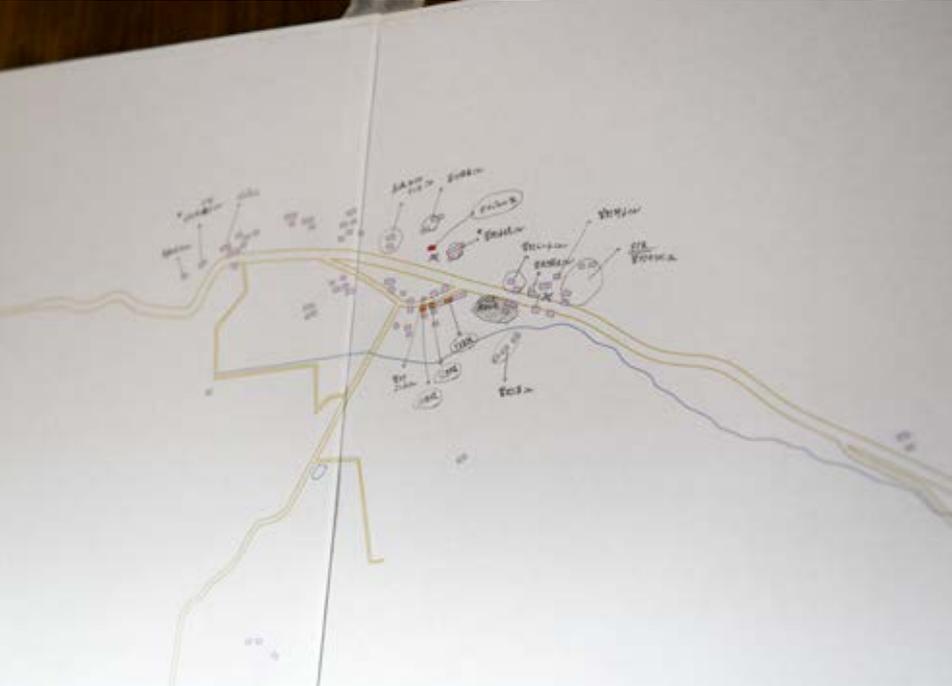
僕のような物理屋はデータを採取し、グラフにすることしかできません。でも、それで

は何の感動も呼びませんよ（笑）。これから、「再生」ということを真剣に考えた時に、精神を表現するアートという領域に可能性があるのではないかと。そう直観したんです」

また、2019年5月にオープンした『風と土の家』も「精神の再生」という意識からつくられたもの。元村民や村外の人々と、村をつなぐ交流拠点としての機能を担っている。

「以前から、墓参りなどで一時的に帰ってきた元村民と、現在住んでいる村民が交流できないという問題がありました。避難先から帰ってこないと決めた人に対して、今住んでいる人は決して嫌な気持ちを持っていてはいいではない。それなのに、お茶を飲んで話をす





る場所もないから、元村民は負い目を感じてしまっている。そんなバラバラになった気持ち乗り越えるための空間として、風と土の家はつくられたんです」

\*

2011年8月、僕らが広野町の路上で上演した『福島でゴドーを待ちながら』は、その名の通り、サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』という作品を原案としている。ベケットの書いた戯曲において、いつまで経っても来ない「ゴドー」を待ちながら、ウラジミールとエストラゴンという2人の登場人物は、ただひたすらにゴドーが来るのを待っている。

「どうなったら『復興』と呼べますか？」

歩きながら、何気ない風情を装って聞いたそんな質問に対して、長正さんは「復興っていうのがどういうあれだかわかんねけど……」と前置きし、こう答えた。

「それぞれが暮らしてければ、それが復興じゃないかね。元通りには戻らないわけだから。元通りにしたからいいかという違うしね。自立していければね」

ゴドーが舞台上に現れないのと同様に、福島にわかりやすい「復興」が登場することはない。けれども、それでいいのだと思う。『ゴドーを待ちながら』がそうであるように、震災から9年目の福島に流れているのは、そんな安っぽい「物語」としての時間ではない。

\*福島県双葉郡広野町二ツ沼総合公園沿い、国道6号の割れた地面の上にて行った演劇作品。  
どこからかきつけてきた観客がひとり、3名の俳優はほとんど喋らずに、「ゴドー」と称する何かを待つ作品。

### かわうち草野心平記念館「天山文庫」

福島県川内村大字上川内字早渡513

詩人・草野心平が名誉村民になったのをきっかけに蔵書を村に寄贈、村人たちの手によって1966年に落成。毎年7月第2土曜日に行われる「天山祭り」には約350名が集い、詩の朗読などを楽しむ。

### 風と土の家

福島県飯舘村佐須字佐須557

2019年に完成した、仮設住宅を再生したログハウス風の宿泊施設。地域内外の人が交流することを目的に、台所やお風呂、多目的スペースがあり、16名が宿泊可能。村ならではの食事やツアーの実施、足湯の設置なども予定している。

# 小さな声、たくさんさんの声

小川智紀

(認定NPO法人STスポット横浜理事長)

話題の先っぽを尖らせるのではなく、グリッと曲げて届け先を自分に戻すよう意識しながら、日々の記録を「Twitter」に書き留めていた時期がある。冒頭にその時点での「現在地」を記入するというルールを自分に課しながら、2010年10月から8年弱で約6000件書いたものうち、2011年3月の東日本大震災関連のものを中心に今回抜粋した。

日常の些事を個人的な経験として捉え、その記録を積み重ねることで考えのカタマリを提示していく方法がある。こうした小さな声の記録では初出の媒体に注目したい。手元にあるいくつかの書籍を見てみると、たとえば陸前高田の震災後を描いた瀬尾夏美の『あわいゆくころ』は彼

女の「Twitter」の投稿が初出となっている。水俣病の相談窓口がテーマの永野三智『みな、やつの思いで坂をのぼる』は、機関紙に書き溜めたものを整理している。媒体特性から書けること・書けないことが制約され、その制約の中から表現が洗練されていた過程が想像される。

小さな声を記録する上では、そのままでは書けないことを書くために、ぼかしたり、ひねったり、いったん忘れて寝かせたり、しらばっくれて書いちゃったりするものだ。書かないことも態度表明の一つで、とりわけ震災の影響を受けた作品には書かない・示さないという事実が力となっているものもある。それらの技術を経て、小さな声は息づいている。

## 小さな声の居場所

私の声はどこにあっただろう。1976年生まれ私は、デジタルの世界で自分の声の居場所を探した。当時登録していた、2008年にブームのピークを迎えた会員制交流サイト・mixiでは、テーマグルー

プの呼称が「コミュニティ」だった。自分の声が「コミュニティ」に繋がる感覚を覚えたのは、あの時が最初かもしれない。

その後、2009年から流行の兆しが見られたのが「Twitter」だ。当時から文化芸術界隈でも積極的に「Twitter」が利用されていた。どちらかと言えば私的に使うイメージが強く、打合せでお会いしてバリッと決めていた人が「ねむい」「つかれた」「はらへった」と書き込む人だと分かり、あとで大笑いすることもあった。また、自身が所属する団体とは切り離して、個人的な意見や愚痴を述べる人も多く、自身が企画したイベントの終了間際にこっそり「やっと終わった……」と書き込んでいた人がいても、まわりは大目に見ていた。

この頃の「Twitter」利用者の間では暗黙のうちに、その人は体を持ったその人であり、仕事場で働くその人であり、趣味を持っているその人なのだ、という複数性を許容していたと思う。私自身の問題で言えば、当時は何枚も名刺を持ちながら複数の芸術団体で活動を続け、それぞれの立場で相手と付き合うのに疲れていた。大きさに言えば、仕事上のアイ

デンティティを統合させなければという課題に迫られていた。そんなとき、自分が出かけた現場すべてを個人の責任で「Twitter」に記述することで、危機を乗り越えたいと思いついたのだ。

各個人が権威を持たずに平等で、嘘や誇張の少ない素朴な記述を受け止め受け流し、実社会の補完的な位置づけを保ちながら自律性を持つデジタルならではの「ゆるやかな公共圏」がどこかにあり、そこに自分の小さな声の居場所があるのかもしれないと感じていたのは、夢見がちな私だけではないはずだ。

### 複数性のある集い

2011年の東日本大震災では、発災直後からたくさんの方がSNSから聞こえてきた。周囲では、首都圏の放射能汚染の危険度をめぐる議論が多かった。ボランティア募集の知らせ以上に、国会デモへの誘いも頻繁だった。デジタルな合意形成未満の部分では、アーティストを被災

地に百人規模で派遣し文化芸術の力を示そうというマッチョな意見も出ていて、私はそのコーディネーター役を引き受けるふりをしながら、現場の小さな声を探っていた。そのとき聞こえてきたのは、仙台的舞台芸術関係者が中心に集った『Art Revival Connection Tohoku（以下、アルクト）』関係者の声だ。たくさんのアーティストの小さな声だった。

アルクトは2011年4月に活動を開始し、被災地である仙台市・宮城県域で、学校や福祉施設、避難所などに芸術家が出かけていく活動や、東北の劇団などの公演支援のほか、被災地内外とのネットワークづくり、寄付金の受け入れなど精力的な活動を行っていた。2年後に活動を停止（その後、規模を縮小し再始動）したが、私が密接に関わったのは2011―2013年が中心である。

アルクトの具体的な活動状況は当事者が記録を残しているので割愛するが、私はできる限りの時間を割いて彼らにお節介を焼いた。東京で震災に関する会合がもたれた時は、彼らが私のTwitterを読んでも意義ある内容にしようと努めた。読み手をアルクト関係者と想定することを

新たにルールに加えたのだ。いつの間にかデジタル上でのやり取りでは足りず、仙台まで出かけていき会議に参加することも増えた。小さな声を辿った先にあったのは、たくさんの声だった。

その頃のアルクト事務局の大きな悩みは、芸術観の異なる多くのアーティストが発する食い違った小さな声の取りまとめだった。一つひとつの事業より、事務局として団体を束ねることの難しさについて相談を受けていた。

あるとき私はアルクト事務局のメンバーに対して、NPO法人設立時に使用する規約の雛形を送り、そのもとで組織体制を整えてはどうかと伝えた。「いや、それがそう簡単ではないんですよ」と返答があった。震災復興に向け、被災地からの発信として自分たちの作品創作サポートを求めている人、被災地との関係づくりのためアウトリーチ活動を深めるべきだという人、首都圏をはじめ域外からの要請に返答することに力を注ぐべきだという人。とにかく多様な意見があり、事務局は難渋していた。

私は「規約を決めなければメンバーも決まらない。誰が何を決定するかも分からない。そんなものは組織とはいわないんです」と強い口調で返した。「みんなが集まって何も決まらなければ、定例会合をやる意味がないでしょう」とも。

私がある時にイメージしていた組織は、法人格のある公的に認められた集団だ。正式名称があり、団体の所在地を持ち、財務諸表に基づいて税金を申告して納税を行っていて、形だけでもいいから役員会がある。各種助成金を獲得するためにも、震災を理由の一つとしたNPOへの寄附税制優遇の流れに乗るためにも、将来的に必要となるだろう東北のアーツカウンシル構想へ軌跡をつなぐためにも、団体の自己同一性を明らかにする組織整備が必要だと思っていたのだ。勝手な思い入れである。あれから時が過ぎた。私の現在の結論は、アルクトはサークル的組織だった、というものだ。サークルとは「メンバーの自発性に支えられた小集団として、メンバーが互いの表情を見分けることのできる対面型の相互行為の場であり、拘束のゆるい非定型な集まり」だと、歴史社会学

者・天野正子は『「つきあい」の戦後史』で書いている。

震災直後に文化芸術の関係者がとにかく話をしようと集い、さまざまに動いた。意見や考え方の違いは常にあつたし、当事者たちにも活動がどこへ繋がっていくのか分からなかった。その中で対面で話し、泣いて笑った時間があつたことの総和が団体の活動だったのだ。直接の被災者という形に限らず、震災で大きな衝撃を受けていた文化芸術の関係者は、誰かをケアするという方向性を抱え込みながら、自分たちを癒していたのだろう。ネットワークの重要性を唱えながら、対面空間の領域に私も混ぜてもらっていたのだった。

私もあのとき傷ついていた。それはずっとあとになってから分かった。一つの組織があつて、統一した考え方があつて、それに基づくメンバーが事業を担当するのが法人格を持つ団体のイメージだとしたら、サークル型の代表例は、劇団など集団創作を行う芸術団体だ。集いの中にはいくつもの中心核があり、外部と内部の境界線が曖昧で、方向性も明確には定まらないままドンブラコと流れに乗っていく。決めごとが非

民主的だと言われたとしても、そこをロジカルに突きつめたら分解してしまう。

そんなサークル型組織は何に似ているかと言えば、人だ。矛盾を抱え込みながら毎日やっていく。自分の心の中にある少数意見を選んだり、つぶしたり、間を取ったり、なだめすかしてやっていく。つまり私のような存在だ。立派な計画が実を結ばないことがあることを震災で知ったはずなのに、団体自体が持ったくさんの声、つまり複数性を私は理解し切れていなかったように思う。言うまでもなく、人の相似形である社会も複数性を基底に持っているはずだ。

#### まだ語られていない地域文化

小さな声は届かない。刺激的な言葉を使った緻密な戦略のもとで繰り出される声に、小さな声はかき消されるのか。たくさんの声はまとまらない。一貫性と同一性を求められ、ついでに法人番号を求められ、ま

まらない集いは囁かれていくのだろうか。

そんなはずはない。当時のアルクト事務局メンバーは、それぞれ地域文化の場でたくさんさんの小さな声と向き合っていると伝え聞く。私もそうだ。そして、とてつもなく地域は面白い。芸術論や文化政策論からこぼれ落ちる声を受け止められるのは、まだ語られていない地域文化の現場だと信じている。



# 2011

## 3.11

東北地方太平洋沖地震 (M9.0) 発生

@ogawa\_tomonori · 2011年3月11日 15:50:50  
こちら関係者を含め無事です。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月11日 16:04:41  
横浜。まだ余震が続きますが、STスポット横浜のスタッフ・佐藤ヤス、小川、田中、劇団ロズノワールのみなさんは無事です。現在、2F事務所対応中。

## 3.12

東京電力福島第一原子力発電所  
1号機水素爆発

@ogawa\_tomonori · 2011年3月12日 8:44:51  
横浜。これから帰宅。何年前か、私のつたないお話を聞いて下さった、南相馬市民文化会館・ゆめはっこのスタッフの方々を思う。

## 3.14

東京電力福島第一原子力発電所3号機  
水素爆発、2号機燃料棒が全露出

@ogawa\_tomonori · 2011年3月14日 8:30:21  
自宅。業務連絡。STスポット横浜の普及事業担当セクションは、今日は自宅作業に切り替えました。必要な方は、スタッフの携帯に電話するか、メールでご連絡ください。

## 3.15

東京電力福島第一原子力発電所から  
20～30km圏内に屋内退避指示

@ogawa\_tomonori · 2011年3月15日 0:38:57  
殺伐としたニュースが続くテレビジョン。心あたたまる子供の笑顔や、さわやかな緑の大地の映像を挟んでみたくなる。石川島播磨、東芝や東京電力あたりが企業CMで得意としてたようなやつを。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月15日 18:46:33  
横浜。大晦日か。みんな頭をさげ、次の出社日までお元気で、とか薄笑い。買いだめた黒っぽい服の人とすれ違う地下街は7割休みでほの暗い。電車内は携帯チェックする人が減り、みなうつむきかげん。私は資料とデータを疎開させ、大きなリュックで電光掲示の消えたホームで鈍行待ち。もろい日常。

## 3.16

内閣官房震災ボランティア連携室設置

@ogawa\_tomonori · 2011年3月16日 19:32:18  
自宅。自転車漕ぎの上手・下手があるように・無いように、自分の言葉を自分で信じられる瞬間がある・ない。東京では強い風が吹いている。風向きを感じる。夢のことを。夢のことを。夢のことを。モダンチョキチョキズを歌ってみる。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月18日 16:49:55  
自宅。一週間前、退避したビル前広場でラジオから第一報を得た。そのあと土曜は久米宏が切迫し、月曜は伊集院光が涙ぐみ、火曜は毒蝮三太夫がボヤキ、水曜あたりは大竹まことが言い訳。新聞の四コマ漫画もそうだが「笑い」が難しい局面の首都圏。捉え方の多様性が抑制されている中、芸術や文化は、さて。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月22日 2:08:25  
『朝日ジャーナル』復刊二号の冒頭は、辺見庸「標なき終わりへの未来論」。灼熱の自室で死んだ生活保護の老人に微を見た作家は、災厄を予言していたよう。割られる。苦しい。石巻出身の彼の震災後初稿は共同配信「非情無比にして荘厳なもの」。白い白い世界。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月22日 22:53:38  
池尻大橋。まず、考える時間がある。

## 3.23

企業メセナ「GBFund(東日本大震災  
芸術・文化による復興支援ファンド)」設立

@ogawa\_tomonori · 2011年3月23日 22:22:46  
横浜。首都圏の現実感覚の乏しさ、これは「解離」だろう。まだ悩むべき事案を抱えている私。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月24日 21:36:59  
横浜。首都圏ではあらゆる局面で、本質があらわに、暴力的になってきている。必要なことは、〇×の物言いを避けること。デタラメかつイイカゲンで矛盾だらけのじぶんを肯定すること。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月25日 18:55:37  
横浜。国からの差し戻しもの対応。この2週間、えらく長く感じる。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月26日 1:08:01  
自宅。これまでの自分の仕事の延長で、できることをやる。すごく地味だったとしても、僕にはそれしかできない。

@ogawa\_tomonori · 2011年3月28日 11:14:31  
半月前、本棚の上にあった本が落ちてきて、ストープが半分壊れた。こんなことはもちろん「被害」には入らない。東京の毎日。で、ストープはどうしよう？

@ogawa\_tomonori · 2011年3月28日 15:16:14  
《首都圏の文化施設の状況0328》計画停電対象区域の施設は、物理的に催事が不可能でキャンセルや払戻しなど多数。自主事業の積み残しも。今後の対象区域拡大をにらみ、施設利用はおろか自主事業も組みにくい状態。昼間の停電でも、リハが不能なら公演は組みにくい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月11日 12:45:10  
自宅。首都圏は桜が満開。敬愛する諸姉諸兄よりアドバイスを頂く。一言でまとめれば、現地の状況は「いろいろ」足りないものは「情報」。各分野で、非常時の先のストラクチャーを考えることが、いま必要なだろう、か。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月11日 21:46:10  
横浜。急いではいけない。どうせのろまなんだし。やめといた方がいいという意見もあるけど、とにかく深呼吸して。余震を何度も感じながら。

---

## 4.12

文化庁長官・近藤誠一メッセージ「当面の文化芸術活動について」発表

---

原子力安全・保安院が東京電力福島第一原子力発電所事故を「レベル7」と発表

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月12日 14:13:19  
安達太良。すごい余震でガスが止まり、鴨そばを食べ損ねました。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月12日 22:07:29  
大河原。えずこホール。本日再オープン。舞台『シングル・マザーズ』満席。無料公演。避難所からの観客も。冒頭は水戸雅彦所長、締めは二兎社・永井愛さんの挨拶。作品は、おんぼろアパートの子育てNPO事務局の面々の右往左往を描く。私たちの生活は続く。悲劇喜劇を波瀾のように呑み込みながら。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月6日 0:12:31  
横浜。こういうときだからこそ、新しく生まれでるものがあるし、今までの歪みが吹き出ることがある。いい意味でも悪い意味でもグロテスク。これまでやってきた仕事と変わらない。いいとこ取りなんか、できるわけない。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月6日 22:16:17  
横浜。少し前、魚を出す飲み屋に行った。いつも馬鹿話をするお兄ちゃんが「大丈夫だから、安全だから、経済を止めちゃ駄目なんだから、また来てよね」といっていた。うん、そう言った。言ってたのだ。うんうん。

---

## 4.7

宮城県沖にて最大規模の余震（M7.4）発生

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月8日 0:08:27  
下北沢。余震。打合せ打ち切り。帰宅中。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月10日 0:50:43  
三軒茶屋。現時点で私は怒っている。震災から約一ヶ月。全国公立文化施設協会は被災地の施設の被災状況、日本芸能実演家団体協議会は実演家の被災状況の調査進捗をなぜ示さないのか。基礎データのとりまとめが足りない。優秀なスタッフが大勢いるのに。現地に考える時間を与えてほしいのに。

---

## 4.11

福島県浜通りにて直下型地震（M7.0）発生

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月1日 17:51:46  
山下。さまざまな合意形成のあり方を、自分なりに探ってきたけれど、突如ここに来ているいろいろ試されてる。春の風が吹いてくる。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月1日 18:58:20  
横浜。とりあえず、とりあえずと一日を凌いでいく。3月32日が過ぎていく。今年はこの先は全然予定・予想・予測が立たない。動乱の「平成23年度」が始まった。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月2日 0:54:12  
渋谷。新宿から横浜まで出るのに、湘南新宿ラインだと東横特急より何分速い、便利という議論に巻き込まれていた。本当に馬鹿だった。今日現在、東横は全列車各駅停車、湘南新宿は全列車運休。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月2日 1:31:08  
朝日新聞「震災 表現続ける芸術家」に関する私の考え。芸術家の表現は、人間のある側面を拡大し可視化・顕在化させただけのこと。芸術至上主義には立たない。悲劇をすら糧に自分の暮らしに向かわずにいられない「業」がある人びとを見つめたい。折りたい。

---

## 4.4

第3回 舞台人会議で「Art Revival Connection Tohoku (ARC>T)」発足

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月4日 13:57:16  
自宅。とおいまちでくらす人と話をする。世の中が大動脈、動脈の議論をするなら、僕は静脈や毛細血管を思いたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年3月28日 15:16:32  
《首都圏の文化施設の状況0328》自主事業をセーブしていけば、それに伴い指定管理業務の収支構造が崩れていく。中期的にはスタッフの雇用についても、各施設運営上の課題として、議論の俎上にあがるのではないか。

---

## 3.29

「東北復興に向けての舞台人会議（仮）」開催

---

@ogawa\_tomonori · 2011年3月30日 15:49:59  
朝日新聞「震災 表現続ける芸術家」。新聞コードを逸脱するかのような最終段落。「悲劇をすら糧に表現に向かわずにいられない"業"がある」と。執筆の吉田純子記者は仙台支局勤務経験を持つようです。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年3月30日 21:31:51  
横浜。できうる限り平常営業。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年3月31日 22:35:10  
横浜。実行委員会ジブシーを経て、ネットワークものやブラットフォームものに関わってきた自分。組織というものの本質がまだ分からない。ただ、組織を信じて疑わないタイプの人がいることは分かってきた、了解してきた、だいたい。

---

## 4.1

「東日本大震災」に名称決定

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月24日 18:32:08  
武蔵小杉。中期計画策定のためのプレ  
スト。どこそこ課は連日深夜に情報を  
ツイッター出し、なにかしNPOの事務  
局はパンク状態で電話すること自体が  
NG、とうわき話。みんな、ご苦労さん!

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月25日 0:44:36  
三軒茶屋。ネットワークとは、つながり  
とは、組織とは何か。信じられないが、  
いま自分が関わるすべてのシゴトに通  
底する問題。何屋なのか、自分でも分  
からなくなってくる。エクセル屋あた  
りかどうか。某区長選で吉報。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月26日 0:15:24  
三軒茶屋。5年ほど前、ネットワーク体  
の実効性の無さに辟易し、ある種の事  
業体を夢想した。それが、いまの現場  
に繋がっている。中核に必要なもの、  
いまも探っている。たとえばフラジリ  
ティ、パルネラビリティ、モビリティ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月26日 0:26:10  
横浜。学校が書き上げた芸術文化団体・  
施設への希望調書の精査、2周目。恐  
ろしいほど終わらず。しかも、23時過  
ぎからスタッフ間で大激論。地域文化  
をどのように見るか、その視角は、その  
粗さは、その見通しは。作業終わらず、  
声涸れる。終電。眠いわお酒のみた  
いわメール返信できずすいませんわ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月26日 18:21:44  
市ヶ谷。関わる人が増え、時間も経ち、  
きちんとした混乱状態の認識まで、話  
がたどり着いた。人員も予算もすべて  
これから。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月20日 13:32:34  
横浜。今年度1回目の横浜市芸術文化  
教育プラットフォーム事務局会議。教  
育委員会が、市内小中学校での芸術文  
化に関する取り組みについて悉皆調査  
をかけてくれた。この種の基礎データ  
が、全国的にもいままで足りなかった  
のだと思う。

## 4.22

政府が計画的避難区域、緊急時避難準  
備区域の設定

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月22日 0:42:19  
日本大通り。KAAT。『国民の映画』。  
戦時下ドイツのゲッベルス情報相とア  
ーティストたち。色めきたつ機会主義  
者、筋を通したいロマンチスト、若い拗  
ね者。価値相対的でいられない。最後  
は史実が主役となる。終演後、身につ  
まされながら食事。長い余震。意識す  
るタイムスパンの伸縮具合にくらくら。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月23日 0:18:20  
横浜。昨年度に学校プログラムのコー  
ディネートを担当してもらった芸術団  
体・文化施設にヒアリング。あるホー  
ルの方の話。「招聘ものが次々に中止  
され、チクセンは連日払い戻し作業の  
年度はじめ。こんなときこそ学校に出  
かけていき、事務所の雰囲気も変えた  
いんです」なるほど。がってんだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月24日 12:41:03  
恋ヶ窪。節電ダイヤの間引きに引っ掛  
かり、20分待ち。うしろの打合せのみ  
なさんすいません。遅れてます。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月18日 18:42:07  
横浜。葉桜を越える風。地震の影響で  
文科の事業採択が遅れる中、各方面と  
調整作業。芸術系と教育系、それぞ  
れのダンスのイメージがすりあわず溜息。  
極めて重要な業務連絡。福島ゆべし、  
あと二つ。山口のういろう、あと十個。  
いずれも美味。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月19日 0:52:41  
駒沢大学。トップダウンとボトムアッ  
プ。どちらも合意形成の形としてあり  
得る。いずれも尊重して、思いが交錯  
するその中点をこそ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月19日 2:31:31  
自宅。文化を通した東北復興を目指す  
ARC>Tの動画アーカイブを拝見。「官  
と民、距離をとってそれぞれ立とう」の  
一言にぐっとくる。でも事務局の素敵  
な面々はそれどこじゃないはず。場所  
こそ違えど、問題を共有させてもらえ  
ている気がして、僕は幸福。熟考続け  
ます。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月19日 23:24:16  
渋谷。結・講・座を議論した2年前の曾  
田修司ゼミの意義をいま実感。地域を  
踏みつぶして先に進めるわけがない。  
ローカリティは、すべての基盤だ。

## 4.20

政府が東京電力福島第一原子力発電所  
の半径20km県内を警戒区域に設定

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月13日 13:38:33  
宮城野原。せんだい演劇工房10-BOX。  
移動。痕跡から人びとの暮らしを思う。  
強い風に揺れる赤い旗。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月13日 18:46:03  
仙台。すべてが同時並行で流動的。な  
んか胸いっぱい。いつか、良きタイミ  
ングで、きつとまた。しかしまあヨレヨ  
レ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月14日 23:10:13  
横浜。計画停電で出遅れたけど、電話  
で連絡をとるべき相手がざっと100件  
残っている。テレアポ屋の如し。私は  
これで食っているのだ。合間に昨日買  
った福島ゆべし、うまし、かなし。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月14日 23:42:07  
宮城では県内七つの下水処理場のうち  
三つが水没し、緊急放流中。処理効率  
をあげるため、長い長い下水管を引い  
ただらう。専門外だから、その是非  
は言及しない。ただ、文化や芸術に引  
きうつしたらどうなのか、と思うほか  
り。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月15日 21:55:36  
横浜。STスポット。『剥き出しの腕が  
むかえにくるのを待っていた』。卒業  
式の朝のできごとを何百度も反芻する  
女性の物語。身軽で鋭敏。学校生活で  
のクラスメートとのうすい共時性を突  
き破るような著しい共時体験、その置  
き場を探し、持て余している。この若  
い劇団だけじゃなく、私も。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月7日 17:40:35  
横浜。ゴージャスに仕事があふれたため、プリリアントな休日出勤。芸術団体や文化施設に対する学校の希望調書精読、2巡目。地域の文化施設がきちんと力を発揮するだけで全体が相当変わる。その阻害要因を辿れば、国や市や外郭のシステム不全。改善への提言も自分たちの仕事なのだ、本当は。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月7日 18:12:55  
横浜。STスポット。『ヨコラボ'11』。民俗芸能調査チーム始動にあたってのプレゼンを見学。ダンサーの手塚夏子さん「流通や消費と違う点から、文化芸術の世界で活動する私たち自身が考えたい。そのきっかけとする芸能は、土地や土着性ではなく、流れ・脈動に本質があると思う」熱い議論が続く。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月8日 22:18:43  
三軒茶屋。フォーラム『震災後の演劇を語る』。オクトバス石川さん、日経内田さん、二兎社永井さん、西堂さん。各施設の被災状況、仙台ARC>Tの動向など。石川さん「いずれ、大きな物語を東北の劇作家が書くのではないか、という気がしている」と。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月10日 2:56:49  
自宅。3時間近い議論を追いかける。あちらこちら名言だらけで呆気にとられる。この密度の濃い時間と並走しているという気持ちだけでもう、白いご飯3杯食べられる。さあ、僕は僕として。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月3日 8:49:05  
東京。早朝の上り新幹線は所要時間2時間6分。座席に余裕があった。下りは大混雑の様子。仙台のホテルは、カプセルを含め満室で、私もギリギリだった。都市部は都市機能を完全に回復、スーパーやコンビニもOK。友人でもいればぜひ観光して、ササカマとさとう宗幸のレコード購入を。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月5日 18:01:34  
新宿。コニカミノルタプラザ。DAYS JAPANフォトジャーナリズム写真展。世界の紛争、戦争、災害地で暮らす生活者の写真。デイズは定期講読して数年になるが、こんなに注目されるようになるとは…。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月5日 22:34:57  
明大前。キッド・アイラック・アート・ホール。こちらもDAYS JAPANによる福島原発事故の写真展。内容の重大性はあえて措く。写真のキャプションとして置かれた文字列は、背景描写として過不足ない。でも、その物語の閉じ込められ方を一度くらいは疑ってみたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月6日 10:56:34  
新宿。文藝春秋五月号。辺見庸「神話的破壊とことば」。フランス人と呼ばれた生白い少年はその後、新聞言語を操り人を傷つけ、傷つき、警世家の称号を拒絶し詩作へ。彼の文章はもう読めないと思ってた。だけど今、彼は記憶の中の、石巻の門脇小学校正門前をはしている。しおさい。もう一度ことばを。

---

---

## 4.30

米軍・トモダチ作戦終了(3月12日~)

---

## 5.1

アメリカ合衆国、アルカイダの最高指導者ウサマ・ビン・ラディン容疑者を殺害

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月1日 9:15:37  
仙台。下り新幹線は空席が多かった。曇り空。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月2日 0:37:30  
宮城野原。せんだい演劇工房10-BOX。すこしだけ、ゆめのはなしをしました。すこしだけ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月2日 18:25:11  
宮城野原。10-BOX。下調べを怠った。そのため、仙台のイメージを「ササカマとさとう宗幸のまち」と話したら「古つ」と即答された。「東北の人は本音をいわない」という俗説も古いのでしょうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月3日 1:20:08  
勾当台公園。ホテルの待合室で、知らないおじさんと話を交わす。石巻で2km流されたけど、オートロックでない車だったので、瓦礫にひっかかっている間に後部から脱出、とのこと。「くれぐれもお身体を大切に」「はい、お休みなさい」で別れた。別れたけど、隣の隣のカプセルで彼は眠っている。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月26日 23:41:03  
武蔵小杉。NPO法人会計基準では、事業費の中に隠れた事業人件費など、すべての管理費を明示することが奨励される。しかしこれは相当デリケートな話。使途は事業費限定として得た資金をやむなく管理費に繰入れる団体は多い。もちろん私はそんなズルをしたことはないのですけれどもええ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月27日 0:33:17  
自宅。この1、2ヶ月のいろんな文脈と言葉を思い返す。飲み下そうとする。それでも「これはチャンスだ」という言い方に、応答する方法をはかりかねている。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月28日 0:33:19  
日本大通り。アリスセンター主催「アリスカフェ〜寄付について考える」。哲学対話プロジェクトの協力。ちゃんと考えてみた。なぜ私は1円の寄付もしないのか。寄付する側・される側、支援する側・される側、あなた・わたし、その区分を拒否したいからだ。あなたとは、つまり、わたしのことだ。

---

## 4.29

東北新幹線、全線で運行再開

---

@ogawa\_tomonori · 2011年4月28日 21:33:45  
横浜。決算が未了で、予算が見込で、とりあえずのメ日処理。合間に洋酒メーカーのメドレーCMを視聴。私は水前寺清子が圧倒的にいいと、やはり思う。彼女は、あんな風にしか歌えないようにみえる。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月26日 10:27:07  
自宅。原稿。支援—被支援の枠では見えないものがある。新しい名前の枠組みを。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月28日 18:42:50  
卸町。10-BOX。区内53%が浸水した中、元気に稼働する劇場。現場と隣り合わせて何かを考えられる状況が、いい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月29日 2:15:14  
勾当台公園。サポートセンター。ARC>T出前部ミーティング。見学させていただく。東京が考える以上に福祉や精神医療の専門家がいて活動の質の高さに驚嘆。東京が考えるポイントは、地域の自立的な文化芸術活動を支えるための全体性を伴った仕組みづくり。んだ。めっちゃむつかしいっぺ。誰か考えてけろ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月29日 23:47:03  
新宿。鈍い私が、もっともって鈍くなりますように。こまかな雨。引き続き、光について。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月31日 12:04:55  
西巣鴨。3月以降の各地の学校について、情報交換。首都圏では、被災地の児童・生徒の流入状況把握が、やや難しい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月31日 23:42:27  
下北沢。ワークショップ進行の専門家は、いらない。ひとがごちゃごちゃ何かをつくることと、芸術文化・地域文化との関係を考えているひとが必要なのだ。もちろん、自分に問うています。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月20日 22:36:20  
横浜。組織運営をお手伝いいただく、いわばボランティアの有識者の皆さんと意見交換。認定NPOを視野に入れた寄付の話など。人々の思いの受け皿が必要、といういい方は、まあある。一方で、「皿」側の当事者のツラさも、理解できる気がするのだが。たとえば今は。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月24日 0:12:21  
早稲田。えらいギョーカイの先生たちにケンカを売ってしてしまう失態。なんで特定の地域の話になるとムキになるのか私は。具体的な固有名詞と表情を思い浮かべるからか。「あなたはその地域出身なのか」と問われて、返す言葉がなかった。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月24日 9:26:05  
自宅。中央も現地も東京も、規模の大小についてもレイヤー分けせずに、活動が続いてきた時期が終わりつつある。次のフェーズへの移行。もちろん、厳しい被害の現地を置き去りにして、ということだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月24日 21:29:24  
武蔵小杉。緊急雇用創出事業臨時特例基金事業実施計画について考える。なぜにこんな長い名前なのかを。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月25日 10:06:19  
自宅。その場にいることの政治性、党派性について。悩ましい。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月16日 16:14:46  
日本芸術文化振興基金が、被災地等における日本映画の上映活動を支援。〆切は6月1日。実施は年度内。いわゆる半額助成。応募要件では「実績を有する」ことが必要だが、要・問合せか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月17日 13:28:31  
横浜。先輩に喝を入れていただく。「以前の現場で、組織についていろいろ考えた。そして、そのことを考えていること自体、駄目なんじゃないかと悩んだ」。経験に裏打ちされた、重いことば。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月18日 13:34:31  
市ヶ谷。私のことを「何でも怒りまくるオカシイ人」だと思っている方もいるようです。それで結構。現時点で腹立たしいのは、こんなときに、文化経済学会<日本>も、日本アートマネジメント学会も動静が分からないこと。東北の現場は、激しく動いてるじゃないか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月19日 22:06:55  
横浜。伝統芸能関連の若手のみなさんも、震災の影響でシゴトが減っている様子。少しでも、彼らの活動幅を拡げなくては。

---

ogawa\_tomonori · 2011年5月20日 14:42:25  
桜木町。招聘公演が数本飛んだ場合、全体収支はどう帳尻を合わせるのか。身をもって体験中の方とお話し。まずは年間プログラムちらしに押す「公演中止」ハンコを、シャチハタでつくったとのこと。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月10日 18:17:57  
横浜。事務局の仕事が遅い、という雰囲気の出し出しをされる。こちら調整すべき事情があるんです。ああ、全国の事務局モノ関係者とこの苦悩を分かち合う「事務局なくさめあいネットワーク」をつくりたい。問題は、その事務局をどこが引き受けるのか、という点だ。さ、仕事するか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月11日 1:18:50  
池尻大橋。気がついたらなんと、ゴールデンウィークが終了していた。私に断りもなく。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月11日 23:32:09  
渋谷。会って話をする事の大切さ、重大さを感じる。ちいさくても、あたらしい、誰かがちょっと楽になるアイデアを。…私は暮しの手帖編集部か。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月13日 2:59:14  
自宅。ゴロゴロしながら考える。外部じゃなく、自分の内側にある被災地。それを明瞭にするために、まちをあるこう。きついつか、知らなかった人のことを、もっと理解できるようになっていくはず。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年5月14日 23:00:03  
仙台で活躍する演出者の伊藤み弥さん、朝日のインタビューをテキスト版で。「百年後の人たちのために表現をしているのだという心意気」。記者は「文化で街を応援するという大きな目標に向かって、県内の表現者たちが集まったことは、画期的」。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月17日 23:47:27  
経堂。たのしい遊びのあと、子供たちの遊びの話。気仙沼でのツナミごっこの段取りを解説してもら。「東京から入った僕らはそれを止めないけど、現地の大人は、そりゃあねえ」。傷ついたらたくさん大人の思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月20日 9:45:40  
自宅。商店街の店先にはいずれも「節電中」の貼り紙。コンビニエンスストアの傍若無人な工事は全蛍光灯をLEDに付け替えるため。もう慣れたけど駅は暗がりの中にある。東京。少しずつ青空。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月20日 22:01:45  
横浜。ボトムアップ、トップダウン以外に、ミドルアップ、ミドルダウンということばが浮かぶけど、何のための単語が全然思い出せない。ぐらつくあしもとをみつめてあるとするか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月21日 18:16:52  
横浜。ビルの避難訓練。3ヶ月前の「本番」ではバタバタ逃げて、幸運にも大きな問題はなかったはずと思っていたが、避難誘導を指示したビル管理事務所に関係方面から細かな駄目出しがあったそう。今日は正しく誘導放送あり。「避難訓練参加人員報告書」を持参して、正しく避難した私。

---

## 6.22

「アーツエイド東北」発足

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月12日 18:31:29  
《専門性について》私は、演劇ワークショップを中心とした合意形成と演劇作品づくりに関する専門家のつもりだが「ワークショップ進行の専門家はいない」とさえ思った。現地では、個別分野の専門家を総合的に配置し活かす人材が足りないのでは。そのための情報も重要だ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月12日 18:31:45  
《東京について》首都圏の話題は、放射能、内閣、被災地の順。東京の地域性と、「中央」と俗に呼ばれる作られた全国標準を、ゴチャゴチャにして流通させているが、両者は本質的には矛盾することも。何が重要なのか。参考：毎日・南三陸町水道復旧率2%

---

## 6.15

改正NPO法成立（平成23年度税制改正による認定要件の大幅緩和）

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月16日 23:39:50  
黄金町。ごはんを食べながら熱心にシビンについて。「支援って特別なことのようにいうけど、ふだんから支えたり支えられたりしてるじゃんね」。閉塞した現代アートの突破口である、日曜大工ならぬ「日曜現代美術家」の動向など。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月17日 7:52:51  
アトリバイバルコネクション東北「ARC>T活動ブログ」。6月14日の早稲田大学フォーラム「大震災と芸術文化」のうち、盛岡・仙台・いわきの演劇関係の概況まとめ掲載。

---

## 6.10

独立行政法人日本芸術文化振興会「文化芸術活動への助成に係る新たな審査・評価等の仕組みの在り方について（報告書）」公開

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月10日 9:48:40  
日本心理臨床学会による『『心のケア』による二次被害防止ガイドライン』6月10日朝日朝刊掲載。ほんと腹に据えかねるようなこと、現地ではいろいろ起こっているのでしょうか。

---

## 6.11

「100万人アクション」として、大規模な脱原発デモが全国各地で開催

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月12日 18:31:08  
自宅。うじうじ考えることが多く、仕事まったく捗らず。各方面に不義理。この先、何がどうなるか全然分からないけど、いま3ヶ月たった、現時点での気持ち素直に書いてみようと思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月12日 18:31:19  
《現地との距離》私の仕事全般でもそうだが、点での関わりではなく、双方の線の交わりを志向することが何よりも重要。継続する関係の中で生まれるもの、お互いの活動の流れをもとに、共通言語を作っていくことが必要。参考：朝日・スマイルエンジン山形

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月1日 15:42:39  
みなとみらい。市民講座参加者がつどアトリエには熱気。日常生活に不安を感じる人も、作品創作に没頭できる。心の安寧を得られる、具体的なアートの現場。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月4日 0:26:06  
市ヶ谷。諸般の事情が相当ある。それでも、個人での動きをベースに、地味に。何も始まっていない。何をあきらめたわけでもない。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月4日 21:10:23  
笹塚。日本演出者協会『フェニックスプロジェクト』トーク。満席。いま望むことは？ 福島・町聡子さん「震災の作品化を」岩手・こむろこうじさん「地元に残る文化支援を長期で」宮城・鈴木拓さん「対面し一緒に考えたい」宮城・伊藤み弥さん「記憶を繋ぐため演劇が必要。見守って」。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月5日 0:12:01  
下北沢。部分最適と全体最適をめぐる総合調整。コーヒードンだけですが。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月5日 18:57:23  
笹塚。演出者協会トーク。いわて文化支援ネット・坂田裕一さん「壊れゆく文化の防波堤を。東北出身芸術家が来て欲しい」アトリバイバルコネクション東北・鈴木拓さん「仙台の現場、みんなの思考は止まっていない」流山児祥さん「他人ごとだと思ふな。芝居屋さんは考えなきゃいけないぞ」。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月22日 16:58:58  
卸町。10-BOX。夏の学校に参加。午前中はお茶会。東京側が被災者に質問するという世の中のフォーマットへの異議申し立てなどあり。午後、自分の感情を画用紙に書いてみる。私みたいに、赤いぐるぐる渦巻きがたち現れている人も。卸町五丁目公園には、仮設住宅が建っていた。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月23日 0:32:03  
卸町。ARC>T事務局。流れでミーティングにゲスト扱いで参加させていた。芸術文化分野での教育普及事業の中核的課題が山積。支援らしいことはできないけど、自分の問題として考えることはできるはず。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月23日 0:43:06  
勾当台公園。金沢市民芸術村の運営方式を参考にした仙台の10-BOXは、所定の手続きを踏めば最大延長が朝の8時30分。つまり徹夜稽古OK。行政系財団が運営する施設では全国屈指の使い勝手。知識として知っていたが、現場を目の当たりにするとやはりすごい。ARC>T事務局も早く帰るように。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月23日 22:11:22  
卸町。10-BOX。夏の学校『好奇心と創造のレッスン』。旧知の座・高円寺スタッフとコンナトコロで四方山話。WSでは世界の話をして、まちを造り、腹這いになって、未来を考えた。終わって、ARC>T事務局。笑い声が絶えない中でも、みんな驚くほど働いている。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月11日 23:04:24  
みなとみらい。カネがないが、カネがあればいいわけじゃない。ヒトが足りないが、誰かいたりあいいっててもんでもない。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月12日 18:06:55  
横浜。どうしても「優れた芸術(家)が世の中を変革していく」という考え方に立てない、むしろその限界に目が行く。何よりも大勢の合意形成を旨としたい。一般的な区分でいえば、自分は《保守》なのだろう。にわかに信じがたいが。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月16日 16:00:55  
読売「補助金不正受給、オペラ団体なぜ相次ぐのか」は核心をついてない。多岐にわたる必要な経費には「支援対象外」も多く含まれる。制度を変え、支援対象に入れればいだけ。不思議なことに誰も言わず、中間支援も動かない。現場だけが苦勞する。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月17日 17:03:25  
霞ヶ関。文部科学省『コミュニケーション教育フェスタ2011』。鈴木文科副大臣「電力供給不安定化と円高で、黙ってコツコツやる製造業の時代は終わった。これからは、身体性を伴ったコミュニケーション能力がなければ生き抜けない」と。コツコツとメモる私。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月8日 23:44:24  
『フェニックス・プロジェクト』トーク。盛岡・中村剛造さん「崩壊・再生がテーマの創作が増加。《不謹慎》な作品上演に悩む」仙台・鈴木拓さん「これまでは演劇人の専門性より人間性・社会性が重要だった。現在は文化的自粛ムード。今後はコミュニティ再生に向け中長期的な関わりが必要」。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月15日 21:25:38  
横浜。全国各地のゲンバと横浜の状況を比較する。いろいろあるけど、うん、横浜もなかなか悪くないな。途中でミシミシとビルが音を立てる。震度3。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月22日 22:43:25  
一方的に敬愛するプロデューサー・志賀玲子さんご一行と、仙台・ARC>T事務局の対話。阪神大震災関連の活動で記憶に残るのは、岩下徹が観客の子どもたちに殴られながら踊り続けた、という志賀さんの話。彼女のように「伝える人」になりたい。

## 7.29

東日本大震災復興基本法に基づく復興対策本部が「東日本大震災からの復興の基本方針」策定

## 8.1

独立行政法人日本芸術文化振興会がプログラムディレクター(音楽・舞踏)を採用

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月26日 22:32:59  
駒場東大前。状況を総合的にとらえる場が不足している、という認識で一致した。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年6月27日 23:47:10  
早稲田。民俗芸能を支援するために助成金をつける。すると「結」が崩壊し、結果的に支援とは逆の結果を招く。ここでは、システム自体が文化なのだという認識が必要。濃ゆい話題各種。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月1日 18:05:10  
横浜。認定NPO法人に関する書類読みなど。多くの人と接点のあるアートNPOにとって「3000円以上寄付する人が100人以上」という認定要件のハードルは、べらぼうに高いわけじゃない。やりようだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月7日 14:42:01  
武蔵小杉。NPOが公益的活動を行うなんて誰が決めたのか。寄付が何%だろうが、地方公共団体から嫌われようが、どうでもええがな。やりたいことをやるのがNPOで、すべてはそこから。と雑談各種。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年7月7日 21:51:16  
内閣府「新しい公共」推進会議の公契約専門調査会が地味に相当がんばってる。「政府と市民セクターとの関係のあり方等に関する報告」。6頁で契約書の柔軟化と前例主義撤廃、7頁でフルコストリカバリー、8頁で年度末剰余金返還方式の転換などを報告。痺れる。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月5日 18:55:40  
横浜。内閣府の新しい公共支援事業、現場に落ちてきた神奈川県の委託契約書案はすごい。発注者がギョーシヤに命令する口調。成果帰属先はほっとけば行政のみに、印紙代はNPO負担に、黙っていればなっちゃう。神奈川県なら委託じゃなく負担金で出せば良かったのに。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月13日 19:54:13  
横浜。ビルの休憩室は節電対応が終了、明るくなった。電車は、あと数日で通常ダイヤに、半年ぶりに復帰。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月18日 1:42:30  
「わたし」と「あなた」について考えていること。まず「わたし」について。「わたし」は何を考えようとするか。そのうえで「わたし」の考え方を「あなた」に適用できるかと思ったら、そんなわけはない。そこで、「わたし」と「あなた」は違うから、と答えるのは簡単だ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月18日 1:42:52  
「わたし」と「あなた」が違ったとして、そういう暮らしなのだとして、じゃあ「わたし」の中の「あなた」はどう成り立つか。あるいは「あなた」の中の「わたし」はどうか。あたながわるいながらも、ぼくはずっと考えてきた。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月28日 23:59:17  
自宅。10-BOX周辺のメモ。1964年、卸町が新産業都市に指定。1967年、流通センター第一土地区画整理事業（～71年）で流通業務機能に特化した土地利用を推進。2002年、10-BOXオープン。2003年、第七種特別業務地区指定。2015年、仙台市営地下鉄東西線・卸町駅開業予定。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月29日 0:03:47  
第七種特別業務地区では、流通機能の向上と賑わいの創出の両立を目指す。「劇場、映画館、演芸場又は観覧場のうち客席の部分の床面積の合計が200平米未満のもの」などは、例外的に建築が可能になった。これを踏まえて10-BOXとまち、地域、行政、文化、演劇の状況を捉えなおしたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月29日 0:14:37  
行政が主導するまちづくりの状況をシビアにみつめて、少しでも民間主導の可能性のある場所を確保するのが、どこかで横浜での自分の仕事になっていた気がする。その危うさと同時に、プラント内で勝手に発芽した種はどうなるのか、踏みつけられるのか、身をもって見届けたいという思いもある。

## 9.1

独立行政法人日本芸術文化振興会がプログラムオフィサー（音楽・舞踏）を採用

## 9.2

野田佳彦内閣発足

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月27日 19:51:47  
夏の学校『好奇心と創造のレッスン・おとなのための教室』。最終日。無事、自分の写真集ができあがる。荒涼とした写真ばかり。ふだんは東京で暮らす自分の心も3月のことで蝕まれているかのようだ、と弱音を吐いたら「そんなの当たり前だよ、日本中そうだ」と、人生の先輩方に励まされる。安心する。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月27日 20:02:32  
10-BOX「夏の学校」の講師、舞台美術家のヤコ・キムラさんのワークショップ進行は新鮮だった。悪いときには「良くないです」いいときには「まあ悪くないでしょう」。簡単には誉めない。参加者に表面的なサービスをすることは、技術でもコツでもない。自身のイメージに忠実であるかが彼女の指標。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月27日 20:17:23  
被災地・被災者という単語があるけれど、仙台の人はおろか、建物全壊で仮設住宅からワークショップに来ていた人も、にわかにはそのことばを自分や自分の暮らす場所の説明用語としては、使わなかった。使うとしても、常にカギカッコつきだった。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月27日 20:29:58  
「夏に仙台に行く」といったら大体「ボランティア?」と聞き返され「遊びに行くんです」と答えてきた。そのことを10-BOX周辺の演劇人に話したら「遊び、大歓迎」と本当にどの人も喜んでくれた。劇場の事業担当者はWS参加者が遊び倒したことに感激し落涙。劇場ってそんな場所。特別な夏だった。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月23日 23:10:50  
勾当台公園。56%が浸水被害を受けた若林区にある10-BOX近所の仮設住宅、から空きのまま3ヶ月が経過。仙台市内26%の仮設が空室。民間賃貸の行政による借上げ、いわゆる「みなし仮設」が進んだからとも。遊ばせておくのも、取り壊すのももったいない。妙案も出てきているようす。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月24日 17:06:05  
卸町。10-BOX。夏の学校『好奇心と創造のレッスン・おとなのための教室』。3日目。自分が撮ってきた写真と自分の心の距離を絵にしてみる。仙台のぼくより先輩の皆さん方と大騒ぎしながら、ダンボールでまちをつくってみる。詩も書きなぐる。薄曇り。仙台での豪華な夏休み。幸福について。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月24日 23:43:22  
卸町。ARC> T事務局。浦野野々島での10-BOXアウトリーチの話。実施内容は話題にせず、そこの給食がいかにかうまかったか、みんなが述懐。ささやかな温度。冷えた情報をつぎはぎしてたこれまで、分かったふりをやっぱり僕はしていたのだった。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年8月26日 16:55:52  
卸町。夏の学校『好奇心と創造のレッスン・おとなのための教室』。四日目。この数日で書いたクレヨン画と、撮りためた写真を一冊にする。足りないページ分の絵を追加で書いてみるが、だんだん症例の域に到達。仙台のシニアな先輩方より「震災後って感じだね」とほめられる。恐縮です。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月16日 18:51:22  
横浜。東北大学のせんだいスクール・オブ・デザインから冊子『S-meme 02』到着。「新宗教と巨大建築」が面白かった五十嵐太郎が発行人。核心に到達しにくい特殊な装丁。4月のデコボコの東北自動車道に似たアクセシビリティ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月17日 0:39:31  
[S-meme02:文化被災]執筆者が私以上の世代は明確に現場があり、その中で問題を考えている。建築史研究者の未指定文化財の被災による解体危機問題や、「アートだなんて大看板掲げて」被災地に来る表現者を諷める地元の美術館学芸員の言葉には「やれること、しかできない」という決意がある。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月17日 0:39:44  
[S-meme 02 : 文化被災] 30歳前後の執筆者は、狭義の公共文化施設なんて枠にとどまらず「文化」を広く冷静に見ている気がする。ライブハウスやチェーンの本屋、大手ミュージアムショップも自分の大切な文化の足場であり閉鎖は切実なんだ、と静かに憤る人も。なんかすっごくわかる。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月17日 0:39:57  
[S-meme02 : 文化被災] アイドル文化概況を書いた若い執筆者の「大好きな…さんが仙台に来てくれたことは本当に嬉しかった」という発言は、染みだ。感情を排除して自分も話すぎていたかも。志賀理江子という写真家の仕事は相当大きい予感。オタク系評論家の発言は全く機能していない。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月31日 10:09:31  
自宅。網羅化された行政的総合性が向こうにあって、その反対側に職業的専門性がある。ほとんどの人はその中間にいて、煽られつつも両極との距離を測りながら、立ちあげにくい軸を探している。中庸であること。庸とは何だろうか。イトーヨーカ堂でたのしく買い物することか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月2日 1:07:58  
新横浜。芸術家の仕事はもはや「イッパツやってやろうじゃん」ではなく、そこで暮らす人びとが顕在化するためのサポートだと思う。では「地域の人びとの可能性を引き出すために、イッパツかまそう」というのはどこに語義矛盾があるか。合意形成の問題なのかなあ。ゲージツ業界からどンドン離れちゃう。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月10日 0:13:27  
市ヶ谷。文化行政全般に関わる数々の課題、中間支援組織の持つ脆弱性、私のモチなさなど、現代日本が抱える諸問題について大いに憂える。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年11月10日 14:17:45  
横浜。博物館・図書館・文書館・公民館のシンポジウム視聴中。議論は「同感」だらけ。ただ、国の枠組みからこぼれ落ちる、公共ホールや劇場は置いてきぼりの感も。いわき・アリオス、仙台・10-BOXとか、がんばってる文化施設もあるんだけどなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月6日 22:03:34  
馬車道。人海戦術でも何でも、基礎データをとりまとめて示すこと。それが何より重要である。少しでも体力があるところが、まずかかるべき。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月17日 22:13:23  
門前仲町。門仲天井ホール。向井山朋子／夜想曲。満席。とても傷つきたいのだ。物理的な傷をこんなにも求めている。記憶の捏造も厭わない。夜想曲に掻き消される湊小、湊二小の校歌。ビルの向こうの生ぬるい風。ノイズ。門天のグランドピアノは石巻の泥まみれのピアノになり、最後は私のものになった。

---

## 10.23

トルコ東部地震 (M7.1) 発生

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月27日 0:18:16  
市ヶ谷。ひとの暮らす人口の疎密をもとに、「地方」ということばを使えば、何も見えなくなる。ローカリティを保持した自分の足場をもとに、相手と話をしたい。あがたには、あがたで。東京とは「中央」のことではない。僕が今いる、まちのことだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月28日 12:52:55  
みなとみらい。地域別ではなく、テーマ別のNPO中間支援組織の可視化。みんな必要だと思っけていても、なかなかできない。なぜだろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月18日 1:43:10  
アーティストという言葉に象徴されるような、個人をベースとした芸術のあり方が、世のならい。小口取引が可能な流通用のパッケージングがもたらされるのも、まあわかります。せつかくだから、ぼくはそれに背をむけたい。自己決定・自己努力・自己実現ということばには、陥穽がありません。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年9月25日 20:08:43  
横浜。相鉄本多。シンポジウム『演劇に出来ること』。盛岡・くらもちひろゆきさん、福島・大信ベリカンさん、仙台・鈴木拓さんら出演。パネリスト各々が原点を再発見した話など。一方（地域の演劇コミュニティ）というように演劇が主題化したため見えなくなるものも。そうか、ここは「劇場」だけ。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月1日 12:16:51  
自宅。文部科学省の24年度概算要求・要望が固まる。文化芸術関係の新規事業に、新しい公共にひっかけて「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」30億、「被災地における文化芸術による「心の復興」事業」17億を含めた復興・再興に33億。はてさて。

---

@ogawa\_tomonori · 2011年10月5日 22:02:56  
横浜。サポートセンター。NPO法人会計基準で採用が任意で求められている収支計算書改め「活動計算書」は、事業費・管理費と分かれている人件費を統合して示すもの。しかし、現場の評判が芳しくない。ただでさえ少ない人件費のヤリクリの実態が剥き出しになっちゃうから。うーん。

@ogawa\_tomonori · 2012年2月9日 0:07:02

RT @arct\_jjp: ARC>TはARC>Tとしては3 / 11は何もしません。静かにその日を過ごします。

## 2.10

復興庁発足

@ogawa\_tomonori · 2012年2月14日 23:42:10

横浜。痛切、哀切という言葉がある。哀しくて、ほんとうに切れたり痛んだりするのだと思う。ということは、ほくが何も分かっていないということだ。

@ogawa\_tomonori · 2012年2月14日 23:45:18

渋谷。ソフトランディングのやり方は誰も知らない。終わらせる、やめる、区切りをつける、前向きなあり方を探して。

@ogawa\_tomonori · 2012年2月19日 0:04:51

馬車道。TPAM-SePTラウンドテーブル『東日本大震災から約1年、これからも必要とされるアートのちから』。打ち上げを含めて、泣いた。取り返すくらい笑った。被災地と呼ばれる地域の人々に、苦しさを分けてもらいたい。それは僕の悲しみだから。喜びもまた。それは僕の幸福だから。

@ogawa\_tomonori · 2012年2月19日 17:32:22

日本大通り。シンポジウム『地域の伝統芸能(祭囃子・神楽)の保存・伝承を考える』。雅楽・能楽・長唄と違って家元制度のない囃子、神楽。担い手も高齢化。そこでNPOが神奈川県との協働事業で、ピーヒャララみたいな篠笛の口伝を数字譜化することに取り組んだ。近くの世界をこんなに知らない自分に驚く。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月28日 21:46:56

東松島。ケアハウス・花いちもんめ。玄関まで津波が到達した施設。デイケア利用者にスタッフが話しかける。「…さん、正月は?」「正月はないよ」「そうだよなあ、俺もだ」。地元の人同士だから共有できる暗黙知。ここでは仙台人も「外のひと」。利用者、職員を命懸けで守った施設長の態度に感動。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月28日 22:48:03

卸町。帰途、いくつかの地域を経由して帰ってきた。あちこちが更地になってた。にぎやかだった車内は、無言に。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月28日 22:49:57

仙台。そして僕はしゃべりすぎた!

# 2012

@ogawa\_tomonori · 2012年1月24日 22:51:18

桜木町。新しい公共支援事業・協働研究会。04年、市民活動共同オフィスの使用が市役所の一時的通告で打ち切られ、NPO界隈は大騒動に。「あれが協働を考えた第一歩だった」とみんなが述懐。同時に契約を切られたのはST運営時代の、パンカート1929馬車道。鳴り物入りの後釜は芸大映像コース。

@ogawa\_tomonori · 2012年2月3日 23:16:50

自宅。あの辺、土地が低いんだよなあ。みんな心配しすぎでないといいけどなあ。産経「横浜市の小学校近くで高い空間放射線量 近く除染へ」。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月1日 12:36:58

自宅。先日のシンポ、客席の静岡文芸大・伊藤さんの指摘を考える。彼が参照するのは、関東大震災。帝国劇場はこの災厄を機に貸し館化へ舵を切る。一方で、翌年開場した築地小劇場をみると、震災が若い演劇人たちの出発点となったともいえる。と。安易に現実を重ねてはならないが、大きな視点も欲しい。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月9日 2:01:36

自宅。被災地の学校に芸術家を派遣する、文化庁の事業がある。岩手・宮城・仙台・福島・栃木の文化系外郭が連絡先。実態はどうなのか。福島県文化振興事業団のサイトを見ると、地元の芸術家が少なくないようにも感じられる。どう評価すべきなのか。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月17日 0:15:08

早稲田。日本文化政策学会『文化の復興／文化による復興』。伊藤裕夫さん「劇場法制定下だったらどうだったか」島添貴美子さん「民俗芸能継承の窓口を」大澤寅雄さん「NPOの機動性、評価したい」松本茂章さん「政策の窓が開く好機」桧森隆一さん「文化政策はフアシリティからインスティテュートへ」。

@ogawa\_tomonori · 2011年12月24日 0:27:22

横浜。自分がいい加減に使っている言葉をもう一度調べてみる。ひところ活動の「公益性」を外から問われることが多かったが、体感的に減った気がする。公益法人改革のとき示された国のガイドラインが「公益」の多義性を奪った、というのは考え過ぎか。居眠りを挟みながら考える。

@ogawa\_tomonori · 2011年11月17日 0:40:08

[S-meme02:文化被災]東北大学の社会人向け連続公開講座的な場から生まれたと思われるこの冊子の特集テーマ「文化被災」の選択は暫定的に成功していると思う。3月のことと文化に興味がある「被災地外」の人はぜひ一読を。無料頒布とのこと。

@ogawa\_tomonori · 2011年11月20日 3:06:10

自宅。論旨把握、文脈理解のレッスン。アサヒ・コム:「復興教育」文科省が計画 非常時の判断力育てる。

## 11.21

文部科学省「復興教育支援事業三次補正」成立で、公募開始

@ogawa\_tomonori · 2011年11月30日 2:14:02

三軒茶屋。『3.11震災以降における公共劇場の使命』。「東京の作品を見てもらうのが一番だが、それでも水戸で成り立つ芝居が見えきた」と水戸ACM松本さん、64歳。「国が震災復興に係る芸術活動を特別に予算化するための声明を作ろう。その芸術的論拠の文章化を」と評論家・鴻さん、63歳。

@ogawa\_tomonori · 2011年11月30日 2:19:17

自宅。間抜けだろうがなんだろうが、もう僕は僕の見立てを基に話をするしかないです。

---

## 4.11

### スマトラ島沖地震 (M8.6) 発生

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月11日 22:08:31  
日本大通り。たしかに、NPO中間支援組織にとつての「商品」は、むずかしい。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月17日 2:04:50  
仙台で舞台人を中心に1年前設立された、文化による復興活動を行うARC>Tが定例ミーティングの中で決算報告。全国的にも、中堅アートNPOに比肩する2000万円を超える事業規模に。非施設運営系としては異例の好調な立ち上がり。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月17日 2:04:59  
一方で、国の補助事業の所管が復興庁に移管したことに伴う年度越えの連絡が同団体に未達だったため、継続が打ち切られた事業が出るなど「中央」の混乱が波及している模様。新年度の事業規模も予想が立たず、安定的な運営に不安も残している。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月17日 14:55:30  
鶴見。地域の文化施設間の「横の連携づくり」は、ようやく少しずつ始まってきた。それが強固な形として見えてくるまで、あと数年はかかるだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月27日 23:02:32  
横浜。20時過ぎ、友人のドコモ端末に神奈川県で津波警報発令と一報。気象庁のサイトで誤報だとの確認をとるまで、私は数分かかった。駅西口地下街は通常通りだったが、海に極端に近い東口なら、念のため避難したかも。神奈川新聞「県のエリアメール誤報」。

---

## 4.1

### アーツカウンシル東京準備機構発足

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月6日 14:47:16  
文化庁「芸術文化に係る補助金等の不正防止に関するまとめ」。補助団体への法人格取得奨励、ギャラ現金払い廃止、支払証明が容易な費目に補助使途を限定、外部監査、研修…。なんだこりゃ。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月8日 3:08:09  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。『あるくと100人会議』。震災後一年の報告、これからのまちとアートについて。七時間半の大議論。みんな驚くほど粘り強く、柔軟。地域間ネットワークというより、同じ問題を考える仲間。「部外者は帰れ」と怒鳴られないようびくびくしてた1年前が、嘘のよう。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月9日 13:50:20  
文化庁報告書「震災で危機的な状況が危惧される方言」。「寒いですね」が八戸「サムエスナ」九戸・種市「シバレルナッス」下閉伊・田野畑「サブゴザンスナンシ」志津川「サンメーネス」石巻「サムエネ」いわき・植田「サムイナエ」。多様性見本市の模様。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月10日 23:42:55  
自宅。小さな声に耳を傾けたいと願う人たちへ。全国で東北のラジオが聞けます。対象は、IBC岩手放送、TBCラジオ、ラジオ福島、IBS茨城放送、FM-IWATE、Date fm、ふくしまFM。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月14日 23:50:48  
横浜。夕方から2回ほど揺れる。海拔の低さをぼんやり考えていたら、明日の会議資料作成が間に合わないかもというプチ被害。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月15日 0:18:23  
メモ。ちょうど1年くらい遅かったのではないかと。日経「文化芸術で復興を後押し」。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月24日 1:36:46  
劇場法の進捗。超党派の議員立法で今国会にも提出。朝日「音楽ホールは"人材育てる機関"」。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月25日 11:49:47  
仙台。杜の部の演劇祭『葉指の標本』。標本にされる女。静かなエロス。噂の杜劇祭。会場となる一般の飲食店を劇場空間にするための、ホスピタリティあふれる環境づくりに敬服。女性中心のリピーターの存在にもうなずける。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月25日 12:25:03  
野蒜。ひしゃげた店舗、倒壊した信号機、更地、ナナメの墓石群、電車の来ないホームで遊ぶ子ども、仙石線・現ルートで早期復旧をとの夏の日付の横断幕、くずれた家。松島海岸→矢本、代行バスの所要時間は43分。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年2月19日 22:50:32  
横浜。STスポット。『復興ダンゴ』。老人ホームでの音楽空間を作品化する試み、第2弾。プレゼンテーションとしての作品を考える場合の、手法の探求。切れ味は鋭い。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月1日 0:14:52  
横浜。経理作業のクライマックスで、深夜の事務所に響く緊急地震速報。ビルが多少ミシミシいう。まだ、ただ中にいる。3月。終電。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月1日 23:08:21  
横浜。地下街の売り場に連日、人が並んでいる。東日本大震災復興支援グリーンジャンボくじ。1等前後賞あわせて5億円。こんなの当たったら恐縮である。2等の1000万くらいで良い。何に使うか悩ましい。暴飲・暴食・暴ブクオフあたりで良いだろうか。ああ、気絶するほど悩ましい。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月5日 20:29:33  
横浜。こんなぐちゃぐちゃなデスクでこもって仕事をしているけれど、同時に全国各地の仲間といっしょに働いている気もする。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年3月8日 0:55:36  
自宅。この1年でおぼえたことば。【いずい】居心地が悪く、しっくりこないさま。【んだ】肯定語。そうである、の意。【いもに】芋煮。作られるのは豚汁だが、実体としてはそれが振舞われるパーティーを指す。【ずんだ】漬し枝豆のこと。【どんぶく】はんてん。【ムネサン】さとう宗幸。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2012年6月19日 14:37:04  
文化庁「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」で、横浜はダンスフェスに1億。豊島区1.6億。十日町1億。大分1.1億。「メディア芸術地域活性化」で鳥取のマンガに2.9億。「心の復興」は茨城中心。「新国活用」は北上・仙台・新潟・松本・兵庫。

---

## 6.27

「劇場、音楽堂などの活性化に関する法律」公布

---

## 6.29

首相官邸前で大飯原発再稼働の抗議デモ(主催者発表15万人)

---

@ogawa\_tomonori · 2012年7月19日 23:05:37  
横浜。団体を問わず個別にがんばっている仲間がいることは重々承知の上で、全国の状況を見た一般論をすると、なぜNPOより外郭が優先的に公金を受け取れるのか理解できない。外郭正職員が食えて、NPOスタッフが食えないくらいに仕事の質の差があるとは思えない。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年7月20日 14:25:42  
文化庁「文化審議会第10期文化政策部会(第2回)東日本大震災集中ヒアリング」資料公開。資料2、仙台10-BOX・八巻寿文氏の「芸術と文化の渚」とその再生をめぐる比喻など、学ぶことが多い。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月27日 1:06:50  
宮城野原。辿りつくための目印としていた崩れたビルがなくなり、更地になっていた。迷う。復旧・復興といっても、これくらいのペースなんだ。今度は更地が目印になり、そのうち新しい建物が道しるべになるのだろう。順番に忘れていく。忘れたいのに思い出せない。冗談のように過ぎる時間のこと。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月31日 17:27:30  
本当に私は胸いっぱいです。文部科学省が作ったサイト。ネットで演劇体験「演劇メーカー」。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年6月12日 0:30:02  
産経「NPO支援廃止・内閣府仕分け」。新しい公共の場づくりのためのモデル事業などが標的。はっきりいって各都道府県の公募の「出し方」が柔軟性を欠いてて駄目だった。金額や事業目的と同等に衆目の注意が注がれるべき。織り込み済みとはいえ、残念。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年6月15日 23:45:46  
横浜。NPO法人STスポット横浜の総会。きょう参議院文部科学委員会を通過した劇場法の今後をはじめ、国や地方自治体の文化行政の方向などについて侃々諤々。ゲンバの苦労が、制度・政策の改善につながりますように。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月14日 21:18:21  
みなとみらい。公契約研究会。茅ヶ崎・相模原・鎌倉・川崎各市行政の協働事業提案制度の比較検討。横の連携づくりは課題のまま。県域の中間支援機能がいまこそ必要。とはいえ協働をめぐる問題は、踊り場到達感があるのも確か。横浜では市民協働条例を公明党市議団が提出する動きがあり、バタついてる。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月16日 1:38:47  
自宅。文化芸術による復興推進コンソーシアム設立準備事務局の「ご賛同登録」の案内。文化庁・公文協・芸団協ライオン。大まかに賛成するけれど、それがどの程度の賛成なのか、自分でも判断できない。新沼謙治には、かなり賛成。紺野美沙子には、やや賛成。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月27日 1:06:09  
岩沼。障害者福祉施設しおかぜ。ダンサー・千田みかささんたちのワークショップ。誰から指示されたわけでもないが、唐突にとりなり女子が「ピッ」といいながら私をつつく。モテモテ気分。そういう自分内流行が自由に出せる時間なんだなあ。いいなあ。私が満員電車の中でこれやったら問題だろうなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月25日 0:37:34  
桜木町。公契約研究会。市内18区に1つあるNPO運営の子育て支援拠点は、行政との対等性を担保するため契約で闘ってる。現状の契約書は協働協定書・役割分担表、委託契約書・委託契約特記事項・設計書(経費内訳)・仕様書・実施条件書・個人情報関連書類の8種。協定書には前文として理念を明記。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月28日 22:23:05  
愛宕橋。向山幼稚園。『ダンス幼稚園』。コンテンポラリー、バレエなどさまざまな分野のダンサーや観客の子どもがらが青空のもと、2万平米ある園の各所で踊りまくり。大声で笑ってもいいし、ダンサーに触れたって構わない。私は雲梯から眺めたりした。「幼稚園からやり直したい」との大人の意見多し。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年4月28日 22:23:37  
東京。仙台のみんなとのつきあいは、この連休でちょうど1年。想像もしなかった未来という大げさだけど、過不足なく、こんな感じのものかもしれない。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年5月2日 1:18:10  
横浜。政治ということばを過剰に怖がったり、その逆として、面白視点で眺めたりというのを、そろそろ超えたいと思っている。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年9月2日 0:49:09

宮城野原。能・BOX『少年少女能楽団・舞と謡の発表会』10-BOX『雄勝法印神楽奉納』卸町公園『卸町芝能・殺生石-白頭-』。神楽は老若男女100人、野外能は200人の観衆。いずれも「オープン当初から東北の芸能のなかにひそむ演劇的な魅力」を研究・紹介してきた10-BOX十周年記念事業。

@ogawa\_tomonori · 2011年9月2日 0:50:10

文化芸術ギョーカイは、地域の民俗芸能・生活文化と戦略的に距離を置くことで自らの存在を正当化してきた歴史が、特に大都市圏ではあると思っていた。仙台の芸能にかかわる人たちと震災以前から継続的に交渉を持ち、地味に支えてきた10-BOXのあり方には、今回教えられることが多かった。

@ogawa\_tomonori · 2012年9月2日 0:51:02

神楽の祝詞読み上げのとき、10-BOX工房長から若い観客に至るまで、みんな頭を下げて拝聴していた。無宗教の自分も、自然とそうなった。演劇のある場を技術論だけで語って片づけようとする、傲慢な気持ちをごどこかに巣くっている自分に気付いた。そのあと石巻の神楽に驚き、たっぴり笑った。

@ogawa\_tomonori · 2012年9月4日 16:16:41

文化庁の目玉新規事業「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」の採択結果が公表されたものの、32億の予算のうち予算消化率はわずか50%強の17億円。初年度採択は89件。残り15億円はどうなるのかなあ。

## 8.8

沖縄文化活性化・創造発信支援事業（沖縄版アーツカウンシル事業）開始

@ogawa\_tomonori · 2012年8月9日 0:51:14

文化庁・文化審議会文化政策部会第3回資料公開。提言案は劇場法より震災の影響を色濃く反映。集中ヒアは釜石・伊東豊雄氏、いわき・大石時雄氏、山形・宮島達男氏ら。

@ogawa\_tomonori · 2012年8月10日 21:13:11

渋谷。ヒカリ工。『甲斐賢治×桂英史トークセッション』。仙台の震災アーカイブ「わすれん」から考える、自分サイズの世界の輪郭とメディア。飛距離を持つ「作品」、つまり映画を肯定しながらも、作品にまともきらない断片映像をかこんだお茶会も思案中とか。その危ういバランスに心打たれる。

@ogawa\_tomonori · 2012年8月20日 23:14:51

横浜。公共性をめぐる議論が、しばしば公益という言葉に絡めとられる。公共とは、非排除・非競合を表す外形的な概念。利益の話は関係ない。だから要するに、もっと好き勝手やればいいわけだ。

@ogawa\_tomonori · 2012年8月21日 1:52:18

自宅。NPOギョーカイが大騒ぎしている改正NPO法の目玉である認定・条例指定NPO法人制度では事実上、団体の活動が行政の計画・施策と合致しているかが問われる。公益を盾にして、自由を売り渡し、税制優遇を引き出した形。本当に良かったのだろうか。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月24日 21:04:21

横浜。社会企業の評価を行う専門家ならば、新しい価値観づくりに向けての評価軸を創造すべき。自分の活動にかけ算を繰り返しカネに換算するだけなら、ただの計算。「アンケート調査は客観的指標にならない」「お金以外にわかりやすい評価軸はない」なんていわれてうなずく手合いまでいる。怒り狂う。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月27日 19:55:45

国会議事堂前。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月28日 21:43:55

湯島。3331。東京アートポイント計画『「評価」のためのリサーチの設計と実践』。NPO法人 recip によるアートプロジェクト評価の体制づくりの実例紹介。評価される対象から、評価を使う側へ、さらに評価を活動の哲学に繰込む地平まで。カネの話はなかった。それはそれで、健全だと感じた。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月28日 21:45:54

東京アートポイントの成果物は豪華すぎじゃないかという私の中の少数意見はさておき、アートプロジェクト評価の報告書は、やはり必読。2010年メセナ協議会進行の講座 2011年現場担当者による連続ヒアリング。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月31日 20:04:45

地域創造の報告書「地域における文化・芸術活動の行政効果」。全国百事例のうち横浜からは、アーツコミッション・ヨコハマ、黄金町バザール、KOTOBUKIクリエイティブアクション、横浜市芸術文化教育プラットフォーム、横浜下町パラダイスマつり。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月20日 14:26:07

平田オリザ氏、政府の文化芸術関係予算や寄附の受け皿となる東北アーツカウンシルと、国立文化施設設置を含んだ「文化芸術による東北復興方針」の策定を展望。文化庁「文化審議会第10期文化政策部会（第2回）」東日本大震災集中ヒアリングに回答。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月22日 12:57:37

仙台で文化芸術による復興支援を行うNPO事務局長による現在の状況説明。キビシイ…。QT @arct\_jp RT @taku\_\_\_ 個人的にはこれだけの活動を行えば、何かしらの支えがあると思ってきました。特に行政。しかし、現時点でARC>Tの活動を維持継続出来る確証は何もありません。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月23日 0:55:05

自宅。廃止秒読みの内閣府・新しい公共支援事業。NPOが国や地方自治体から後払いで出される事業資金へのつなぎ融資を想定した「利子補給事業」は、全国でどの程度活用されているのだろうか。NPOバンクとの連携はできているのか。

@ogawa\_tomonori · 2012年7月24日 2:14:37

自宅。合意形成の多様な手法として「計画細胞会議」「市民陪審制」「コンセンサス会議」「討議型意見調査」あるいは「共同事実確認」に注目していたけれど、震災・原発事故以後、いくつかは具体的に使われるようになった。掘り下げたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年11月20日 21:00:16  
仙台で文化を通した東北の復興を目指し、昨年4月に立ち上がった「あるくと」。設立時に決めた時限・二年のその先、「この場の未来をいかにつくっていくか」をめぐり、大きな曲がり角。RT@arct\_jp「見続けるということ」  
<http://t.co/aOdzE45D>

---

@ogawa\_tomonori · 2012年11月23日 23:14:21  
水戸。水戸芸術館。「3・11とアーティスト」。震度6強、死者2名、原発から120キロという、水戸の距離感覚。「芸術家」「作品」という括りの不可能性。タイムライン区分の有効性の揺らぎ。各種制限を踏まえた上で、それでもこの土地から見えた、ひとにぎりの真実へ向けて。12月9日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月8日 0:20:22  
自宅。津波警報発令地域で暮らしているみんなのことを思い浮かべた。僕は、海の間近にある会議室の長い揺れで、駄目だったらどうしようかと思った。早朝の地震速報で起き、夕方地震で会議は事実上打ち切り、警報解除を経て、震えた一日が終わる。きっと似たようなもんだよね。おやすみ、おやすみ。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月10日 23:00:43  
新橋。『GB Fundフォーラム』。震災直後に立ち上がった、民間の芸術文化による復興ファンドの助成活動報告。参加者130人超。この基金が可視化したものは大きい。たとえば、個別の地域コミュニティとの関わり方、アートの特権性と暴力性、民俗芸能の本来的価値…。「5年は続ける」とのこと。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2012年11月5日 18:56:56  
横浜。地域創造から啓発リーフレット見本が到着。アートが「地域や住民にもたらす多様な効果と便益」として(1)安心・安全(2)福祉(3)教育(4)観光・商工(5)地域の環境(6)地域・コミュニティ、と列挙。「(1)地域住民の互いの顔が見える安心感を醸成」が筆頭か。ここまで来てるのか。

---

## 11.18

STスポット開館25周年

---

@ogawa\_tomonori · 2012年11月19日 23:49:01  
横浜。学生時代からその道に進み、社会人キャリアのあたま10年を原子力発電のエンジニアとして捧げた先輩には、過剰な期待も失望もないようだ。「まあ原発なんて今すぐ止めた方がいいんですよ」と付け加えてた。政治家を説得するに足る、理系のシンクタンクってどんなものなのか。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年11月20日 0:58:30  
自宅。「被災地」でのアートによる取り組みには、成功も失敗もあったし、今もあり続けているはず。私のように、見苦しくつんのめる人間も、いっぱいいただろう。地域性を掲げるアート関係者の一部が夜郎自大に過ぎなかった現実もまた。結局は、自分の活動と態度で示すしかないのだろう。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2012年10月4日 1:16:39  
自宅。自分自身はガッコーの仕事ばかりやりたいわけではない。だけど、システムというルートの入口係を誰かがやらないと、結果的に全体が閉じてしまう可能性が高いと思っている。もやもやする。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年10月23日 15:20:05  
文化芸術による復興推進コンソーシアム「東日本大震災、文化芸術の復興・再生の取組み」。webでも公開。各県公立文化施設協議会、メセナ協議会・GBFund、仙台・ARC>T、民俗芸能の動きなど200頁。次の災害ではこの報告書が参照されるだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年10月24日 19:10:23  
陸前原ノ町。『ひやくねん広場』。区役所とホール間の広場には、昼は制服の大人、夕方には子供、夜は有象無象のダンサーたちが参集。ひとの一生より長い「百年に一度」の言葉の氾濫に、マルケスを下地に逆襲。繊細な個と溢れる群が拮抗。踊りたくなる。音響・照明スタッフは事実、踊っていた。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年10月29日 15:22:13  
「横浜市文化芸術・創造都市施策の基本的な考え方(素案)」パブコメ切は11月19日(月)に延期。市の基本方針は(1)市民の文化活動支援(2)次世代育成(3)アーティストの創造活動支援(4)賑わい・観光・MICEの順。創造都市は、3番目。

---

## 11.1

アーツカウンシル東京設立

---

---

@ogawa\_tomonori · 2012年9月8日 0:09:32  
文化庁が平成25年度の概算要求の概要を公表。総要求額は昨年度予算から微増。新規事業の重点要求は、劇場法成立を受けた「劇場・音楽堂等活性化事業」30億、「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」13億など。どうなるものやら。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年9月14日 21:49:42  
横浜。高円寺の阿波踊りのように、真ん中に核がないものも増えたけれど、もともと「民俗芸能の事業評価」とはどんなものか。経済効果だけじゃないだろう。何らかの基準で判断するその体系とか、合意のあり方というのが知りたいものだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年9月14日 21:51:35  
桜木町。猛スピードで6月に成立した横浜市市民協働条例は、11条で行政系事業をしているNPOは全事業を役所に届け出なければいけないなど、無茶苦茶である。「未熟な条文で全国の笑い物」と憤る人も。議員立法の数だけを公約にした市議を選んだ結果。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年9月19日 22:19:47  
自宅。残暑のため東電管内の電力の需給バランスが崩れているが、私の所管する靴下の需給バランスも不安定である。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月28日 1:31:05  
自宅。阪神・淡路大震災から18年と12日。災害に対する芸術家たちの動きは、連続・不連続的にずっと続いている。仙台でのミーティング『なんのためのアート』の配布資料をみて、東日本大震災からの活動は始まったばかりなのだと思える。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月31日 11:39:15  
自宅。ある地域の芸術・教育普及事業に関わる集団について「あそこは職安だ」と批判があるという。実に面白い。私もむかし「カネ目的だろう」といわれ、極悪誘拐犯になった気がした。ぜひ新橋あたりでも、カネ目的で働いてるか調べてほしい。ゲージツ村は小さくて幸福です。青空。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年2月2日 23:25:30  
自宅。札幌にある生活支援型文化施設『コンカリーニョ』のことを考えていたら、揺れはじめた。津波の心配はなしとのこと。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年2月9日 0:13:33  
桜木町。『横浜アートサイト2012報告会』。17の横浜市内のアートプロジェクト報告は年一回の続きモノの物語のよう。分類すれば、(1)フェスティバル(2)マイクロレジデンスなどの地域滞在(3)医療・福祉に隣接した少数者／偏見とアート。大澤寅雄氏の秀逸な進行。私はこの企画のファンだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月14日 23:41:04  
阪東橋。パラダイス会館。『仙台のまつりアーティスト門脇篤さんと3.11以降の宮城を話そう!』。アーティスト、作品、アートプロジェクトという言葉の共通認識がとられないまま「震災復興」という錦の御旗で上げ底されている企画は、たくさんあるだろう。たぶん、みんな言わないだけで。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月17日 20:38:14  
横浜。政権交代に伴う、文科省の次年度概算要求見直し。「文化遺産を活かした地域活性化事業」新規で34億円。「新進芸術家育成事業」3億円増、「子どもの文化芸術体験事業」も3億円増。高校就学支援や、義務教育国庫負担は減額となっている。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月27日 1:39:52  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。『なんのためのアート』。表題に鼻白み、そして考える。誰のためでもないか、私のためか、私たちのためか、今を生きる人たちだけのためか。東京・文プロの香りがする設えの中、熊倉純子、港千尋両氏が、考えることで傷ついた自分を乗り越えようとしてたのが印象的だった。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年1月27日 2:14:04  
あおば通。『全国アートNPOフォーラム in 東北』。気仙沼リアス・アーク美術館、山内宏泰氏の報告は、慟哭を押し留めたまま怒っているよう。位相と振幅と時間軸が混乱したまま津波痕を撮影する日々。そこで偶然みつけた、汚水に映ったビルと夕陽の美しさを語っていた。美そのものだと、私も感じた。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月15日 22:06:56  
苦竹。組織を立ち上げること、続けること、作り直すことの順番で難しくなる。自分の立場上、発言権が制約されているのは承知の上で、思うことは申し上げた。みんなが納得できる形になるよう祈り、見守るばかり。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月15日 23:19:53  
勾当台公園。考えるテーブル『からだできく、からだではなす』。マッサージと真似っこから、からだ同士の関係を再考する。二つのからだはふれあうときの類型に、暴力と性愛がある。なるほど。ケアとサービス、そしてゲージツの営為の関係はどうなってるのか。Rのついた黒板をにらみ、考えた。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月16日 11:13:42  
自宅。昨日のメディアテーク『螺旋海岸』。全部がどうしようもなく並列。すべての写真の撮影状況について胸ぐらつかまえて詳しく聞きたいのと同時に、まったく聞きたくない。螺旋の外のソファから見えるのは百枚のベニヤ、あの日のNHKの空撮でみた世界のよう。時間の混濁。朦朧。1月14日まで。

---

## 12.26

第2次安倍晋三内閣発足

---

# 2013

---

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月14日 0:58:53  
自宅。原発再稼働とエネルギー政策、被災地域住民の生活再建支援、消費増税をめぐる対応、改憲の4点で、少しでも政策に納得できる政党・候補者への投票を考えています。事前の結果予測がどうであろうとも。他方、結果を絶望する準備も着々と整えています。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月14日 15:41:47  
横浜。事務的な動きを見ても、政権交代は確実なのだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月15日 2:03:54  
宮城野原。文化芸術による復興を掲げる。ARC>Tの50回目の定例ミーティングにアボなし参加。アートNPOでは前例のない経緯と事業規模を持つがゆえ「通常運転」の方向性も見えない。叶うならば、いっしょに悩みたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2012年12月15日 13:08:53  
あおば通。『つめたいよるに』。5年目を迎えた杜の都の演劇祭のプログラム。濃厚な死の香りを混えた童話を書いていた、私も大好きだった頃の江國香織作品のリーディング。咲き誇る街角の花屋での上演。ちょうどいいタイミングの死なんてない。それが、苦しいほどにこの劇空間とつりあっている。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年5月27日 23:47:31  
自宅。文化庁「文化芸術立国中期プラン」に「学校や地域における芸術教育（技術を教えるのではなく、創造性を引き出す）の充実」が入った。それはともかく委員が秋元康様、黛まどか様、三木谷浩史様、呉善花様…なんとゆうかすごい面々。立国できるか。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年6月10日 20:49:43  
横浜。法改正でNPO法人の提出書類が「収支計算書」から「活動計算書」に変わった。名称変更はともかく、具体的にどの部分が書類上で新しく表現できるようになったのかNPO・中間支援サイドでもっと呼びかける必要がある。様式に魂が宿る、みたいなことってたまにあるから。あんま信じないけども。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年7月11日 23:19:08  
横浜。文化庁の「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」の動きが急だ。議論としては、アール・ブリュットのナショナルセンターを作ろう、という方向に動いているらしい。なるほど、そういうものなのか。まもなく中間とりまとめをやるみたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年7月12日 22:17:15  
日本大通り。行政がよくやる地域文化への助成金制度は、相当考えた方がいいと思った。「カネだけ欲しくて、あとは何も要らない」団体は少ない。つながりやらノウハウ、組織運営へのアドバイスをこんなにも求めている。カネだけじゃない。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年4月27日 23:47:58  
勾当台公園。仙台南部・向山幼稚園での『ダンス幼稚園』に地域の不思議を見る。お金を出せば幼稚園の敷地利用権は買えるだろうけど、園側の協力・応援体制と作品への期待は買えない。観光目的の大規模な集客を想定せずに、二百人規模のクール企画に踏み出し成功させてしまう企画サイドの鷹揚さと力量。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年5月8日 2:02:03  
自宅。3月に全面再開し、新常設展『東日本大震災の記録と津波の災害史』を始めた気仙沼のリアス・アーク美術館へ出かけた大先輩からメール。「膨大な写真資料は、どれも堅牢で美しいものばかり」と。私が生まれて初めて仙台に出かけた日から、丸2年。いろいろ、忘れていません。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年5月11日 19:22:27  
東大前。フォーラム『被災地みやぎのいまと出会い、つながる一日』。地域創造基金みやぎの事業指定寄付『あづめっちゃ』は単純なクラウドファンディングではなく、寄付する・されるの境を超える、対話を核にした良質な市民活動支援。中間支援の鏡。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年5月11日 19:33:42  
大きな被害を受けた南三陸・石巻の農漁業地帯で暮らす外国人妻の就労支援「笑顔のお手伝い」、住民の相互扶助的な方針を内包する亶理町での高齢者傾聴「亶理いちごっこ」、仙台を拠点としたダンスによる地域アートプロジェクト「ダンス幼稚園」など。重く、かつ明るいスタッフの方たちとたっぷり話す。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年3月16日 1:08:05  
四谷三丁目。国際交流基金。日本・チリ交流事業『はるかな友に心寄せて』。2010年2月27日のチリ地震被災地・コンステイトウシオン市と南三陸の高校生同士の音楽による交流。日本屈指のメディエーターの手腕を見る。両国で関わった芸術家の解釈、説明能力の高さが抜群のアートプロジェクト。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年3月18日 23:15:07  
自宅。「福島第一原発で停電、燃料プールの冷却装置停止」というニュースに淡々と向き合う。もちろん、それがふつうの暮らしであるはずがない。

---

## 4.4

ARC>T 活動終了、ARCTへ

---

@ogawa\_tomonori · 2013年4月5日 0:46:55  
横浜。舞台芸術関係者が集まった文化による東北復興支援団体、仙台のARC>Tが現行体制での解散を宣言、新体制移行へ。とにかく人が集うところから始まった活動が、学校や福祉施設、避難所などでの芸術活動への展開に広がった。驚くべき精力的な快進撃だった。心から敬服。今後にも大きな期待。

---

## 4.20

四川地震 (M6.6) 発生

---

@ogawa\_tomonori · 2013年2月18日 19:46:41  
横浜。ヨコハマの「地域福祉保健計画」で示されている圏域は、市域（1コ）→区域（18区）→日常生活圏域（145圏域）→地区連合町内会（249地区）→自治会町内会→近隣、自治会町内会の班（組）程度、と6層。文化芸術ギョーカイの現状は、せいぜい区域まで。この分け方がいいかは別の話だが。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年3月1日 15:22:53  
横浜。「人を殺しちゃいけない、と教えるのは学校。ときには人が人を殺すこともある、それはあなたかもしれない、というのが演劇」。十年前に直接聞いた演劇人・佐藤信のことば。森美術館の騒動でまた思い出した。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年3月6日 1:23:50  
横浜。先月出演したダンス教育シンポも、昨日参加した音楽教育系フォーラムも「教育事業に関わることで、芸術団体を社会化していく」のが目標にある点で共通している。理念的にはよく分かる。一方で、学校教育現場とが結び向き合った際の文化芸術サイドのある懊悩は、問題として残されていると思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年3月16日 0:51:44  
六本木。国立新美術館。シンポ「文化芸術を復興の力にII」。大槌・佐々木健さん「岩手県下の復興基本計画の2割に《文化》の文字がない」仙台・鈴木拓さん「プロジェクト化されない小さな動きが取りこぼされつつある」福島・懸田弘訓さん「地域の要である祭・神楽の不在は生きる場がなくなることに等しい」。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月14日 8:21:09  
一ノ関。東北本線鈍行の車窓、曇が積み上がり、すすきが揺れてた。穏やかな月曜の空。モーニングセットのゆで卵の殻が剥けず、朝から必死になる。電車の連絡待ちは、平気で2時間。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月14日 14:09:25  
気仙沼。リアス・アーク美術館。常設展『東日本大震災の記録と津波の災害史』。写真の隣にある、悩み考え絞り出された濃密なキャブ。その場で受け止めると倒れそうになるのでメモを取った。大津波と、地域文化、美。いずれにも当事者として向き合っている。図録は年末刊行予定。震えるほど良かった。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月15日 0:42:42  
宮城野原。10-BOX。『方丈の海』。四畳半ほどの広さの場所で、日本海溝から天まで届く、豊饒な海の物語を構想した劇作家の遺作。方言の説得力。東北人という強いアイデンティティ。つくり物が次々にあらわれる空間。時々のおいを都度都度作品化できたというのは、幸福なことだったんだろうと思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月15日 1:12:06  
【リアス・アーク美術館の常設震災記録展のことばメモ】「我われは文化まで破壊されたとは思っていない」「私たちが自ら捨て去らない限り、文化は生き続ける」「私たちは地域文化として、津波災害をとらえていかなければならぬだろう」

---

## 9.7

2020年夏季オリンピック・パラリンピック開催地が東京に決定

---

@ogawa\_tomonori · 2013年9月18日 1:12:52  
自宅。課題解決型プロジェクトは、わかりやすく支持を得やすい。クラウドファンディングがしばしば課題をチャートのように、極限まで整理する手助けをしていることもある。でも、本当にそれだけでいいのか。ジワジワと土をつくるような仕事をしている人に、自分は学ばべきところが大きいと思った。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年9月25日 21:56:58  
日ノ出町。「川」といえば緑や自然に分類されると思っていたが、行政的な正解はズバリ「下水」だった。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月13日 22:44:04  
陸前原ノ町。宮城野区文化センター『DANCE TRUCK PROJECT: 2013』。きらびやかな文化施設の隣に、剥き出しのトラック。なぜだかアウェイ感が漂い、横浜や東京での公演より、らしさが増している。出演者全員のセッションというポーナストラックに興奮。14日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月14日 5:22:38  
陸前高砂。行き電車で一緒にだったおばちゃんは、山ほどの東京ひよ子を持っていて「わだすは、タカサゴの者です」と教えてくれた。あの時くれたオロナミンCを飲む。朝焼けだ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月16日 0:34:03  
日本大通り。アートプロジェクトものを見るときは、集客のあるメイン企画よりもその前段にある半公開のプレ展開をつかんでおくこと。また、企画会議がどんなメンバーで行われていて、どんな時間が流れているのか体感しておくこと。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月23日 0:34:39  
陸前原ノ町。パトナシアター。『ひやくねんモンスター』。鍛錬されたそれではなく、ごくごく中庸な、だけど唯一無二の、つまり私のような身体で語られる100年。障害者施設や避難所などで重ねたワークショップを通した互いの身体への信頼が、そのまま作品の中核になっている。装置も、得もいわれぬ質感。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月25日 15:30:05  
日本大通り。横浜市都市発展記念館。大槌町の写真展最終日の、声のパフォーマンス。参加型企画だったことに始まってから気づき驚いたが、やってみた。みんなでmやn、a、uそしてoをハミング。倍音が館内に響く。自然と目をつむる。黙祷以上に、祈りに似ていると思った。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年9月3日 23:53:39  
日本大通り。『理想と現実のはざま〜日本版アーツカウンシルの動向から考える文化行政の未来〜』。国の芸文振のほか、東京、大阪、沖縄のプログラムディレクターたちの話。マネジメント人材の「溜め場」としても機能する中間支援。当たり前だけど、アドボカシーは発展途上。10年後はどうなってるかな。

---

## 7.22

大阪府市文化振興会議・アーツカウンシル部会（大阪アーツカウンシル）第1回部会開催

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月8日 23:50:16  
自宅。今日、海の近所での打合せ中、携帯電話の緊急地震速報が鳴り響いた。奈良で震度7との表示に「これはむずかしいかな」と思うのと同時に、自分とこの劇場の誘導状況シミュレーションやら、他の施設の情報収集方法などがざざっと頭を駆け巡った。誤報で何より。あれから少しは学習できたろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月14日 20:31:02  
日本大通り。横浜都市発展記念館。市内各地をめぐるほどに関東大震災、横浜大空襲、米軍接収の影響が土地に影を落としている。その膨大な資料が一望できる施設。17・18日は「夏まつり」で全館無料らしい。もともと無料の1階では、大槌町を撮った写真展『だけど僕らはくじけない』が25日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年8月15日 0:24:22  
自宅。今日は68回目の終戦記念日。戦争ははるか昔のようだけど、まだまだ横浜市内には470 ha（東京ドーム94個分）の米軍施設が残されていて、国内大都市の中では最大面積。市役所の中にも「基地対策課」があったりする。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月27日 23:46:57  
関内。1979年から82年まで、横浜の文化情報を集めた雑誌が存在したという。その名もズバリ『市民と文化』。この種の雑誌はどのタイミングでか、焦点が議論や交流から情報へと移り、さらに商品化していったのではないだろうか。私は「びあ」的なものを以降しか知らない。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月30日 0:23:15  
新宿。文化芸術の分野では、中間支援機能に関する検討が議論の焦点になっていないと感じる。けっこう大事なんだけどなあ。

# 2014

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月1日 22:19:33  
日本大通り。10年近く前、ある研究会で「本当に必要な事業であれば、担い手がNPOだろうが何だろうが、そんなのはインフラと同じだから、行政はしっかりカネを出し続けるべき」と主張したギョーサーの人を思い出した。あの時は胸がすいた。問題は「必要」というところだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月14日 22:30:13  
日本大通り。決算書には現れにくいけど、地域での活動を拡げていくための第1歩は、物々交換にある。2歩目や3歩目もそれで押し通せたらスゴイことだ。NPO会計基準では、無償ボランティアを会計的に財務諸表で表現することだってできるわけだし。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年11月30日 21:04:11  
表参道。特定秘密保護法反対のデモ。私はこれくらいのことしかできない。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月1日 16:12:51  
表参道。青山学院。日本文化政策学会フォーラム「コミュニティ・プログラムについて考える」。議論は、市民参加企画によってどう文化施設を生き長らえさせるかばかり。誰もコミュニティ系事業を本気で考えていない。現場の芸術家の苦労や、被災地での取り組みなど、中央には全く届いてない。激昂、中座。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月5日 1:48:08  
自宅。鶴見俊輔による1960年の『限界芸術論』では「非専門的芸術家によってつくられ、非専門的享受者によって享受される」演じる限界芸術の例で「デモ」が挙げられてる。その他の例は、祭、葬式、見合、会議、家族アルバム、記録映画、いろはカルタ、百人一首、双六、福引、宝船、門火、墓まいり。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月9日 0:35:17  
自宅。シゴト人生で初めて「あなたが尊敬する制作者は誰か」と問われた。お世話になった先輩方を除いて、必死に考えた。どちらも、一緒に仕事をしたことがない人。志賀玲子。八巻寿文。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年12月17日 22:29:46  
横浜。個人とか、法人単位でモノを考えても、どんどん仕方なくなっている。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年11月17日 17:24:16  
横浜。平成22年度の資料で政令指定都市の昼夜間人口比を見ると、横浜市は91.5%で夜に30万人帰ってくる計算。安定している方らしい。大阪府は132.8%で昼に90万人流入してインフラを使うものの住民税は入らない。なるほど、だから大阪府はムキになるのか。文化芸術との関係も考えねば。

## 11.20

オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて「文化庁及び観光庁の包括的連携協定」締結

---

@ogawa\_tomonori · 2013年11月20日 22:40:17  
次年度に文化庁は、小・中学生たちに対し「国として、質の高い文化芸術に触れる機会」を、現代実演芸術1回、伝統芸能1回提供する。また平成32年度には、国が3回、都道府県・市町村が6回の「毎年1回」を目指すとした。本当にできるんかいな。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年11月21日 16:40:56  
小田原。小田原文学館。小田原市文化振興ビジョンを推進するための懇話会。プラットフォームとかコモンズのような多主体連携ものは組織図を作るのが困難。「各団体をつなげる」と資料に書いたら「つなげるじゃなくてつながる、だろう。そういうのはお上の発想だ」と叱られる。その通り。恥ずかしい。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月15日 1:12:17  
【リアス・アーク美術館の常設震災記録展のことばメモ】『写真』は記憶ではない。記憶は私たちの内にあるのだ」「記憶を獲得してほしい」「伝えるために記録をとる。つまり、記録をとるだけでは伝えたことにはならない」『伝える』とは意志である

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月15日 1:12:27  
【リアス・アーク美術館の常設震災記録展のことばメモ】「石碑にもその内容を再生できる『語り部』などが必要となる。記録と再生は一組で初めて機能する」「私たちは改めて日常と定義すべき、新しい環境と価値観を育もうとしている」

---

@ogawa\_tomonori · 2013年10月28日 0:48:44  
何かと気象庁の防災情報の伝達状況に注目が集まるけど、公共情報コモンズのようなプラットフォームの整備をもっと進めてほしい。なぜ関東圏の自治体や民放の参加が遅れているのだろう。設備投資費用の問題なのか。NHK「公共情報コモンズの課題探る」。

---

@ogawa\_tomonori · 2013年11月14日 21:44:04  
日本大通り。旅先の徳島・神山で「横浜は370万人の大都市。地域をどう見ればいいのか、悩んでいる」と弱音を吐いた。そのとき「4000～5000人の規模で、ちゃんとわかっている人が1人いれば、面白いことができる」とアドバイスしてもらった。規模感のイメージの重要性を思い出す。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月30日 22:46:08  
下北沢。B&B。トーク『震災後文学』。  
『本とコンピュータ』仲俣暁生、『美しい  
都市・醜い都市』五十嵐太郎、『かちめ  
の目』黒川創による夢のような座組み  
の鼎談。五十嵐が縦に切り込むのに対  
し、黒川は仮設住宅一バラック一兵舎、  
福島第一原発一足尾銅山と横に水脈を  
探す。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年4月4日 1:42:49  
横浜。STスポット横浜では、四月から  
「地域連携事業部」が発足。学校と文化  
施設やアートNPOの連携を進める「横  
浜市芸術文化教育プラットフォーム」  
に加え、地域文化の担い手を支える「ヨ  
コハマアートサイト」の事務局も担当。  
劇場とともどもよろしく。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年4月20日 19:13:39  
仙台。仙台一高新聞部24年ぶりの復  
活を、なぜか私も祝うことに。高校2年  
生の復刊編集長は「ウェブでなく紙媒  
体を使うことでマイノリティになりた  
かった」と。うーん、時代だなあ。大都  
市圏の横浜と仙台は、知るほどに課題  
が似ている。この3年、本当に学ぶこ  
とが多い。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年4月25日 2:01:47  
横浜。10年前は、学校で芸術家がこん  
なに活動する状況になるとは思わなかつ  
た。20年後の地域の文化施設では、  
コミュニティ・ソーシャルワーカーが  
必置になっているんじゃないだろうか。  
もしそうになったら、お世話する側か、  
される側か。終電。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月3日 2:45:17  
陸前原ノ町。宮城野区文化センター。  
『みやぎぶんか3ねんめ会議』。ワール  
ドカフェ方式で地域とアート、参加の  
デザイン、有償ボランティアなどをテ  
ーマに。震災時は中学生だったのでや  
っと活動に加われるようになったとい  
う高校生たちも参加。仮設の現況など、  
必ずしもみんなの共有認識ではない様  
子。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月3日 2:53:54  
仙台。文化芸術と震災についてどこか  
が一元化して語る必要はまったくない  
けど、同地域同日同時刻に近い趣旨の  
企画が重なる、なんとなくならなかつ  
たかと思う。直前までどこに行くか悩  
んだ。ほかも本当に見たかった。くや  
しい。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月7日 0:06:14  
横浜。助成金やら補助金まわりのルー  
ルと、事業そのものに通暁した経理ス  
タッフってなかなかいないし、みんな  
でそういう人材を育てましようという  
話も大して聞かない。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月10日 14:10:23  
日本大通り。静かな午後の電車の中で、  
3年前を思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月12日 0:16:53  
横浜。各地の友人たちの、その人らし  
い一日の過ごし方の報告を読み、それ  
ぞれの人の顔を思い浮かべました。自  
分は自分なりに、電卓片手に書類まみ  
れでした。明日もそこそこの一日であ  
りますように。終電。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年2月6日 23:00:00  
横浜。コンセプトも大事だし、その波  
及効果も重要、ましてや作品から受け  
た個人の印象はゆるがせにできないん  
だけど、何より「そこに何があるのか」  
に焦点をあてて語りたい。そうじゃな  
いと、なんだかドーナツツみたい、中  
心にさわれなくなるから。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年2月13日 21:50:12  
日本大通り。仕事についてお話しさせ  
ていただくと、終わった後に「言い切り  
過ぎたかな」「あれじゃ伝わらないか  
な」「関わっているみんなが聞いたら怒  
るかな」といつも落ち込む。書く仕事  
も似たようなものだと思う。ままよ、  
ということではしかないけど。

---

## 2.26

NASA、宇宙望遠鏡「ケプラー」が太陽  
系外惑星を715個（うち生命生存可能領  
域にある惑星4個）の発見を発表

---

@ogawa\_tomonori · 2014年3月1日 23:27:20  
用賀。世田谷美術館。『復興ダンゴ』。  
「特養の認知症患者との音楽ワークシ  
ョップ記録アーカイブのワイズユース  
事例」などという人はもはやいないだ  
ろう。あるひとりのからだ、こえ、こ  
とばに肉薄する度合いが初演以上の強さ  
に感じる。「復興」の意味に重さが増え  
たことを感じる、3月の夜。2日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月15日 23:43:04  
日本大通り。日本人は、東北の人は、と  
いうような一般化は、自分になるべく  
避けてきた。それでも特定地域を語る  
ときには、地域コミュニティ内部の対  
立と融合を説明するために、新住民と  
古い住民の性向の違いを示さなければ  
ならないときもある。で、やっぱりこれ  
が面白い。杉浦明平なんかを思い出す。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月16日 22:51:47  
日本大通り。地域文化を説明する係と  
いうか、そういったものの専門家は  
いるのだろうか。いなければ、行政の  
人がやることになる。それでいいか。良  
くないとしたら、何がまずいかな。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月23日 2:01:52  
日本大通り。言葉を探すように話す、  
という話し方はなぜ推奨されなくなっ  
たのだろう。気づけば、自分もできな  
くなっているけれど。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年1月23日 2:10:57  
横浜。未来に希望が持てない状況は、  
全員分を少しずつ足し合わせると、気  
が狂ってしまうほどの膨大な損失だ  
と思う。働かなくても、そこそこ楽しい  
世の中にしなければ。終電。時事「失  
業者、世界で2億人突破＝厳しい雇用情  
勢が長期化―ILO」。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年10月8日 0:41:10

白楽。福祉業界の「相談」という言葉にまつわるキーワードは《支配》《恥》《解決》だとか。なるほど。それでは確かに相談するのはむずかしい。相談の相談がいるレベルか。計画相談支援という言葉の意味が分からない私は、そのための相談のための支援がいるのだろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年10月13日 17:10:13

あおば通。青葉区中央市民センター。みやぎぶんか3ねんめ会議・勝手にスピノフ企画『横浜のコミュニティとアートの話』。震災後新設された国の制度に「梯子を外されるかも」と危機感を持つ人も。自分たちの未来像、夢と合わせて提言でできればいい。ファシリテーター論でも盛り上がる。ありがたい機会に感謝。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年11月14日 17:31:14

横浜。昔のバイト先のスタッフだった方が、当時の私が話してたことをおぼえてくれた。10数年前から私は、今みたいな仕事をしたかったようだ。夢が叶ったという感じはまったくくないけど。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年11月19日 0:44:25

渋谷。ユーロスペース。『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』。91年に閉館イベントスペース化した南相馬の映画館の記憶。常磐線・原ノ町からいわきや仙台に人は流れ、子どもが、恋人が、生活の中で楽しむ映画の大衆文化が消える。社会性を意識した藤井光監督による「作品化」の過程も興味深い。21日まで。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2014年7月23日 1:37:46

横浜。「場所のマネジメントは、人や集団のマネジメントと決定的に違う」と大先輩に諭される。たぶん、その通りだろう。一方で、場所のマネジメントが、たくみに施設のマネジメントに置き換えられてきたのがこの10年だったともいえるはず。ノウハウが順調に継承されてきたとは、とてもいい切れない。

---

## 8.20

広島豪雨災害発生

---

@ogawa\_tomonori · 2014年9月12日 19:45:28

横浜。いくら読んでも意味がわからない企画書がある。こういうのが動いたりするものだ。

---

## 9.26

香港で雨伞革命が起きる(～12月15日)

---

@ogawa\_tomonori · 2014年10月2日 23:10:41

自宅。先日の横浜市議会で、質問者が地域創造の調査研究報告書「文化的コモンズの形成に向けて」に触れていて、同僚たちがオオッと声を上げてた。文化的コモンズとは「地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体」のこと。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2014年6月19日 10:54:48

「認定NPO法人制度の改悪阻止&改正を求める署名」は、6月17日までに433法人の署名があったとの報。文化芸術関連では千葉を中心とした子ども劇場、鳥の劇場、淡路島アートセンター、アートNPOリンクなどの名前が見える。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年6月21日 0:31:18

横浜。NPO法人会計基準によれば、ボランティアによる役務の提供を活動の原価に算入できる場合がある。この種の方式の助成制度は、2006年の大和市の例くらいしか知らない。ほかにあるだろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年6月30日 20:54:47

国会議事堂前。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年7月11日 0:21:24

新日本橋。大口寄付者には事業拡充を視野に入れたスポンサー的連携を求め、小口寄付者には地域内の繋がりや支持を求める。単純に寄付といっても全然方向性やアプローチが違う。寄付文化定着のための推進運動を進める人たちから、この部分の具体的な提案を聞いたことがない気がする。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年7月21日 23:07:20

仙台。青葉区中央市民センター和室。『3ねんめ会議からはじまり vol. 2』。今年三月のイベントでたまたま同じ班だったメンバーによる二度目の近況報告会。仙台一高新聞、とうほく学生演劇祭、東西線地下鉄プロジェクト…みんな「参加って何だろうか」を軸に考え続けている。私もだ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2014年5月15日 0:15:06

自宅。『震災トラウマと復興ストレス』を書いた宮地尚子の、環状島モデルを思い出す。当事者性のグラデーションなどを、ひとつのイメージとして描いている。ときどき頭の中で、綺麗だなあとため息をつくくらいだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年5月31日 0:50:05

横浜。27年前に劇場を創設した初代館長が事務所に来訪。あれこれ当時の話を伺う中でボソッと「まさか、こんなに続くとは思わなかったわよ…」とつぶやいたのを聞き、全スタッフが大笑い。今はみんなでとにかく乗り切ろう、乗り切ろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年5月31日 0:57:26

平沼橋。大学を卒業する時点でNGO、NPOや中間支援という言葉にひかれた人が、すでに第一線で活躍している。現場上がりの自分が無手勝流で掴んだものやある種の相場観を、すでにフル装備として持っている。うらやましがっても仕方ないけど、うらやましい。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年6月6日 22:03:24

横浜。事業の芸術性をめぐる評価、というのに10年来ずうっと付きまとわれている。この部分を聖域にしてほしいとは全然思わないけど、地域や教育といった他分野隣接モノが先に問われている気がする。芸術作品としてやるものの方が優先じゃないのかな。そうでもないのかな。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月24日 19:29:17  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。受付のお姉さんに走ってもらい『3がつ11にちをわすれないためにセンター活動報告』入手。多様なメディアで記録された4年分の出来事が120頁に。何の一覧かはつくった方も見る方もわからないだろうが、圧倒される。人物が正面を向いてる写真が極端に少ないのが印象的。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月29日 18:58:24  
自宅。東京文化発信プロジェクト室の被災地支援事業、宮城の9人のインタビュー集『東日本大震災後、4年目の語り。』を読む。直後の混乱ともがき、その後について。10-BOX八巻寿文の意思に目が覚める思い。石巻ユイノハマ、仙台ARC>Tなど今まで語られなかった話を受け止め、文化の輪郭を考える。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月30日 23:35:39  
横浜。社会の多様性が深まると、経済の不安定化とアイデンティティの不安定化が進む。前者では、非正規雇用の当事者だけではなく正社員も不安になる。生活保護受給者バッシングなんかは、この文脈。後者では、人種や国籍、性的アイデンティティの正当性に関する揺り戻しが来る。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年2月7日 18:55:01  
桜田門。地域文化というのは歴史、言い換えれば土地の記憶のことだな、と実感する。瀬谷には、ユーカリの木が残っているだろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月17日 23:42:42  
関内。団体として成長していく上での、助成金制度との向き合い方っていうのは、そういえば誰も教えてくれないかもしれない。それぞれの団体でエポックとなる支援者・制度との出会いは必ずある。STスポットの場合は、2000年のセゾン文化財団の創造環境整備事業・3年継続助成だろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月18日 22:26:39  
たまプラーザ。アートプロジェクトの未来について。そういえば先日、文化庁のヒアリングでJCDNの佐東さんは、あと10年したら東京以外の民間主導の文化芸術活動が「消滅してしまうのではないかと怖れている」と答えていた。あり得るという気もする。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年3月24日 19:15:26  
陸前原ノ町。『ひゃくねんモンスター』。子供と老いと、その先にある得体の知れない、だけど見たことのある、百年分の生き物。劇場入口からはじまる村では、八百屋・クッキー屋・似顔絵屋・ひつじ屋などが営業中。大勢の子供たち。お母さんたちは支援学校の噂話なんかしてまったり。すごい空間だ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年1月12日 17:50:01  
五橋。3ねんめ会議からののはじまり vol.4「文化財を残せるまちとそうでないまちとの違い」。地域にある歴史的建造物、憩いの場になってる大木、まちの目印になっているスーパーは残せるものか。懐かしいから残したいの思いに焦点を当てるのではなく、どう使いたいかをクリアにすることは大事だ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年1月12日 21:58:17  
勾当台公園。杜の都の演劇祭『山椒魚』。捕食者・被捕食者の関係が宇宙に接続する、井伏鱒二作品のリーディングをカレー屋さんで。世界の小ささと親密さ加減。冬の仙台を代表するこの企画は、仙台のみんなが「マチナカ」と呼ぶ特定区域のイメージがあるからこそ成立している気もする。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年1月17日 17:55:32  
自宅。いつだったか、仙台の友人が「復興という言葉は使いたくない」という。あれから私は「いわゆる復興」と姑息な表現をするようになった。その間にも年表は書き足されて、20年。「阪神・淡路大震災+クリエイティブタイムライン」。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年1月27日 16:53:10  
横浜。ここ何日か浜松、仙台、福岡と、遊びに来てくれた人がそれぞれのまちの話をしてくれる。劇場もひとつのメディアなんだなあ実感。

---

@ogawa\_tomonori · 2014年12月20日 0:13:49  
横浜。各地の皆さん、一朝事ある時はどうぞよろしく。1923年の関東大震災のとき、東京の陰に隠れた横浜の被害は甚大でした。読売「今後30年以内で震度6弱以上の発生確率、関東上昇…全国最高は横浜の78%」。

---

## 12.24

第3次安倍晋三内閣発足

---

# 2015

---

## 1.7

パリ、シャルリー・エブド襲撃事件発生

---

@ogawa\_tomonori · 2015年1月12日 2:57:12  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。『記録と想起』。災害直後の空撮の何億倍も、時が流れた。伝わりにくいものを流通させるための映像アーカイブを、あえて伝わりにくい、アナログな展覧会形式で。黒電話の向こうに聞こえる石巻弁だらけの独白に、必死で耳を傾ける。受話器を持つ手が、汗ですべる。5時間。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月1日 23:33:54  
南仙台。袋原幼稚園。『おはようシアター☆おもちゃ箱』。就園前の子供たちに向けた演劇作品。終演時、バルーンがホールに多く舞う。児童演劇は普通、小学生以上対象。この年代を想定した作品作りが行われるのは全国的にも珍しいはず。今日の子供たちは、ほぼ震災後生まれ。私も年を取るなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月1日 23:44:49  
宮城野原。せんだい演劇工房10-BOX。震災をきっかけにスタートした活動では、すべてが緊急対応だった当時を経て、現在は「日常」へとギアを入れなおす手法を懸命に模索している。その一方でたとえば、閉上へ続く道路は整備されないはまだよね、ということはみんなの共有事項になっている。

---

## 9.9

関東・東北豪雨発生

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月17日 22:42:17  
横浜。南米での遠地地震の影響で津波注意報発令の可能性があるものの、現時点で情報は乏しい。明日の横浜の満潮は、7時30分。何事もありませんですよ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年7月24日 6:00:28  
自宅。哲学者・鶴見俊輔、逝去。デモも芸術の一つの形態だと示した『限界芸術論』、諸芸・雑芸の中にこそある民衆の力を認めた『太夫才蔵伝一漫才をつらぬくもの』などから、現場の私も多くの力を得た。彼の考えから何を引き継げるか、日々考えて行こう。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年8月6日 0:57:50  
根岸。地域の文化をどの水準で採りあげたいか、暮れ方の商店街をまわりながら悩む。いろいろあってそれぞれみんな文化だよねと押し切れば無責任だし、トマソンの面白だと下品だし、勢いでまとめちゃったりすればセコイ文脈主義、客観的なふりをしたら出来そこないの研究まがいのものになる。ああ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年8月14日 23:42:31  
国会議事堂前。冷静に考えれば、ここにワタアメ屋、焼きそば屋を出すべきである。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年8月31日 16:44:38  
旭ヶ丘。仙台市青年文化センター。震災後に本格的に始まった、子どもたちとアートをめぐる現場は、ようやく芽吹いた段階。関係する大人の努力で、何とか次へ繋げてほしい。応援を続けませぬ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年5月25日 22:29:49  
横浜。個人の携帯電話に届く緊急地震速報の第一報はいいんだけど、津波の有無など避難目安にする次の情報が得にくい。ワンセグはもちろんIPサイマルラジオでさえ繋がるわけない。今日の午後は、アナログのNHK-R1を情報源にしたけれどビル街はAM波を捕まえにくい。FMサイマルで良くなるか。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年5月31日 0:42:38  
横浜。新たな地域文化専門職の確立を、との記述に胸が熱くなる。この専門性が認められなくて、冷飯食ってる人っているはずだよなあ。ハ、ハクション。「地域アーツカウンシルーその現状と展望」。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年6月9日 20:42:52  
伊勢佐木長者町。イギリス型の芸術評議会制度は政策誘導が強すぎるため「役に立つアート」に異常に傾斜し結果的に現場を歪めている、との作家の話をまた聞き。なるほど。確かにかの国の芸術関係者が「評価ツールキットを新しくつくりました。ウェブサイトで全部公開してます」とプレゼンするのも聞き慣れた。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年6月17日 2:12:51  
横浜。今日のビルの避難訓練は、みんな予定通り動けたようで実によかった。その反面、居眠り中だった私だけ避難しそびれたのは、実にまずかった。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年7月15日 20:25:53  
国会議事堂前。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年4月6日 0:22:56  
横浜。全国文化施設支援の雑誌『地域創造 37号』は、音楽の力による復興センター、仙台サポセン、ARC>Tの持つコーディネート力に焦点。復興センター大澤さんは「市民コーディネーターを養成すべき」という考えから「現場100回・徒弟制度で学ぶしかない」に変わったという。現場の実感だろうな。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年5月1日 18:52:34  
横浜。地域の間支援、分野の間支援。おたがいもっと話をしなくちゃ駄目だ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年5月9日 4:06:33  
横浜。20の政令市で地域の文化活動への助成金制度があるのは、数え方によるけど13市程度。横浜以外でがんばってるのは、大阪市・札幌市・仙台市あたり。社会包摂方面まで視野に入れているのは、浜松市など。意外と議論の焦点になってない。そんなことばっかり自分はやってる気もする。がー。

---

## 5.22

文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な方針—文化芸術資源で未来をつくる—(第4次基本方針)」閣議決定

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月8日 23:15:28  
新杉田。高度経済成長期に旧海岸線は埋め立てられ、工業用地の中に没して、海は見えなくなった。あれから幾年月、最近、海べりに公園ができた。その時の地域の人の喜びようといったらなかつた。そんな話を伺いながら歩いた。公園の端っこで、おじさんがこっそり釣りをしていた。メバルが採れるという。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月17日 1:44:54  
関内。助成金のせいで駄目になる、という例は確かにあるけど、一方でそのお金を有効に活用して活動の成長に繋がっていることもある。自分たちがあがいて、繰り返し力の限り説明し、対話を続けた結果かもしれない、と思うとちょっと報われる気がする。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月22日 22:45:58  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。『空白を訪ねる』。お婆さんの吹きが書かれた紙『Kさんの話していたこととさみしさについて』をだいぶ前に捨てた。尻切れトンボで、作品なのか訝しがりながらも強く打たれた。5年経つ。あれから陸前高田へ、今は仙台の住民となった作家の真摯な記録、未完。28日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月22日 23:07:07  
仙台。助成事業に応募するということは、現状ではもっとも簡便な形での政策提言といえるかもしれない。うまく使わない手はないのだけど。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年12月10日 17:17:36  
横浜。28年度の文化庁は、支援メニューに震災被災地を念頭においた「大衆芸能実演家育成のための地方公演」や「若手オペラ人材育成のための試行的事業」が加わるほか、10月には「障害のある方々による芸術活動をテーマとするシンポ」も予定。年々、支援内容も変わるものだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年12月16日 23:43:53  
市ヶ谷。行政の立場で文化芸術の仕事をする、全国の諸兄諸姉と四方山話。ボトムアップではない手法の大事さ、など私の知らない、届かない話なども。行政の尻を追いかけけるようなNPOではいけない。まだまだ自分の仕事足りないのを痛感・猛省。一方で、横浜の動向は各方面から心配されてるのだな…。

# 2016

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月5日 17:43:54  
横浜。コミュニティセンターなどと呼ばれる地域施設の源流をたどれば、隣保事業に行きつく。横浜にも4施設あったはず。興味深い。一方で、当時の地域特性を現在の言葉で正確に言い表すのは、すごく難しいものだとも思う。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年11月2日 21:54:27  
横浜。02年に文化庁長官の河合隼雄によって提唱された「文化ボランティア」とは「文化芸術に自ら親しむとともに、他の人が親しむのに役立ったり、お手伝いするような活動」とゆるく定義されている。これが適用される現場は、文化施設やアートプロジェクトより「居場所」の方が、感覚的に近い。

## 11.13

### パリ同時多発テロ事件発生

---

@ogawa\_tomonori · 2015年11月13日 0:34:15  
虎ノ門。日本財団ビル。『K-project企画展アーカイブキャラバン』。非営利セクターの偉人・加藤哲夫は、世の矛盾の後始末係でなく、NPOが自分たちの活動を社会システムの変革にどう繋げ、位置づけられるかを考えた。「CSRとは、企業が未来を先取りすること」という定義にもシビれた。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年12月9日 0:57:06  
たまブラザー。アーツカウンシル東京の『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すべきことば。の本』というウルトラニッチな冊子のことを打合せ中、急に思い出し「関わりしろ」ということばを使ってみた。パフォーマンスものは「関わりしろ」が大きい気がする。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月20日 0:32:09  
苫竹。仙台卸町イベント倉庫ハトの家。『ぶこぎがアンサンブル』。とりどりの人々がおどる日常の祝祭。「ダンスワークショップ発表会」でなく「公演」である意味を省みる。芸術を含めた多くのコミュニティが重層的なカタマリをなしている。多幸感。スーツ姿で編み笠のダンサーに感情移入。23日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月20日 0:45:26  
榴ヶ岡。仙台サンブラザ。うたごえの店・バラライカ。1978年から続く店は震災後の移転を経て、今日もうたごえが響く。歌の楽しさ、自由を再確認できる。アイルランド抵抗歌『わたしの愛した街』はいい歌だなあ。言葉が歌と文化を繋ぐのだと思う。私の世代の歌は、貧しくなってるかもしれない。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年9月29日 23:48:10  
横浜。芸術系ワークショップの(しばしば非公開の)過程部分に対して、発表(ないしは公演、展示など)をどう捉えるかは、積年の課題だった。10年前はプロセスを尊重するあまり、発表がグズグズなほど良いとさえ思ってた。いつの間にか今は、一般的な芸術作品を見ると変わらない視点で見ている。

---

@ogawa\_tomonori · 2015年10月16日 18:38:06  
中山。だいたいイベントっていても2、3年で終わっちゃう、長く続く企画は行政が事務局を担当してる場合が多いでしょ、と言われる。そうだよなあ。お金が無い民間の事務局を回して、19年美術展を続けてきた人の言葉。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月29日 21:18:52  
自宅。5年前の震災を経験した友人と、熊本のことを話していたら「まず、自分の関わる土地を知ることだよ」と諭された。明治と現在の土地利用状況比較ができる、農業環境技術研究所「歴史的農業環境閲覧システム」の比較地図はお薦め。関東圏のみ。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年5月11日 22:31:42  
横浜。静岡文芸大の地域プロジェクト研究「Projectabilityx III」報告書。アート系事業の潜在能力を言語化するための指標は「横断する力」「開く力」「問う力」「工夫する力」の4観点と提示。面白くて事務所で1時間議論。全文公開。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年5月12日 15:35:54  
関内。地域の最大のシンクタンクは行政で、そこが最大の事業元になりつつある。とにかく民間サイドが力をつけることでしか変わらない。がんばろう、がんばろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年5月13日 18:50:19  
横浜。国、基礎自治体、地域の施設がそれぞれ担当すべき事柄は何か。整理が必要なタイミングであるということだ。どこもカネがないということだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年6月4日 1:15:38  
横浜。熊本地震の被害に対してアート関連では、アサヒビール系「AAFネットワーク活動支援募金」、企業メセナ協議会「GBFund熊本・大分」に続き、全国公立文化施設協会も「公文協災害復興支援事業」として寄付を募ってる。これからなんだろう。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月18日 8:55:28  
「東日本大震災以降の被災県における公立文化施設及び文化行政に関する実態調査」によると震災後の特別事業実施は33.8%。有意義だったのは、学校向けの心のケア、被災者・避難者向け企画。課題は、資金不足(48.3%) 人出不足(39.3%)。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月18日 23:05:41  
新宿。社会教育が生涯教育、生涯学習と名を変えて、得たものと失ったものについて。言うまでもないが、酔っ払っている。

---

## 4.20

企業メセナ協議会「GBFund 熊本・大分」設立

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月21日 1:00:59  
横浜。文化芸術の世界は、現場でがんばってる人はたくさんいるのに、そこにコンサル的に関わり、政策につなげていく人が本当に少ない、との先輩の怒り。うなずく。だけど、どうやったらそういう人材が育つのだろうか。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月24日 1:27:43  
熊本県内の公立文化施設(公共ホール)の動向・第二報をまとめました。4月23日夜時点で、各種ウェブサイトから判断しました。熊本市市民会館は1年程度休館と発表されました。

---

## 4.1

文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業(地域における文化施策推進体制の構築促進事業)」が地域版アーツカウンシルを推進(新潟市、横浜市、静岡県、大阪府、大分県採択)

---

## 4.14

熊本地震(M6.5)発生、以降熊本県と大分県で地震が続く

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月14日 23:23:50  
横浜。熊本の地震は2時間近く経ったが、全波サイマルのNHKでは、非定型文と思われる「震度5弱以上と推定されるが震度がまだ入っていない地点」として市町村名の画面表示が続く。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月15日 23:03:57  
横浜。日本芸能実演家団体協議会から調査研究報告書『芸術団体の経営基盤強化のための調査研究II～協会型組織の役割と課題2016』。芸術団体の管理費が行政系事業で積算されない切なさ(NPOでも。フルコストリカバリー原則を何度でも訴えたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年4月16日 22:27:59  
熊本県内の公立文化施設(公共ホール)の動向をまとめました。4月16日夜時点で、各種ウェブサイトから判断しました。38施設の半数が避難所として利用されているようです。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月23日 18:00:19  
浜吉田。ポラリス。「うたカフェ」。震災時浸水被害面積37%の山元町で、昨年開所した施設。仮設住宅や規模の大きな福祉施設などがある地域で、サードプレイスの役割。最賃に縛られない「就労B型」は同じ類型でも地域ごとに担う役割が違う。近隣イチゴ農家は意気盛ん。常磐線山下駅復旧は年内目処。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年2月25日 2:51:12  
自宅。津波で26人が亡くなった自動車学校をめぐる裁判。1審で不適切な避難誘導を認め19億の支払い判決、双方控訴の2審で和解勧告。命を預かる施設の重さと、現場判断の難しさ、想像するたびに胸が苦しくなる。ともかく自分の持ち場で、できるところから進めたい。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年3月19日 3:10:54  
関内。地元で根強く活動する団体を支えるためには、事業助成じゃなく、運営費をダイレクトに支援した方が本当はいいと思う。ずうーっといわれているけど、なかなかそうはいかないものだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年3月19日 3:26:31  
横浜。「市民文化の振興」が「文化によるまちづくり」に転換したのが00年代。文化が政策立案者の好む道具的価値に引っ張られ過ぎている、という現状認識に同感。さて、市民文化とは何か。誰もいわないなら、勝手に指をさしていくしかない。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年8月20日 0:35:48  
横浜。「平成27年度特定非営利活動法人に関する基礎調査報告」によると市内NPO法人の中央値は、正会員19人、職員数6人、法人の収益・費用はともに1000万円規模。役員は50～70代が8割を占める。行政には「補助金・助成金」を期待。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年8月25日 23:57:52  
横浜。昼休みに新しいスタッフと近所の市民防災センターへ。時系列で地形図の変遷が追える「今昔マップ」が子供でも操作できるように置いてある。緊急時マニュアルの読み合わせよりも、起こりそうな災害のイメージを共有しておくことの方が、実益があるのでは。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年8月26日 0:53:47  
伊勢佐木長者町。パラダイス会館。『関東大震災後の横浜震災作文勉強会』。デマを信じた自警団らが朝鮮人を虐殺。当時の様子は子供の作文に克明に記録されている。08年の中央防災会議の報告書には「人為的な殺傷行為を誘発した例は日本の災害史上…最悪の事態」と記された。背景に排外思想がある。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年8月30日 18:27:24  
横浜。文化庁「地方における文化行政の状況について」。平成26年度の各自治体の文化予算合計は対前年度比13.7%増で、文化施設経費・建設費が増加し21年ぶりの高い伸び。一方、芸術文化事業費は都道府県で12.2%減、政令市で4.7%減。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年7月25日 3:28:47  
横浜。市民防災センター。『熊本地震派遣職員報告会』。満席。横浜市役所の派遣人員は600人超で継続中。車中泊などの指定外避難所、自治会主導の民設避難所の把握が難しいなど「共助」支援が焦点の一つ。高齢者や子供の話し相手、子供の遊び場確保など、防災初期のソフト面の指摘も多かった。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年7月25日 21:24:38  
横浜。昨日の熊本地震報告会で、ある避難所の写真が示された。良いスペースに陣取る先着者、土足禁止に同意しない人がいるなど混乱続きだったが、静岡チームが到着して変わったという。要援護者に配慮した避難所運営ゲーム「HUG」の賜物らしい。そんなんあるんか。さすが避難訓練に余念のない県民。

---

## 7.26

相模原障害者施設殺傷事件が発生

---

@ogawa\_tomonori · 2016年8月2日 16:25:18  
池袋。芸劇。シンポジウム「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究」。文化施設が、自治会、NPO、お祭り、福祉機関、学校などをつなぐ結節点になり、文化的コモンズ（文化の入会地）形成に寄与しよう、という議論。まずは、賛成。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年7月5日 2:52:32  
横浜。スタッフ6人で、最悪の場合を想定した避難誘導体制確認のため、一時避難・広域避難場所の4ヶ所を歩く。実際行ってみると、ものすごい崖の上にあったり、遥かに回り込まないとどり着けられないなど、発見が多かった。途中、炎天下で塩飴をぐくりと飲み込んで倒れそうになるスタッフがいて大騒ぎ。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年7月15日 23:12:00  
横浜。観測開始以来3番目となる大雨。携帯電話から、気象警報、土砂災害警戒情報、電車運行情報、近隣地域の避難勧告の情報が立て続けに流れてくる。減入りながら会議をしてたら、途中でオペラが聞こえてくる。天国か。原因は私で、マナーモード自動解除で勝手にラジオアプリが起動したよう。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年7月19日 19:31:48  
横浜。災害が起こった地域の文化施設は、施設の安全確認などで想定よりも長い休館を強いられることが多い。そんなとき主にソフト面から何ができるのか、と話している最中に緊急地震速報が「あと8秒で到達」と通知。震度は3。連携の仕組みはいるだろうなあ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年6月12日 2:09:47  
日ノ出町。パラダイス会館。フォーラム『アートとコミュニティの落とし穴』。地域アートと分類される企画は「私は」と「私たちは」が混じったり、入れ子などの包含関係になったりするところが難しい。場づくりと権力、政治性的話にならざるを得ない。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年6月15日 20:46:11  
センター北。NPOという組織が会員拡大から寄付獲得へと焦点が変わってきたように、10～15年という単位でみたらそのときの流行りの水準がある。企画レベルだと、本体から派生したスピンオフ企画が自立していく、というイメージが支持されやすい。それもまた変わるだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年6月17日 23:04:15  
横浜。助成金の募集要項を読み「この人たちが何したいんだろう」と思うことはよくある。逆の立場になってみると、事務局側がかなり方向性を示さないと、団体側・事務局側と一緒に走ることはできないんだろうとも思う。同時に、なんとかフォローするから団体側にどんな先を走ってほしいという気もする。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年6月30日 23:08:12  
三田。メセナ協議会。『メセナ・アソシエイト事例研究報告会』。個別企業の取組事例に焦点をあてた研究報告3つ。本業／メセナの境界線の判断には、戦略的あいまいさがあるようだ。メセナ実施企業は全国397社、メセ協議会員138社、正直少ないなあという気がする。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2017年2月13日 23:00:30  
横浜。リアス・アーク美術館に注文した図録『東日本大震災の記憶と津波の災害史』が届く。ちょうど、アーツカウンシル東京の『6年目の風景をさく東北に生きる人々と重ねた月日』を読んでいたところだ。どちらも緻密。数頁ごと胸がいつぱいになる。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年2月18日 1:02:58  
伊勢佐木長者町。目標があって、そこに向けた戦略的な手法の一つとして、アートを使う、というような説明は結構あやしい。なんかごちゃごちゃやってくるうちに、まあまあどうにかなる、くらいがいい。福島智がセーフティーネットという考え方を批判するのと、本質的には通じると思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月3日 17:19:21  
荒井。せんだい3.11メモリアル交流館。横浜でも開催された、還り雛の展示。地元の人が帯をとき製作。まだ戻らないのは2500人以上。六年前に全国ニュースで聞いた地名・荒浜は、ここから5km。居住が難しくなったところも多く、小学校は遺構化へ。常設展だけでも充実。次の企画展は7日から。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月3日 20:59:09  
勾当台公園。せんだいメディアテーク。『星空と路』資料室 - 2017 -』。仙台近郊の風景写真、当時と今の対比など。声高なものはなにもない。展示室のまわりでは、受験生たちが化学の問題を解いている。夜が更けてきた。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年11月23日 1:10:05  
横浜。今朝は地震で起きる。第一報で津波注意報だった宮城が警報に切上げられたのは、2時間7分後。2011年は、震源から遠い高知が注意報から津波警報相当になったのが初報から8時間4分後。渦中では「第二報」を正確に得るのが難しいと思う。

---

## 12.9

休眠預金活用法成立

# 2017

## 1.20

共和党ドナルド・トランプが第45回アメリカ合衆国大統領に就任

@ogawa\_tomonori · 2017年2月7日 0:17:45  
横浜。どうして芸術文化に税金が使えるのか、とシゴトバの後輩から聞かれ、とりあえず文化芸術振興基本法や劇場法の話になる。だけどそんな法律ができたのは最近のこと。それ以前は「そりゃあ大変だったものよ」と、マガギの生態を語るような話し方になってしまったのう、僕は。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年9月30日 15:40:01  
横浜。あらためて2年ほど前に出た、全国公立文化施設協会の「劇場・音楽堂等における障害者対応に関する調査報告書」を読む。対応といっても、カネがない、ヒトがない、ノウハウがない。障害者差別対応窓口がない文化施設が98.9%という状況。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年10月26日 23:41:30  
新宿三丁目。芸術文化から生活文化までの射程で、自分の仕事を考えたい。アートとしてのクオリティばかり主張する人に、カルチャーにはクオリティや優劣があるのか、問い返したい。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年10月29日 21:15:13  
渋谷。光塾。トーク『砂連尾理の現在』。仙台のみやぎダンス、名取市文化会館、メディアテーク、ARC>T、NOOKなどの協働作業を作品化したダンサー。《リアルな身体》から早々に抜け出し、民話のような世界観をダンスで刻もうとしている。物語と身体、その必然について。BONUSが企画。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年11月9日 0:58:30  
西横浜。芸術分野の専門性と地域性をどう織りあわせていくのか。アートプロジェクトの企画サイドとしてはここが一番面白いところだけど、まあ定石はないだろう。一気に突っ込んで大成功ってこともまあある。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2016年9月17日 0:42:48  
横浜。首都圏で立派な劇場を持つ都市の文化政策担当者との意見交換。芸術文化振興・文化のまちづくりは二極化していて、横浜のように観光客誘致を視野に入れるところ、そこはあきらめ地域文化に狙いを定めるところに分化しつつある。何が正解かは、10年後、20年後に分かるだろう。

---

@ogawa\_tomonori · 2016年9月26日 23:55:12  
横浜。9月25日の朝日社説「文化と社会 結びつける人材育てて」はよく書いてくれたと思う。「調整役」とあるコーディネーター的存在は「一部のアート関係者や芸術家自身、文化施設の職員」が担っている。その能力や価値の話は本当に認められてない。

---

## 9.28

アーツカウンシル新潟設立

@ogawa\_tomonori · 2016年9月29日 23:15:00  
横浜。12年の歴史を終えた「トヨタ・子どもとアーティストの出会い」報告書を読む。初期は京都のNPO・子どもとアーティストの出会いが支えてたっけ。巻末の、芸術家と子どもたち・堤康彦さんの述懐「一人でゲームをやる子が格段に増えた」に同意。

---

---

## 6.23

「文化芸術基本法」施行（「文化芸術振興基本法」一部改正）

---

@ogawa\_tomonori · 2017年6月27日 20:44:06  
横浜。寄付文化を耕さないとならないなあ。誰か間抜けな人が出てきて、真剣に5年くらいやるだけでだいぶ変わると思うんだけど。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年6月27日 20:50:28  
石川町。子供や障害者といった非専門的芸術家の活動に対しては「発表圧力」がわかりやすい。わかりにくいから成果を展示や公演の形で発表せよ、というもの。無自覚な人の主張は暴力に近い。でも、発表形態の探求が、その活動の突破口につながる可能性も捨てきれない。デリケートな問題なのは確か。

---

## 7.5

九州北部豪雨発生

---

@ogawa\_tomonori · 2017年7月9日 0:59:50  
横浜。STスポット。『とおくはちかい』。話題の仙台のカンパニー・屋根裏ハイツによる横浜公演は、2人の女性の会話が続く。自分を定位している要素が、本当に他愛なく、砂のように日常に降り積もっていく。話さないこと、話せないこと、その間にある会話と、沈黙。75分。9日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年4月21日 23:13:48  
横浜。ネットワークを中核にした中間支援的活動というのは、利害関係の調整、方向性決定の難しさ、権力との距離、資金獲得の困難さなど、まあ大変でしょうがない。それでもきっと、こだわりがある。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年4月27日 20:31:45  
横浜。文化へのアクセス権を、自分は一貫して考え続けているのだと思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年5月16日 21:57:32  
横浜。STスポット横浜は、認定NPO法人になりました。地域の芸術文化機関として、劇場・教育・まちづくり・福祉の各活動を支えるための寄附を募っています。認定NPOなので寄付額の最大50%が減税されます。というため準備に3年かかりました。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年5月17日 22:05:27  
横浜。社会的課題解決のための「使える芸術」だけじゃ駄目だというのはその通りだが、芸術普及系の人たちはこの繊細な問題に向き合ってきたはず。若輩の私ですら「手段なのか、目的なのか」と、20年近く同じ議論をしてる。「芸術のための芸術」をやっている側が耳を貸さなかっただけじゃないか。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年6月22日 21:47:14  
横浜。「地域文化をつなぐ人が近所にいたら紹介してください」と東北を回る仲間がいる。体よく村役場を追っ払われ、車中泊の布団で涙を濡らす日もあるそう。三陸国際芸術祭の翌日に大船渡でシンポジウム。どんなつながりが見えるか。私も行く。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月31日 2:26:24  
横浜。久しぶりに、仙台からの映像配信に耳を澄ます。2011年に舞台芸術関係者で立ち上げたARC>Tの活動は阪神と熊本の間にある、と考えて初めて自分たちを省みることができた、と。熊本で活動している団体の、言語化できない、まとめられない感じは、いちばん仙台の人が共感するのだろう。

---

## 4.1

文化庁「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業（地域における文化施策推進体制の構築促進事業）」（岩手県、新潟市、横浜市、静岡県、大阪府、岡山県、大分県採択）

---

@ogawa\_tomonori · 2017年4月1日 0:26:24  
横浜。ご批判をいただいても、やっぱり自分は間に入って伝える仕事をやっている。刺さる言葉で伝える、みたいなのは苦手で、腕木通信のようなやり方がせいっぱい。努力は足りないのだろう。それでもとにかくこの1年は乗り切った。領収書はきょう何百枚もコピーした。また、もう一歩。年度末は雨。

---

## 4.3

文化庁「地域文化創生本部」設置

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月3日 23:19:05  
大町西公園。ターンアラウンド。『春の日、マキアート』。作家の文章と写真。見る側に求められるのは、理解でも共有でも共感でもない。そもそも何も求められてないが、拒絶でもない。なにかといえば「近況報告」だ。白い紙束の重たさ。何度も揃え直す。揃えるのに挫けそうになる。12日まで。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月4日 22:25:01  
卸町。せんだい演劇工房。10-BOX舞台芸術見本市『アウトリーチってなあに?』。今日は親子連れだらけ。私は会場の一隅で議論。仙台市と横浜市は芸術家が学校に行く事業件数が全国トップ3。悩みも似てる。震災以後NPO主導で事務局が作られ、被災地区を含めた活動を継続してる。すごいことだ。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月16日 22:13:24  
日本大通り。みんなで集まろうというとき、共通する切実な課題がないと、やっぱり続かないのかも。ネットワークものでは、何度も失敗した記憶がある。反省をもとに、少しでも次を。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年3月26日 0:12:29  
関内。シネマリン。小森はるが監督『息の跡』。外国語で津波災害を発信する陸前高田の種屋のおやじ、非エリートの世界への深い諦めに基づく、強い意思。救われる。永遠の中の始業式『the place named』儂い花畑など3短編『波のした、土のうえ』の併映は31日まで。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2017年10月16日 16:14:10  
横浜。世の中のプログラム・オフィサーの水準に、まだまだ文化芸術の世界は追いつけていないなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年10月24日 23:46:37  
横浜。阪神、東日本、熊本の経験。語れること、語り尽くせないことの経験が、自分を作ってくれていると思う。

---

[年表参考文献]  
『3.11とアーティスト一進行形の記録』  
(水戸芸術館現代美術センター、2012年)

『Art Revival Connection Tohoku (2011.3 - 2012.4)』  
(ARCT、2017年)

ネットTAM「ネットTAM関連年表」  
(2018年12月1日更新)

---

---

@ogawa\_tomonori · 2017年9月15日 22:15:40  
横浜。国の文化政策を決める文化審議会では「暮らしの文化」を議論中。華道・茶道・食文化などの生活文化、囲碁・将棋などの国民娯楽に加え、伝統的な年中行事、和菓子の木杵製作までもが視野に入る。大海原だ。京都ならではの盛上げ案が出ればいい。

---

## 9.19

### メキシコ中部地震 (M7.1) 発生

---

@ogawa\_tomonori · 2017年9月19日 22:15:36  
秋葉原。いまある文化芸術の現在は、30年前の先輩たちが構想したこと。自分たちは30年後を作れているか。横浜の現在を、東京で考える。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年9月30日 0:31:18  
横浜。中間支援というと、まちづくりや福祉系がメインになっているけれど、少なくとも入場税撤廃運動・消費税導入を経て90年代後半のNPO法制定前後までは文化分野も存在感を發揮していた。公共劇場論もその流れにあったはず。当時を知る人に聞いておかなかうなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年10月9日 16:55:42  
本郷台。助成金の受け手側が集まって議論をする機会って、私には経験がなかった。言いたくても力関係の問題で言えない、というのもあった。少しずつ、変えていかなかうなあ。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2017年8月14日 0:28:29  
大船渡。キャッセン大船渡。フォーラム『東北の文化芸術の未来を創造する』の進行。文化的commonsとコーディネーターをめぐる議論。本編中に言挙げされなかったけど、共通体験としての震災が、静かに文化の地盤を作っている感覚はとても良く分かった。文化的commonsを考えることは、つまり社会を考えること。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年8月18日 9:00:27  
横浜。大船渡でたくさん神楽を見てきた。彼らの取り組みをコンテンツとしてみるのではなく、ある伝承形態のたまりとして捉えたい。家族経営が多いとされる、大衆演劇なんかと違いはあるのか。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年9月8日 1:06:50  
横浜。今後5年間の国の文化政策の方向性を示す文書などに「地域のプラットフォームづくり」という文言がちらほら出てくる。こないだヒアリングに来た自治体職員は「プラットフォーム」の意味が理解できない、と苦しんでいた。補助とか委託ベースで考えてたら、そりゃ確かに分からないだろうなあ。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年9月8日 21:53:41  
浅草橋。『私たちが市民活動助成で目指したこと』。パナソニック、ファイザー、中央ろうきんなどと組んで助成プログラムを作る市民社会創造ファンドが7事例紹介。襟を正される。ひるがえって芸術文化の助成・支援を考えると、プログラム・オフィサー万歳論に寄っていて、資金開拓などが手薄だと思う。

---

---

@ogawa\_tomonori · 2017年7月25日 1:36:17  
横浜。営利組織と非営利組織の境目は、今後いま以上に見えなくなっていくんだろう。一方で、非営利組織経営のブロミたいな人がもっと出てくると面白いのに、とも思う。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年8月11日 16:22:04  
鹿折唐桑。8時間かけて移動中。気仙沼からBRTに乗る。6年半経って、駅前はややく大規模な宅地造成をしている。ケセンは、本当に山と海の間にあるんだな。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年8月12日 2:01:45  
陸前高田。BRTで「まちなか陸前高田」という駅がある。様子をバスから眺めていたら、4月に開業した商業施設があるだけで、ほかは何もなかった。かさ上げ工事もまだやって中。まちなか、というのは願いを込めた名前なんだろう。映画『息の跡』にでてきたこのまちの郊外の風景を思い出した。

---

@ogawa\_tomonori · 2017年8月12日 22:57:30  
大船渡。三陸国際芸術祭。雨。ハードさとキュートさが入り交じる女川・大漁獅子舞や、細やかな作り込みの宮古・黒森神楽など。雨天のため急遽近隣の公民館で行われたプログラムでは、日本のコンテンポラリーダンスと、インドネシアやマレーシアのチーム、各地の神楽集団と観客が渾然と。すごい企画。

---

## 博物館として、 震災遺産に向き合う

文一筑波匡介（福島県立博物館学芸員）



特集展「震災遺産を考える」2019年2月16日[土]—4月11日[木] 福島県立博物館

震災から8年、福島県では東日本大震災により壊れた日常用品や、東京電力福島第一原子力発電所事故の避難によってそのまま学校などに残された勉強道具などを震災遺産として収集・整理し資料群を形成しつつある。現在は、約2500件の資料を震災遺産として整理した。博物館での災害時の取り組みという被災した歴史的資料の救出や修理といった「文化財レスキュー」がまず頭に浮かぶと思うが、我々が扱う震災遺産はいわゆる文化財ではなく、その中には瓦礫のような壊れたモノも多く含まれている。

### 「ふくしまの経験」を伝える

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」は、福島県立博物館を事務局として県内の博物館によるコンソーシアムとして開始された。このプロジェクトは、「ふくしまの経験」を伝えるために、震災によって生み出された場所やモノを「震災遺産」として定義し、世界や次世代に伝えて遺すべき歴史資料として収集・保全を行っている。2014年に開始し、毎年3月11日を挟んで2か月間にわたり特集展『震災遺産を考える』を開催。毎年様々なテーマで展示をひらき、多様な資料からこの災害を読み取る試みを行っている。

昨年は「避難」をテーマとし、初公開となった富岡町災害対策本部跡の再現を行った。3月11日に富岡町文化交流センター学びの森の2階に設けられた災害対策本部は、翌日の全町避難により、あの日そのままの姿が残された。2015年に現地で行われた調査では、作成途中の応急危険度判定の用紙や、町の被害状況が記されたホワイトボードなど、机の上に残された資料の位置情報を細部に渡り図面化して収集。こうした調査によって、場所を移しても、まさに「あの瞬間」とも言うべき時を再現することができた。

災害によって生まれた場所やモノは、応急で一時的であり、復旧が進めば日常の生



活に戻り、そのまま残されていることは通常の災害時ではありえないことである。だが、「ふくしまの経験」は、このような時間差を生み出す、特殊な状況をつくり出している。普段見ることができない、しかも時間が止まったままの状態を再現することで、モニターの前こうにあるはずの災害現場が目の前に現れ、具体的な追体験が生まれるのではないかと追体験によって災害に対する我が事感を持つてもらうことが狙いの一つであるし、災害対応の検証だけではなく、今後の備えや事前の訓練に役立てることができないのではないかと考えている。

### 「時間」という課題

博物館では、警察車両の一部も展示した。大きく変形してしまった車両の部品は、津波に巻き込まれた後に海岸で発見され、同乗していた二人の警官の安否確認のために人為的にはぎ取られたのだという。津波による破壊と人間の力が残されている。展示した部品は保存処理を行い時間が止まっているが、車両本体は屋外で数年間展示したのち、町が建設するアーカイブ施設での展示・保存が決まったという。この震災遺産は「時間」が課題にな

ると考えている。

車両本体は警察署に隣接する公園に置かれ、ここで手を合わせてくれた人たちも多々いた。展示されている間も経過した時間や、公園に置かれて手を合わせた人たちの想いもこの警察車両には含まれている。さらに屋外で展示されたことで、保存処理をしたとはいえ錆も進行し、震災当時をそのままに伝える資料とは言い難い状態へと変化している。この車両の時間がどの時点で止まったのか、丁寧な説明が必要だろう。博物館と富岡の資料は、元は同じだったはずだが、違う境遇におかれたことで、今では別の意味を持ち始めているともいえる。

震災遺産は、どれも収集した時間で時が



止まっている。実際に8年が経過しこの間の記憶の空白が気になった。歴史として伝えていくべきなのに、災害時のことだけでこの資料が未来へ伝えるメッセージは充分なのだろうか。自然災害とそれに打ち克った人々の活動とが合わせ鏡となるはずなのだから、この不安は、きつと本来の時間の中にあっただであろう「人の物語」が欠如していることに起因しているのではないかと感じている。

### 「時間」によって現れること

2004年の新潟県中越地震を経験した前任地では、震災資料の保存や展示よりもその地で生きる人に注目して、山に暮らす人を紹介することが施設の役割でもあった。復興ビジョンが明確にあり、地域に暮らす人たちの持続可能性の獲得のために、最素朴と最先端を融合させ、光り輝く中越を目指す。そのため災害発生時を振り返るよりも、今生きているこの時間を表現することを大切にしたい。そのためモノの収集・保全はおろそかになり、展示に反映されたとは言い難い。

中越での事例をもう一つ紹介したい。旧山古志村で土砂災害による河道閉塞で水に沈んだ木籠集落があり、そこに残された水没した家屋を震災遺構として保存することが検討された。その際に震災遺構を残す際に積極的な保存ではなく、いわばそのままに放っておく「存置」として対応することとなった。地域の合意形成に時間がかかり、法的に積極的な保存ができなかったが、放置せざるを得ない状況ではあったのは間違いない。そして遺構の時間のある時点で止めなかったことで、外に野ざらしで存置していた遺構は、年を重ねるごとに無残な姿になっていった。でもこれは、毎年の雪の影響が大きく（実はそのことで災害を誤解する人もいた）、冬のこの地域のことを知る遺構ともなっていた。

この木造の建物は朽ちていくが、その対岸にある集落の暮らしでは、家が戻り田畑が実りを取り戻し、人々の暮らしが取り戻されていく。震災遺構とまちの復興が反比例するかのようである。時間を止めないことで、逆に復興の時間を示す資料となったのではないだろうか。

その後、この建物は積極的な保全とは言わないまでも、修理が施され延命することとなった。新築同様になった水没家屋は、見る人によつては時間の迷子になってしまう。そこに存在するということでは残されたが、大切なことがいくつもこぼれ落ちてしまったやうな気がしている。

福島でもいくつかの避難所となった現場が存置されたことで、その後多くの震災遺産を収集することにもつながっている。そのままにしておくことは、時間の経過を止めないことでもある。帰還困難区域内にあり避難所となった小学校では、人々の活動といったん離れ、閉ざされた空間でもあったので、時間の経過が緩やかだった。確かに埃は積もるし、日光が当たっていた物は色が抜けているモノもある。しかし、災害復旧に対応する中で、廃棄されてしまうはずの震災遺産の多くが残された経緯を知れば、存置するという選択は、災害対応時の選択として冷静な判断をするための重要な手段である。

資料を前にした時に、この資料に関わる人々が災害に立ち向かったのか、乗り越えたのか、それともくじけてしまったのかも「歴史」として必要だろう。収集した時に止まっている時間との空白を埋めて、現在へ少しでも近づける必要があるのではとも考えた。そのため前回の展示では南相馬市在住の写真家・大槻明生氏の協力を得て、復旧が進み変わりをゆく姿を撮影し続けてきた被災地の定点観測写真と、現在の状況を映した写真を並べ比較。そしてそこに震災遺産を加えて、時間の経過を表現する展示を試みた。

歴史に位置付けるのであれば、モノだけではなく災害を乗り越えてきた復興の歴史でも

あるはずである。人の活動を残さなければいけない。ここは現在も議論を重ねているところであり、震災遺産に関しても追跡調査を実施している。

### 今できるやるべきこと

「カリスマの神戸、アマチュアの中越、プロの東北」これは私が約10年間働いた公益社団法人中越防災安全推進機構安全推進機構の運営に関わられた澤田雅浩先生の言葉である。

神戸の阪神・淡路大震災は、大都市を襲った災害であり、ボランティアの活躍や被災後のコミュニティ問題、市民参加のまちづくりなどその後の我が国に与えた影響は計り知れない。ここで活躍された人たちは確かに時代を拓き、その後に続く国内の災害対応のみならず台湾への災害支援など、多くの先進事例が生まれた。

続く中越では、中山間地の大地崩壊ともいえる被害状況であり、過疎高齢化が進んでいた山間の集落ではその生活の持続可能性が問われることとなった。人口の少ない地方での災害であり、国の直接的な関与も少なく、柔軟に対応できる復興基金も準備されたことから、山の暮らしのプロである住民自ら復旧を進める姿も見られた。震災伝承の施設群は、

地域復興の主役である地域との話し合いを重ねた結果であり、専門家から見れば拙いかもしれないが、地域の人たちとその生活を取り戻すためにプロセスを大切にしてきた。

今東北の地では、震災後10年に向けて経験と教訓を伝える施設の整備が進み、国や専門家、プロによる復興が随所で進められている。アマチュアとしてこの地にやってきてしまった私として、主役であるはずの住民との接点も少なく、それをつくり出せずにいる自分の不甲斐なさを実感している。

福島には避難生活が続く故郷に帰ることができない人たちも多くいる。現在進行形である被災地において、まだ住民とともに振り返る時間ではないかもしれないし、復興を語る時期ではないのかもしれない。止まっている時間、進んでいく時間、様々な出来事を歴史に位置付けるために必要なことを考え続けることこそ、震災遺産に関わる博物館の役割だと考える。たぶん正解にはたどり着けないだろう。正解かどうかを決めるのは100年後に委ねることかもしれない。子や孫たちの世代に対して恥ずかしくない、今できるやれるべきことを追求しなければならぬと思っている。

次回の特集展『震災遺産を考える』では、南相馬市の半杭はんぐい牧場の協力を得て作成した牛舎の柱のレプリカ展示を予定している。これは、原発事故による急な避難の際、牛舎の柱

につながれて置き去りにしてしまった牛たちが、食べるエサが無くなり餓死するまでかじり続けた柱である。所有者である半杭一成氏は起こってしまった災害に対して誰に對して恨みを持っているわけではなく、ただ自分が行ってしまった置き去りにする行為を深く悔いている。このことを忘れないために、牛を飼わなくなった牛舎の建物を残し、無念さが残る牛舎の柱のレプリカ作成に参加していただいた。

時間を止めることを選択したこのレプリカは、今年京都で開催された『ICOM KYOTO 2019 (国際博物館会議 京都大会)』で披露した。その際には事実を伝えるだけではなく「生と死を考える」投げかけを行う資料であると多くの人たちから意見をいただいた。

今後は、博物館としてこれら震災遺産を常設展示することを考えている。歴史として扱うためにも通史展示の中に位置付けたい。福島はエネルギー供給源であり、原子力発電所以前から、只見川沿いのダムによる水力発電の多くは関東への電力供給をしているという。大熊町は電力以前にも町で生産した木炭の多くを関東へと運んでいた。震災遺産を災害の事実を伝える資料としてではなく、福島の歴史と人々の活動ともつなげるべきではないかと考えている。「被災地」としてだけではなく、近代の日本で福島が担った役割を丁寧に

説明することで見えてくる東日本大震災の姿があるのではないか。

もう一方で、災害を語る資料だからこそ、学校が行う防災学習に寄り添い、常設展示ができたその時には学校がすぐに利用できる体制を双方に備えておきたい。そこへ向けて特集展を利用し様々な手法や、展示に合わせた講座など常に新しいことを意識しながら、今年は特に、震災遺産に関係する「人」にインタビューし、あの日から資料的には空白と感じている今をつなぐ展示を予定している。あの日を経験したことで、この8年間を振り返り、さらに少しでも未来を語れる場としたい。

社会教育施設としての役割はもちろんであるが、震災遺産に向き合うことで、福島の未来を創ることが博物館の役割であると考えている。

## わたしの東北の風景

今号に参加してくださった方々にまなざしをわけていただきます。

震災後、東北でどのような経験をしましたか？

### 小森はるかさん

静岡県静岡市生まれ、宮城県仙台市在住

昨年末から仙台在住の美術家・青野文昭さんを撮影するようになった。

青野さんは「さとう衣料店」をモチーフにした制作に取り掛かっていた。さとう衣料店は、青野さんの奥さん・由美子さんの実家だ。岩手県宮古市くわがさき鍛ヶ崎地区にあったが、8年前の津波で流され、いまはまちなかに移転。青野さんは流出したものを拾い集め、それらを用いたお店の「修復」を試みていた。

わたしは店の跡地を撮影したいと思い、鍛ヶ崎へ向かった。教えてもらった店の住所に近づくと、以前に同じ道を通った記憶がふいに蘇る。偶然にもそこは、震災後にはじめてボランティアをしに行ったときに訪れていた場所であった。

8年前、「鍛ヶ崎」という地名も知らず、さとう衣料店の存在にも気づかず、わたしは歩きながらカメラを回していた。瓦礫をどろどろ撮っていいかわからなくて、騒がしく港を飛び回っていたかもめや、山に残っていた松の木を撮ったのを覚えている。知らない港町は、由美子さんのふるさと  
の風景だった。

大きな防潮堤ができ、瓦礫はどこにもない。あの時とは結びつかない風景の中、いまでも静かにかもめたちが飛んでいる。枯れてしまったのではないかと思つた松も生きていた。防潮堤を潜ると海の匂いがして、震災後にまちに漂っていた匂いを思い出す。仙台にある青野さんのアトリエにも、ものに染み込んだ同じ匂いが残っていた。



港の風景(岩手県宮古市鍛ヶ崎／2019年)

## 小川智紀さん

東京都小平市生まれ、神奈川県横浜市在住

パンツをするする脱いで同行者たちは風呂に入り、あつという間に出てくる。「運転するの、くたびれたよ」「それでもホテル予約できて良かったなあ」と話をしながら寝室へ向かっていく。

2011年春の連休に、仲間たちと車で乗り合って東北へ出かけた。最初の宿泊地である仙台・国分町で、私は生まれて初めて男性専用カプセルホテルに泊まった。荷物はすべてロッカーへと張り紙にはあるものの、枕元に置くべき翌日の資料や、浴室に持参する携帯電話機を荷物から除いておくなど、ビギナーには段取るのが難しい。その日、初対面で話を聞いた舞台関係者の顔を思い出し、彼らの語る被災状況を反芻しながら、私は呆然とロッカー室の椅子に座っていた。

そこで唐突に救急部隊が入ってきて、浴室はどこかと探している。

その後には警察官の三人連れも。誰かがお風呂でのぼせてそのまま昇天したのだろう。詳細を誰かに聞く気力も起きないまま、そのうちものものしい空気が去る。私ものろものろパンツを脱いで泡風呂へ。泡は右から出たり、斜め下から出たりしていた。

天井の低い蚕棚に収まり、明日の河北新報には今日の話題が載るだろうかと考えた。載らないよな。連日数千人単位の被災者を数えるので忙しいだろうから。大数としてではなく、一コの「生」と向き合うのはどうしたらいいんだろう。そもそも名も顔も知らない死んだ男のパンツはどうなるのだろう。考えるうちに眠くなった。



デスクから見た国分町のカプセルホテル(神奈川県横浜市西区/2019年)

## 筑波匡介さん

新潟県新潟市生まれ、福島県会津若松市在住

「何もなければ災害もないところだよ」会津に来てご近所さんからかけられた言葉である。それも複数の人たちから。だがどの被災地にも「まさか私がこんな目に遭うとは……」という人たちは少なくない。油断が災害を大きくする。「何もなければ危機意識もないところ」では危ういのである。

新潟では水害に始まり、中越地震、豪雪、中越沖地震と続けて災害に襲われた。そのため防災に関わることは「砂漠で水を売る」かのように多くの人たちに期待され、また災害対策・防災教育に関わる多くの仲間がいた。会津で防災を進めることは「南極で氷を売る」ようにも思えてくる。

先日、町内清掃があった。上は80歳、下は10歳、ほぼ全世帯からの参加だった。用水路のごみを拾い、沿道では草刈りを分担し

て黙々と進める。作業中の世間話も各世帯の情報交換になっていくようだ。誰かが細かい指示をしなくてもそれぞれ顔を見合わせ、自分ができる作業に取り組んだ。地域コミュニティは会津の強さの一つのようである。

互いに顔を見知っていることは災害時の大きなセイフティネットになる。防災活動の基本はできているように思う。ここにさらには地域と学校が連携した防災活動を提案し、そこに博物館も加わって、子供たちの生きる力を育む教育活動を展開したいと考えている。



清掃中の様子（福島県会津若松市／2019年）

## 嘉原 妙（編集部）

兵庫県宝塚市生まれ、東京都江東区在住

綺麗に剪定された木々、これから白い花をつけようと育つ蕎麦の葉、はちきれんばかりにぷっくりと種を抱えながら風に揺れる菜の花。その近くには小さな小屋があり、農機具や肥料がきちんと整理整頓されて置かれていた。その小屋の佇まいは、かつて私の祖父が建てた畑のものによく似ていた。そのせいか、せっせと農作業に精を出していた祖父の姿と、この小屋の持ち主である長正増夫さんの日々の営みが重なって見えた。それは今年、初めて訪れた飯館村の風景だった。

その日は、陽の光が穏やかに降り注ぎ、外を



長正増夫さんの小屋（福島県相馬郡飯館村／2019年）

歩いていると初夏の風がそよそよと頬を撫でていく心地よい天気だった。そうして気持ち良い風が吹くたびに、ついさっき車の中から見たフレコンバッグの山や、帰還困難区域の方角を示す看板が置かれた道の光景が頭に浮かんだ。

ふたつの風景の間でゆらゆらと思いを巡らせていると、ふと5月に東京で見た加茂昴の絵画「[窓](#)」を思い出した。福島県の帰還困難地域の立入禁止エリアに設けられたフェンスをモチーフに描かれた作品で、作家はフェンスの境界線を吹き抜ける「風」を描こうとしたのだという。フェンスの前には人のシルエット、その周りには木漏れ日のような光が揺れていた。

飯館村に吹く風を受けながら、いま、この場所からは見えない境界線の風景とその先の風景を想像した。そして、もう一度、いま、目の前に広がる風景を見つめた。そこには、ここで生きようとする人の息づかいが宿る風景が、少しずつ、確かに広がっていた。

区切りというものは暦通りではなく、ある必然性のもとで訪れるのだろうか。2019年2月に小森はるか+瀬尾夏美『ほぼ8年感謝祭 あわいの終わり、まちの始まり』を訪れたことが本号の起点となった。

震災後のふたりの作品を公開していた複数の会場を巡り、せんだいメディアテークで初公開となった『二重のまち／交代地のうたを編む』（以下、交代地）の上映会に参加した。「あわい」の終わりに、継承の「始まり」をつくる。そんな態度をもつ『交代地』にふれたとき、まるでスイッチが切り替わるように、震災後の時間の流れが変わったように思えた。

記録なのか、表現なのか。震災後に繰り返し問われたことがこの作品には溶け込んでいた。ほとんど映像には姿を現さない小森+瀬尾の手つきを感じつつも、陸前高田を歩き、

わからなさに呆然とする旅人たちの姿を見ながら、問いが二項対立のように思えたのは、震災という出来事の語り手と、つくり手の姿を重ねてみていたからなのかもしれない。

他者と共有可能なかたちをもった表現はつくり手から離れ、次の語り手が受け渡せる媒介になりうる。記録であり、表現である。そう語り出すことだってできるだろう。震災後の土壌が育んだ生態系のなかで、さまざまな表現が蠢くように生まれ続けている。わたしたちは、どう向き合っていくのか。いまこそ新たなきき手や語り手が必要なのだと思う。

数年前、震災当時にせんだい演劇工房10 | BOX工房長だった八巻寿文さんの活動の背景に、1995年に発足した「うぶすな美術研究会」での議論があったことを知った。避難所等へ子ヤギを派遣する活動は、東北で何をつくるか、という研究会での問いかけの延長線上にあった、東北の自然とヤギの相性に対する確信があったそうだ<sup>[\*]</sup>。

目の前に現れている実践には、その思考の根をつくるような経験がある。他者からは因果関係が見えにくい。本人も気づかないほど後景にある経験、当然のように身体に染みみている考え方。それは、ひとりの力量だけでなく、その人が生きた歴史のなかで交わした距離の近い誰かとの応答関係からつくられるのではないだろうか。

では、いま、そうした経験を、どうつくればいいのか。2019年2月に八巻さんを再訪し、そう訊ね、一蹴された。それはつくるもんじやない、うまれるものだ、と。

「せざるをえない」からはじまってしまったこと。はつきりとわからないけれど、いま誰かと共有したいと感じさせるもの。それを追うしかない。これまでも行き先に迷うとき、八巻さんを訪ねてきた。そうして、いつも立ち返るべき原点を確認することになる。いまだ消化しきれない言葉もたくさんある。

思えば震災後の東北は、いつも誰かに導かれ、誘われながら歩いてきた。やるべきこと、やったほうがいいこと、やってはいけないこと。いま何を問うべきかを見定めることができた。ひとりでは手探りなことも、誰かと歩くととはつきりと見えてくることがある。

それは物理的な出会いだけではない。ひとつのふるまいに込めた態度は、たとえ遠くにおいても連鎖する。意識はない誰かの実践に励まされ、肌感覚を掬い上げるような言葉に共感する。波紋のように広がる個々人の振幅を、震災後に閾値を超えたSNSは可視化していたのだろう。

2019年10月に岩手県釜石市を訪れた。津波の甚大な被害を受けた鶴住居地区では、ラグビークラウドカップに向けて建設されたスタジアムが稼働していた。電車が復旧し、駅もできた。メモリアル施設「いのちをつなぐ未来館」では団体見学の中学生に向けて、当時は同年代だった語り手が体験談を語っていた。

NPO法人@リアスNPOサポートセンターの川原康信さんが、釜石から陸前高田まで車で連れていってくれた。三陸道が開通し、沿岸部のまちの距離がぐんと近くなったのだという。かつてリアス式海岸沿いを蛇行し、峠を越えた道のりも、いまは巨大な高架上の道路とトンネルを使い、まっすぐに走り抜けられる。

陸前高田松原津波復興祈念公園に向かう。園内には奇跡の一本松、複数の震災遺構が残されている。中心には東日本大震災津波伝承館と道の駅がある。駐車場には何台も大型バスが停まっている。来館者は1週間足らずで1万人を超えたそうだ。海岸まで直線に延びる道を歩く。途中に献花台がある。来年から追悼式は、ここで行われるのだろう。ふりかえると伝承館と道の駅を左右に備えた水平に細長く真っ白な建物が、剥き出しの地表が目立つ地面に載っている。国営の追悼・祈念施設として整備が進む、広大な敷地を歩きながら、もう何年も前に訪れた広島平和記念公園を思い出した。遠くにきこえる音に『交代

地』の映像がよぎる。

東北の風景は、静かに、しかし、急速に変化している。同時に、わたしたちは、すでにいくつもの経験と並んで歩いているのだろう。異なる経験と出会い直し、それを分かちもつ方法を探ることは、震災の経験を受け渡す糸口になるのだろうと思う。

\*「八巻寿文(せんだいメモリアル3・11メモリアル交流館館長)「note2 東北から思考する」  
「6年目の風景をさく 東北に生きる人々と重ねた月日」アーツカウンシル東京 2016年

## 参加者一覧

### 宮地尚子

〔精神科医〕

1961年兵庫県神戸市生まれ、東京都に在住。1986年京都府立医科大学卒、1993年同大学院修了。一橋大学大学院社会学研究科地球社会研究専攻・教授。著書に『ははがうまれる』（福音館）、『環状島Ⅱトラウマの地政学』（みすず書房）ほか。

### 宮下美穂

〔NPO法人アートフルアクション事務局長〕

1963年山梨県富士吉田市生まれ、東京都小金井市在住。2011年から小金井アートフルアクションに携わる。市民、インターン、近隣大学の学生や教員など、多様な人々のノウハウや経験が自在に活かし合われ、事業が運営されている。

### 小森はるか

〔映像作家〕

1989年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。映画美学校修了。東日本大震災後、瀬尾夏美（画家／作家）とアートユニットとして活動を続ける。主な作品に「息の跡」（2016年）、「空に聞く」（2018年）など。

### 萩原雄太

〔演出家〕

1983年茨城県水戸市生まれ、東京都北区在住。劇団「かもめマシーン」を主宰。2011年夏、国道6号線の路上で「福島でゴドーを待ちながら」を上演。2018年、ベルリンで開催された「Theaterreffen International Forum」に参加する。

### 岩根愛

〔写真家〕

1975年東京都中野区生まれ、渋谷区在住。1991年単身渡米、ペトロリアハイスクールに留学。帰国後、アシスタントを経て1996年に独立。2018年、初の作品集『KEEP UKA』（青幻舎）を上梓。第44回木村伊兵衛写真賞受賞。著作『キプカへの旅』（太田出版）、『ハワイ島のボンダンス』（福音館）。

### 川延安直

〔福島県立博物館学芸課長〕

1961年神奈川県藤沢市生まれ、福島県会津若松市在住。筑波大学芸術学研究科修了。岡山県立美術館学芸員を経て現職。福島近代世絵画を担当する傍ら、県内の「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト」「ライフ

ミュージアムネットワーク」等の文化艺术事業に関わる。

### 小林めぐみ

〔福島県立博物館学芸員〕

1972年福島県福島市生まれ、会津若松市在住。専門は美術工芸。2010年より3年間にわたって福島県立博物館事務局で行った「会津・漆の芸術祭」を企画運営。その経験を踏まえて2011年以降は、福島において震災と原発事故に向き合ういくつかのアートプロジェクトに携わる。

### 小川智紀

〔認定NPO法人S.T.Sポット横浜理事長〕

1976年生まれ。文化芸術と教育・まちづくり・福祉分野の連携を模索している。NPO法人ジャパン・コンテナボラリーダンス・ネットワーク理

事、NPO法人アートNPOリンク理事、愛知大学文学部非常勤講師。

### 筑波匡介

〔福島県立博物館学芸員〕

1973年生まれ。新潟県旧山古志村や柏崎市で地域振興や市民活動を核とした震災伝承施設の運営に関わり、人づくりや地域づくりから地域復興を考えている。現在は学校と連携した博物館利用の手法を探っている。

## Art Support Tohoku-Tokyo

Art Support Tohoku-Tokyo (ASTT) は、「東京緊急対策2011」の一環として開始した、東京都が公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京と共催し、東日本大震災の被災地域(岩手県、宮城県、福島県)のコミュニティに対して、現地の団体と協働してアートプログラムを実施する事業です。

都内で展開する「東京アートポイント計画」の手法を用いて、現地のアートNPO等の団体やコーディネーターと連携し、地域の多様な文化環境の復興を支援。被災地域のコミュニティを再興するため、さまざまな分野の人々との交流プロセスを重視したアートプログラムや、その実施を支える仕組みづくりを行っています。  
<http://asttr.jp>

## 東北の風景をきく FIELD RECORDING vol.03

### 特集：経験を受け渡す

Art Support Tohoku-Tokyo

編集長 佐藤李青(アーツカウンシル東京)

編集 川村庸子

嘉原 妙(アーツカウンシル東京)

デザイン 内田あみか

反訳 薄木利晃(PHILOSOKOS Co.,Ltd)

印刷 株式会社山田写真製版所

監修 森 司(アーツカウンシル東京)

発行 2020年1月17日 第1刷発行

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

〒102-0073 東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス8階

TEL 03-6256-8435 FAX 03-6256-8829 <https://www.artscouncil-tokyo.jp>

©アーツカウンシル東京

正式な土地使用と、無断使用の間、夕暮れになる。創作と作品の間、作者と作品の間、さらに天と地の間、存在と否定の間、現実と記録の間。すべての間に「と」の字がある。昼と夜。「昼」と「と」と「夜」……98個の「と」と、一個の「昼」と、一個の「夜」。「昼」と「夜」との間には「と」という茜色の関係がある。茜色の「と」は、仮に一点であるとしてみよう。崖淵のアパートが台風による土砂崩れで夕方、川底に落ちた。仕事を終えて家に帰ろうとした男のアパートは無かった。落ちる前のアパートと落ちた後のアパートでは、男にとってあまりに異なるので、早速失われた「と」を求めて、土砂の最後の一粒を観察してみる。傾いてゆくアパート、失われゆく生活、茜色の夕方、はたして最後の一粒を一億個発見した。私は何者だ。私と名、私と母、私と君。「と」を集め、さらに「私」は無い。



**TokyoTokyo**  
FESTIVAL